

2015

履修要項

文学部

Faculty of Letters



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

2015年度

履修要項

文 学 部

(2007年度以降入学生)

2015年度に配布する『履修要項』は卒業まで使用いただきます。今回の履修登録を終えても大切に保管し、今後も活用してください。

2016年度以降は、新入生以外には、『履修要項』を配布いたしません。

また、学年暦や年度ごとに発生する変更等については、履修説明会等を通じてお伝えします。

龍 谷 大 学

《目 次》

龍谷大学の建学の精神、龍谷大学の教育にかかる基本方針、文学部の教育理念・目的、各学科・専攻の教育理念・目的	5
学位授与の方針	7
教育課程編成・実施の方針	8
学生支援の方針	10
はじめに、ガイダンス、大学からの連絡・通知の掲示	11
文学部教務課窓口取扱時間	13
度牒（写し）の提出について	13
学年暦について	13
第1部 履修の心得	15
I. 履修をはじめるとにあたって	16
1. 長期的な履修計画を立てること	
2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
4. 既修得単位の認定について	
II. 教育課程（カリキュラム）の編成方法	17
1. 授業科目の区分	
2. 必修科目、選択科目	
3. クラスの編成	
4. カリキュラム概念図	
III. 単位制度と単位の認定	20
1. 単位制度	
2. 単位とは	
3. 単位の認定	
4. 履修登録制度	
5. 履修登録要件	
6. 授業科目の履修	
7. 履修辞退制度	
8. 授業時間	
9. 成績評価	
10. 筆答試験	
11. 筆答試験時間	
12. レポート試験	
IV. 授業科目の開設方法	30
1. セメスター制	
2. 授業科目の開設方法	
3. 学期完結型授業科目の開講方式	
4. 授業科目と授業テーマ	
5. 先修制	
6. グレイドナンバー制	
7. GPA制度による履修指導	
V. 履修制限	35
VI. 卒業	37
1. 卒業の要件	
2. 卒業論文	
3. 卒業の時期	
第2部 カリキュラム（教育課程）	39
I. 教養教育科目（共同開講科目（2007年度入学生））	40
1. 教養教育とは	
2. 「仏教の思想」について	
3. 外国語科目について	
4. 教養科目について	
5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録について	
6. 日本語科目等（留学生対象科目）の履修について	
7. 教養教育科目開設科目一覧	
II. 専攻科目	70
■学科・専攻別開設科目一覧	71
・真宗学科	
・仏教学科	
・哲学科哲学専攻	
・哲学科教育学専攻	
・臨床心理学科	
・史学科国史学専攻	
・歴史学科日本史学専攻	

・史学科／歴史学科東洋史学専攻 ・史学科／歴史学科仏教史学専攻	
・日本語日本文学科 ・英語英米文学科	
■ 選択専攻科目開設科目一覧	124
1. 社会活動ボランティア 2. 協定型インターンシッププログラム	
III. 随意科目	134
IV. 大学コンソーシアム京都「単位互換科目」および「インターンシップ・プログラム」 について	135
V. 放送大学科目の受講について	139
1. 履修方法および単位認定等について	
2. 放送大学への出願および本学での履修登録について	
3. 龍谷大学以外での学習方法 4. 出願から成績評価までの流れ	
VI. 自由選択コース	143
第3部 カリキュラム（教育課程）〈諸課程科目等の履修方法〉	147
1. 教職課程	
2. 学校図書館司書教諭課程	
3. 図書館司書課程	
4. 社会教育主事課程	
5. 博物館学芸員課程	
6. 心理士関係認定資格取得基礎課程（認定心理士受験資格）	
7. 本願寺派学階課程	
8. 本願寺派教師資格課程	
9. 社会福祉主事課程	
★特別研修講座・各種講座・試験	167
第4部 学生生活の手引き	169
I. 窓口事務	170
1. 届書・願書および各種証明書 2. 各種証明書の交付について	
3. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて	
4. 教員との面談・オフィスアワー	
II. 授業休止の取り扱い基準	175
1. 全学休講とする場合 2. 授業の開始基準 3. その他の注意事項	
III. 学籍の取り扱い	177
1. 学籍とは 2. 学籍簿 3. 学生証 4. 学籍の喪失 5. 休学と復学	
6. 修業年限 7. 再入学 8. 転入学 9. 9月卒業について	
IV. 留学	182
1. 交換留学 2. B I E Program留学 3. 私費留学 4. 短期留学	
5. 個人留学(休学して留学する) 6. 交換留学・私費留学における単位認定	

V. 心身ともに健康な学生生活を送るために～保健管理センターの利用について～	189
1. 保健管理センターについて	
2. 定期健康診断について	
3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について	
4. 保健管理センターの利用について	
5. 診療所について	
6. 学生相談（こころの相談室）について	
7. 健康増進のための学習会やイベントについて	
VI. 大学院文学研究科・実践真宗学研究科について	192

〈付録〉

アカデミック・リテラシー・ルーブリック	195
卒業論文ルーブリック	197

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

文学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。

各学科・専攻の教育理念・目的

○真宗学科

親鸞によって開顕された浄土真宗の教義を、浄土教理史・真宗教義学・真宗教学史・真宗伝道学の4分野にわたって探究し、広い視野に立って真宗教義の真理性を明らかにするとともに、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

○仏教学科

インド・中国・日本等の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を「アジアの仏教と文化」「日本の仏教と文化」の2つの視座から学ぶことによって専門的知識の修得と論理的洞察力の涵養を図り、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

○哲学科哲学専攻

哲学の歴史を深く学び、他者との対話によってあらゆる物事の本質を考えるとともに、現代の諸科学や社会の動向をも吟味しつつ、哲学的・倫理的・宗教的諸問題の解決に寄与する、論理的洞察力に富んだ人間を育成することを目的とする。

○哲学科教育学専攻

深い人間理解に基づいて、教育の本質・方法や社会・文化との関係、発達・成長・学習の心理学などについての基本的な考え方・見識を養い、人間本来の生き方や発達のメカニズムなどを追究して、生涯学習社会における実践的課題に応えられる人間を育成することを目的とする。

○臨床心理学科

社会的に解決困難な心理的課題に対して、臨床心理学を基礎とした対人援助のためのコミュニケーション・スキルを身に付けることで具体的な解決のための方策を構築し、現代社会が抱える心理的課題に対応できる人間を育成することを目的とする。

○歴史学科日本史学専攻／史学科国史学専攻

日本史の各時代・領域に関する教育・研究を通して、専門知識・技能を修得し、併せて批判的精神と確かな歴史認識をもった歴史的主体として、現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

○歴史学科東洋史学専攻／史学科東洋史学専攻

中国をはじめ、アジア諸地域の歴史・文化・宗教・言語に関する専門的な知識と技能を修得し、明確な歴史認識をもち、広い視野に立ってアジア全体を深く洞察できる人間を育成することを目的とする。

○歴史学科仏教史学専攻／史学科仏教史学専攻

歴史的な視点に立って、仏教が、それぞれの時代・地域の中でどのように受け入れられ展開してきたのかを考察することにより、歴史的主体として現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

○日本語日本文学科

日本語の正しい理解力、日本の言語文化に関する専門的読解力、論理的思考力、および表現力を修得し、「ことば」によって成り立つ社会の持続的発展に主体的に貢献できる人間を育成することを目的とする。

○英語英米文学科

英国・米国をはじめとする英語圏に関する言語・文学・文化についての知識を修得し、広い視野に立って英語圏地域を深く洞察する能力を身に付け、国際化する現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

学位授与の方針 [学士 (文学)]

文学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

注) 【2015年度入学生】【2014年度以前入学生】と記載されている事項以外は全学年共通です。

【学生に保証する基本的な資質】

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 人間社会の根本を見つめるために、「言語(ことば)」の持つ力を深く理解することができる。
- テキストの正確な読解に基づいた、人文学の幅広い教養を身につけている。
- 幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。
- 【2015年度入学生】幅広く社会全体を見渡す視野を持ち、現代社会において何が問題であるかを認識することができる。

(思考・判断)

- 人間や社会の諸問題について主体的・積極的に判断し、対応できる。
- 課題の探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけている。
- 【2014年度以前入学生】幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。
- 【2015年度入学生】幅広い分野の知識・理解をもとに、論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。

(興味・関心)

- 人文学の知に基づいて、人間社会の営みに対する問題意識を持つことができる。
- 【2014年度以前入学生】人間とそれをとりまく環境について、探求心を持って具体的な課題設定ができる。
- 【2015年度入学生】人間とそれをとりまく環境について、探求心を持って具体的な課題を設定することができる。
- 【2015年度入学生】言語の学修を通じて、世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できる。

(態度)

- 人間社会の諸問題に対して、人文学の知に基づいて積極的に解決しようとする姿勢を持つことができる。

- 【2014年度以前入学生】多様な価値観を認めつつ、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。
- 【2015年度入学生】多様な価値観を認め、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。
- 【2014年度以前入学生】外国語を自律的に学習する態度を身につける。
- 【2015年度入学生】他者との交流や異なる価値の受容を通じて、とらわれがちな見方を解放し、他者との協働により自己を客観視することができる。
- 【2015年度入学生】自律的に学習し続ける態度を身につけている。

(技能・表現)

- 日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝えるための方法を習得し、実践することができる。
- 情報及び情報手段を主体的に選択し、活用するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。
- 【2014年度以前入学生】英語を媒介とした知的情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力を実現する。
- 【2015年度入学生】知的情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
- 【2014年度以前入学生】任意の外国語一つ（英語を除く）について、基本レベルの聞き取り、読み書き、口頭表現ができる。

【学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法】

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

教育課程編成・実施の方針

注)【2015年度入学生】【2014年度以前入学生】と記載されている事項以外は全学年共通です。

- 「仏教の思想A・B」(各2単位)合計4単位を、1年次配当で全学必修科目として展開する。また、「仏教の思想A・B」を履修した学生のより高度な知的要求に応える仏教関連科目として、「歎異抄の思想I・II」(各2単位)を2年生以上に提供する。
- 【2015年度入学生】「仏教の思想」科目として、「仏教の思想A・B」(各2単位)合計4単位を、1年次配当(第1・第2セメスター配当)で全学必修科目として展開する。
- 高い倫理性を培うために、専攻科目としては「倫理学概論」「宗教学概論」「人権教育論」等を通して教育を行う。
- 多面的・総合的な人間理解をめざして、7学科5専攻を設けて、それぞれの学問領域を系統的に学修できるように、1年次から専門科目を配置するなどして体系的なカリキュラムを展開する。また、専攻を置かない学科および哲学科教育学専攻では、学科・専攻内コースを設け、3年次から専門的な学問領域をより深く学修できるようにする。
- 【2014年度以前入学生】人文・社会・自然およびスポーツの分野に属する科目を幅広く開講し、最低16単位を卒業要件として履修させる。

- 【2015年度入学生】教養科目として、人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目の3系列とスポーツ科学系科目に属する科目を幅広く開設し、幅広い教養を身につける基本とする。
- 【2015年度入学生】教養科目には基幹科目を設け、基幹科目のうち、人文科学系・社会科学系・自然科学系の各分野からそれぞれ2単位以上を選択必修科目として展開する。
- 【2014年度以前入学生】必修外国語科目として、英語、初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・コリア語）の計6つの言語から、1つもしくは2つの言語を選び、12単位を卒業要件として履修させる（ただし、2つの言語を選択する際は、必ず英語を含むこととする）。なお、留学生については、「日本語」および「留学生のための英語入門」を12単位に含めることができる。
- 【2015年度入学生】言語科目として、英語および英語以外の複数の外国語科目を開設する。留学生にはこれらに代わる日本語科目を開設する。
- 学生自身が明確な問題意識や目標を持って、主体的に履修設計をし学修できるようにするために、フリーゾーン（24単位）を設定するなどして柔軟な履修方法を実施する。
- 学生の多様な興味・関心を喚起し、学修意欲を促進するために、指定された科目群のうちから決められた数の科目を任意に選択して履修する「選択必修科目」や、どの科目を履修するかはすべて学生の選択に任せられている「選択科目」を開講する。
- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。
- 各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。
- 各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。
- 1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。
- 「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」（1・2年次）を開講する。
- 学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」（3年次）および「演習Ⅱ」（4年次）を開講する。
- 人文学の学修の多様化・高度化を支援し、パソコン等情報機器を活用した調査、データの収集と整理、画像処理、情報発信、文献検索等のスキルを習得するために、情報教育関連の科目を開設する。
- 人文学の知に基づく問題解決に取り組む姿勢を学ぶために、現場での実習を重視した「臨床心理学実習」「文化財実習」「考古学実習」「博物館実習」や「社会活動ボランティア」等の「実習」系科目を開講するほか、インターンシップ・プログラムも展開する。

学生支援の方針

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・ 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・ 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・ 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間的成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

はじめに

この履修要項は、龍谷大学文学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。みなさんは、この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、詳細な履修に関するガイダンスが行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば文学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

このガイダンスは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。

これらの連絡は、次の掲示により行われるので十分注意しなければなりません。

大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活をおくるために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除き、すべて掲示で行われます。掲示を見落としたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

〈各種掲示内容別の掲示板とその位置〉

掲示板の名称	掲示の内容	設置場所
文学部掲示板	履修方法、休講・補講情報、定期試験、レポート作成等、教育課程に関すること	深草学舎：6号館(紫英館)東側
		大宮学舎：西翼
教職センター 掲示板	教職課程に関すること	深草学舎：6号館(紫英館)東側
		大宮学舎：西翼
学生部掲示板	奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること	深草学舎：樹林
		大宮学舎：西翼
キャリアセンター 掲示板	就職、資格講座等に関すること。	深草学舎：5号館(紫明館)1階 キャリアセンター
		大宮学舎：西翼
教学部掲示板	履修方法等、教育課程に関すること。 (特に教養教育科目(共同開講科目)等に関して)	深草学舎：6号館(紫英館)東側
グローバル教育推 進センター掲示板	国際交流・国外留学等に関すること。	深草学舎：6号館(紫英館)東側

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報については、上記掲示板以外に本学のポータル上でも公開しています。アクセス方法等については、以下の事項をご参照ください。

(1) アクセス方法

〈パソコン用〉

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルサイト (学内者向け)」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

〈携帯電話用〉

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲：本学開講科目

(3) 公開の期間

〈パソコン用〉

休講：休講日を含めて30日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更 (臨時)：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

〈携帯電話用〉

休講：休講日を含めて3日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更 (臨時)：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更 (恒常)：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

(4) 注意事項

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず文学部掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。

文学部教務課窓口取扱時間

窓口取扱時間は次のとおりです。

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	8：45～17：15	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11：30～12：30を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10：30～17：15	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

※試験期間等における臨時窓口取扱時間は、掲示板で連絡します。

大宮文学部教務課分室の窓口取扱時間

曜日等	取扱時間	備考
月～金	18：00～20：15	
土	8：45～17：15	ただし、11：30～12：30（休憩時間）は窓口業務は行いません。
日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

※授業期間以外は閉室します。

※窓口取扱時間を変更する場合は、掲示板で連絡します。

度牒（写し）の提出について

対象者：伝道者推薦入学試験による入学した学生

- 1) 入学後に得度を受けた者は「度牒（写し）」を文学部教務課窓口へ提出してください。
- 2) いまだ得度を受けていない学生は、2年次修了までに必ず得度を受け、「度牒（写し）」を文学部教務課窓口へ提出してください。
- 3) 西本願寺の得度習礼日程の内、8月上旬に実施される得度習礼が本学の第1学期定期試験期間と一部重なります。そのため、8月上旬の得度習礼を申し込んだ場合、本学の定期試験を受験できない可能性がありますので、8月上旬の得度習礼の申し込みは避けてください。

学年暦について

各年度の時間割表、大学ホームページまたは学生手帳で確認してください。

〈文学部〉

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるにあたって	16
1. 長期的な履修計画を立てること	16
2. 系統的に科目を履修すること	16
3. 自主的に学修をすること	16
4. 既修得単位の認定について	16
II. 教育課程（カリキュラム）の編成方法	17
1. 授業科目の区分	17
2. 必修科目、選択科目	17
3. クラスの編成	17
4. カリキュラム概念図	18
III. 単位制度と単位の認定	20
1. 単位制度	20
2. 単位とは	20
3. 単位の認定	21
4. 履修登録制度	21
5. 履修登録要件	22
6. 授業科目の履修	23
7. 履修辞退制度	23
8. 授業時間	25
9. 成績評価	25
10. 筆答試験	26
11. 筆答試験時間	29
12. レポート試験	29
IV. 授業科目の開設方法	30
1. セメスター制	30
2. 授業科目の開設方法	30
3. 学期完結型授業科目の開講方式	31
4. 授業科目と授業テーマ	32
5. 先修制	32
6. グレイドナンバー制	33
7. GPA	33
V. 履修制限	35
VI. 卒業	37
1. 卒業の要件	37
2. 卒業論文	37
3. 卒業の時期	38

I. 履修をはじめるとにあって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」（2007年度入学生は「共同開講科目」）と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんはこれら二つの科目群から卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてる際には、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、「演習」でのテーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われて、はじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

4. 既修得単位の認定について（1年次入学前に大学・短期大学に在籍されていた方）

学則第38条にもとづき、1年次の年度始めまたは2年次の年度始めに願い出た者に限り、文学部の認定基準にしたがって、出身大学で修得した科目を、本学文学部の科目として認定することがあります。受付期間・手続方法等については、深草学舎の文学部掲示板でお知らせします。不明な点は、文学部教務課窓口で相談してください。

II. 教育課程（カリキュラム）の編成方法

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、その内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

〈2008年度以降入学生〉

・教養教育科目・学部専攻科目

〈2007年度入学生〉

・共同開講科目・学部専攻科目

2. 必修科目、選択科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

「必修科目」とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

「選択必修科目」とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

「選択科目」とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

「随意科目」とは、主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。随意科目は、それゆえ教養教育科目（共同開講科目）、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

3. クラスの編成

(1) クラスとは

クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。

(2) クラスの種類

クラスには次の種類があります。

- ① 必修外国語クラス
- ② 学部専攻教育クラス（基礎演習等）

これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

4. カリキュラム概念図

(1) 2014年度以前入学生

〈文学部全体の概念図〉（網掛けは教育学専攻の学生の履修を例にしたもの）

卒業要件124単位					
必修専攻科目 44単位 (臨床心理学は50単位)	選択専攻科目 24単位以上 (臨床心理学は18単位以上)	フリーゾーン 24単位	教養科目 (プログラム科目) 16単位以上	外国語 12単位以上	仏教の思想 4単位
真宗学科開設科目 仏教学科開設科目 哲学科哲学専攻開設科目 哲学科教育学専攻開設科目 臨床心理学科開設科目 史学科国史学専攻／開設科目 歴史学科日本史学専攻開設科目 史学科／歴史学科東洋史学専攻開設科目 史学科／歴史学科仏教史学専攻開設科目 日本語日本文学科開設科目 英語英米文学科開設科目	真宗学関係科目 仏教学関係科目 哲学関係科目 教育学関係科目 臨床心理学関係科目 国史／日本史学関係科目 東洋史学関係科目 仏教史学関係科目 日本語日本文学関係科目 英語英米文学関係科目			必修外国語科目 選択外国語科目	仏教の思想A 仏教の思想B

説明

1. 必修専攻科目は、所属する学科・専攻の開設科目の中から、履修規定にしたがって、44単位（臨床心理学は50単位）を修得してください。
2. 選択専攻科目は、所属する学科・専攻にかかわらず、文学部7学科5専攻の全関係科目の中から24単位（臨床心理学は18単位以上）を修得してください。
3. 選択外国語科目の単位を修得した場合は、教養科目（プログラム科目）の単位として扱われます。
4. フリーゾーンは、選択専攻科目及び教養科目（プログラム科目）、選択外国語科目から自由に選択して24単位を修得してください。（必修外国語科目のうち初修専修型を選択した場合の英語I A～I Dの単位は、フリーゾーンの単位として扱われます。）

〈学科・専攻別の詳細図〉

真宗学科 教史コース 教学史コース 教義学コース 伝道学コース 必修専攻科目 44単位	仏教学科 [2012年度以前入学生] 仏教教学コース 仏教文化学コース インド学コース [2013年度以降入学生] アジアの仏教と文化コース 日本の仏教と文化コース 必修専攻科目 44単位	哲学科 哲学専攻 必修専攻科目 44単位	哲学科 教育学専攻 教育学コース [2011年度以前入学生] 教育臨床心理学コース [2012年度以降入学生] 教育心理学コース 必修専攻科目 44単位	臨床心理学科 医療・福祉支援 臨床領域 学校・特別支援 臨床領域 真宗・ビハーラ 活動領域 必修専攻科目 50単位	史／歴史学科 国史／日本史学専攻 必修専攻科目 44単位	史／歴史学科 東洋史学専攻 必修専攻科目 44単位	史／歴史学科 仏教史学専攻 必修専攻科目 44単位	日本語 日本文学科 古典文学コース 近代文学コース 情報出版学コース 日本語学コース 必修専攻科目 44単位	英語 英米文学科 英文学コース 米文学コース 英語学コース 英米文化コース 必修専攻科目 44単位
<p>選択専攻科目24単位以上（臨床心理学は18単位以上）《フリーゾーン24単位を加え、48単位（臨床心理学は42単位）以下》</p> <p><input type="checkbox"/> 選択専攻科目として設けられた科目。</p> <p><input type="checkbox"/> 「44単位（臨床心理学は50単位）を超えて履修する必修専攻科目。</p> <p><input type="checkbox"/> 他学科・専攻の必修専攻科目（「基礎演習」「演習I」「卒業論文」「1年次又は2年次のみ講読」、英語英米文学科開設科目の「英語実習LL」「初級英作文」を除く）。</p>								<p>諸課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職課程 ○社会教育主事課程 ○博物館学芸員課程 ○心理士関係認定資格取得基礎課程 ○本願寺派学階課程 ○本願寺派教師資格課程 ○社会福祉主事課程 ○図書館司書課程 ○学校図書館司書教諭課程 ○特別研修講座 	
<p>フリーゾーン（24単位） 選択専攻科目と教養（プログラム）科目・外国語科目から選択してください。</p>						<p>教養（プログラム）科目16単位以上《フリーゾーン24単位を加え、40単位以下》</p>			
<p>外国語科目：必修外国語科目（12単位） 選択外国語科目</p>									
<p>仏教の思想：仏教の思想A（2単位） 仏教の思想B（2単位）</p>									
真宗学科 合計 124単位	仏教学科 合計 124単位	哲学科 哲学専攻 合計 124単位	哲学科 教育学専攻 合計 124単位	臨床心理学科 合計 124単位	史／歴史学科 国史／日本史学専攻 合計 124単位	史／歴史学科 東洋史学専攻 合計 124単位	史／歴史学科 仏教史学専攻 合計 124単位	日本語 日本文学科 合計 124単位	英語 英米文学科 合計 124単位

(2) 2015年度以降入学生

〈文学部全体の概念図〉（網掛けは教育学専攻の学生の履修を例にしたもの）

卒業要件124単位					
必修専攻科目 44単位 (臨床心理学科は50単位)	選択専攻科目 24単位以上 (臨床心理学科 は18単位以上)	フリーゾーン 20単位	教養科目 20単位以上	言語科目 12単位以上	仏教の思想科目 4単位
真宗学科開設科目 仏教学科開設科目 哲学科哲学専攻開設科目 哲学科教育学専攻開設科目 臨床心理学科開設科目 史学科国史学専攻／開設科目 歴史学科日本史学専攻開設科目 史学科／歴史学科東洋史学専攻開設科目 史学科／歴史学科仏教史学専攻開設科目 日本語日本文学科開設科目 英語英米文学科開設科目	真宗学関係科目 仏教学関係科目 哲学関係科目 教育学関係科目 臨床心理学関係科目 国史／日本史学関係科目 東洋史学関係科目 仏教史学関係科目 日本語日本文学関係科目 英語英米文学関係科目		人文科学系科目 社会科学系科目 自然科学系科目 上記3つの科目群において各2単位以上修得し、合計20単位以上修得。	必修外国語科目 選択外国語科目	仏教の思想A 仏教の思想B

説明

1. 必修専攻科目は、所属する学科・専攻の開設科目の中から、履修規定にしたがって、44単位（臨床心理学科は50単位）を修得してください。
2. 選択専攻科目は、所属する学科・専攻にかかわらず、文学部7学科5専攻の全関係科目の中から24単位（臨床心理学科は18単位以上）を修得してください。
3. 選択外国語科目の単位を修得した場合は、教養科目の単位として扱われます。
4. フリーゾーンは、選択専攻科目及び教養科目、選択外国語科目から自由に選択して20単位を修得してください。
(必修外国語科目のうち初修専修型を選択した場合の英語 I A～I Dの単位は、フリーゾーンの単位として扱われます。)

〈学科・専攻別の詳細図〉

真宗学科 教理史コース 教学史コース 教義学コース 伝道学コース	仏教学科 アジアの仏教と文化コース 日本の仏教と文化コース	哲学科 哲学専攻	哲学科 教育学専攻 教育学コース 教育心理学コース	臨床心理学科 医療・福祉支援 臨床領域 学校・特別支援 臨床領域 真宗・ビハーラ 活動領域	歴史学科 日本史学専攻	歴史学科 東洋史学専攻	歴史学科 仏教史学専攻	日本語 日本文学科 古典文学コース 近代文学コース 情報出版学コース 日本語学コース	英語 英米文学科 英文学コース 米文学コース 英語学コース 英米文化コース
必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 50単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位
選択専攻科目24単位以上（臨床心理学科は18単位以上）《フリーゾーン20単位を加え、48単位（臨床心理学科は42単位）以下》 <input type="checkbox"/> 選択専攻科目として設けられた科目。 <input type="checkbox"/> 「44単位（臨床心理学科は50単位）を超えて履修する必修専攻科目。 <input type="checkbox"/> 他学科・専攻の必修専攻科目（「基礎演習」「演習Ⅰ」「卒業論文」「1年次又は2年次のみ講読」、英語英米文学科開設科目の「英語実習LL」「初級英作文」を除く）。								諸課程 ○教職課程 ○社会教育主事課程 ○博物館学芸員課程 ○心理士関係認定資格取得基礎課程 ○本願寺派学階課程 ○本願寺派教師資格課程 ○社会福祉主事課程 ○図書館司書課程 ○学校図書館司書教諭課程 ○特別研修講座	
フリーゾーン（20単位） 選択専攻科目と教養科目・外国語科目から選択してください。									
教養科目20単位以上《フリーゾーン20単位を加え、40単位以下》									
言語科目：必修外国語科目（12単位） 選択外国語科目									
仏教の思想科目：仏教の思想A（2単位） 仏教の思想B（2単位）									
真宗学科 合計 124単位	仏教学科 合計 124単位	哲学科 哲学専攻 合計 124単位	哲学科 教育学専攻 合計 124単位	臨床心理学科 合計 124単位	歴史学科 日本史学専攻 合計 124単位	歴史学科 東洋史学専攻 合計 124単位	歴史学科 仏教史学専攻 合計 124単位	日本語 日本文学科 合計 124単位	英語 英米文学科 合計 124単位

Ⅲ. 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験に合格した場合、定められた単位が与えられるものです。その単位の合計が一定の要件における一定の単位数を満たした者に対して卒業が認定される制度です。

2. 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
学期連結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき） ＝1単位
学期連結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位

3. 単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認して下さい）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

4. 履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は、学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

(1) 履修登録の意味

履修登録は、自らの学修計画に従ってその学期に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、みなさんの学修計画の出発点となるものです。なお、履修登録をしていない科目は履修できません。

第1学期履修登録は、学期連結（通年）科目、第1学期開講科目及びサマーセッション等集中講義の科目を登録します。

第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時にこの学期連結（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

4年次生以上は、卒業見込証明書の発行の関係で、第1学期に第2学期分の登録も行います。

(2) 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だっておこなわれるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この予備・事前の手続きをしなければ受講できません。

履修登録—1) 予備登録………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。
(広義)	教養科目や選択外国語科目においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより審査します。
	必修外国語の再履修や一部専攻科目においてこの手続きが必要です。
3) 履修登録（本登録）…	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が確定します。
(狭義)	

5. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

履修登録が有効になされるためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目が配当されている学年にあっては、その年次において登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。
- ③ 授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となりますので注意してください。
- ⑤ 二重登録（すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となりますので注意してください。
- ⑥ 各学期（セメスター）および各年次について、定められている履修制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示しますので注意してください。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく文学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。
- ④ 受講登録確認表の出力による登録確認

本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自でその場で「受講登録確認表」を出力して確認することができますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、文学部教務課窓口申し出てください。

⑤ 深草・大宮学舎間の連続受講について

原則として、深草学舎と大宮学舎間の連続受講は認められません。但し、次の場合に限り、連続受講が認められます。

- (1) 2講時と3講時の学舎間連続受講（昼休みを含み移動時間が確保されているため）
 - (2) 演習科目・卒業要件である必修科目・資格取得に関わる必修科目の受講（選択必修科目は除きます）
 - (3) (2) に拘わらず残りの卒業要件単位からみて選択必修が事実上必修となる科目の受講
 - (4) その他、文学部教授会において必要であると認められた科目の受講
- 連続受講となる科目のうち、1つの時間帯の科目（例：3講時・深草、4講時・大宮の場合における、4講時・大宮開講科目）の履修機会が次年度にある場合は、上記の条件であっても大宮・深草学舎間連続受講を許可しません。卒年次生以外は、次年度に履修機会があるので、原則として次年度登録をすることとします。

6. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するというものです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「Webシラバス（講義概要・授業計画）」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっているとと言えます。

7. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履歴は一切残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履

「修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻）によって異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目 ※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。 ※進路変更により教職センターにて行う実習・体験の辞退手続きと「履修辞退」制度とは異なります。教職センターにて実習・体験の辞退手続きをしたとしても、履修登録をなかったことにすることはできません。
サマーセッション・集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。

※教養教育科目（共同開講科目）の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

(4) 履修辞退の申出期間

別途、掲示・ポータルサイトでお知らせします。

(5) 履修辞退の申し出方法

履修辞退の申出期間にポータルの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中に、ポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に文学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目を第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

8. 授業時間

本学における授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも1回の授業時間は90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

授業配置時間

	時間帯	月	火	水	木	金	土
1 講時	9：00～10：30	○	○	○	○	○	○
2 講時	10：45～12：15	○	○	○	○	○	○
3 講時	13：15～14：45	○	○	○	○	○	○
4 講時	15：00～16：30	○	○	○	○	○	○
5 講時	16：45～18：15	○	○	○	○	○	
6 講時	18：25～19：55	○	○	○	○	○	
7 講時	20：05～21：35	○	○	○	○	○	

9. 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

(1) 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はWebシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

(2) 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目(=既得科目)は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません(ただし専攻科目の特殊講義・講読に一部例外あり)。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90~100点)	A (80~89点)	B (70~79点)	C (60~69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG(合格)・D(不合格)で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN(認定)となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期(前期)分を9月中旬、第2学期(後期)分を3月下旬に配付します。指定された期日に学生証を提示の上、文学部教務課窓口で受け取ってください。

(3) 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、文学部教務課窓口へ提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。なお、申出期間については、別途掲示します。

10. 筆答試験

(1) 筆答試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

ア 定期試験(学期末・学年末試験)

個々の科目について定められている授業期間の終了時期(通常の場合は学期末)に実施する筆答試験をいう。

イ 追試験

定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう(追試験の項を参照のこと)。

(2) 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- ア その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- イ 定められた学費を納入していること。
- ウ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- エ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

(3) 筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- ア 指定された試験場で受験すること。
- イ 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- ウ 学生証を携帯すること。
- エ 学生証を必ず机の上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、文学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- オ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- カ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- キ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- ク 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

(4) 次の場合は、その答案は無効となります。

- ア 無記名の場合。
- イ 指定された場所に提出しない場合。
- ウ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- エ 受験態度の不良な場合。

(5) 筆答試験における不正行為

- ア 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- イ 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - ② 監督者の指示に従わない場合。
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合。
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合。
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合。
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合。
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。

- ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
- ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合。

(6) レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

(7) 追試験

ア 追試験の受験資格

追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に文学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に文学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

- ① 病気や怪我、試験時における体調不良等による受験ができなかった者。
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
- ③ 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
- ④ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
- ⑤ 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目・放送大学科目）の試験により受験ができなかった者。
- ⑥ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
- ⑦ 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
- ⑧ 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
- ⑨ 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験ができなかった者。
- ⑩ その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

イ 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

ウ 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

エ 追試験での評点は、最高100点です。

11. 筆答試験時間

- (1) 筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルにより発表します。試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻
1 講時	9 : 00	10 : 00
2-A 講時	10 : 30	11 : 30
2-B 講時	12 : 00	13 : 00
3-A 講時	13 : 30	14 : 30
3-B 講時	15 : 00	16 : 00
4 講時	16 : 30	17 : 30
5 講時	18 : 00	19 : 00
6 講時	19 : 15	20 : 15
7 講時	20 : 30	21 : 30

12. レポート試験

- (1) レポート提出方法

- ①レポートは原則として、授業科目担当者に直接提出してください。
- ②授業科目担当者が指示する提出方法に従わない場合は、受理されないことがあります。
- ③郵送の場合、宛先を確認し、封筒の左下に「○○ レポート在中」（○○には授業科目名を記入）と朱書きし、必ず簡易書留で発送してください。

- (2) レポート提出形式

- ①指定用紙および表紙は生協で購入してください。
- ②必ずホッチキスで綴じてください。

※レポートの受け付けは、事故を防ぐため、事情のいかんを問わず文学部教務課窓口では一切取り扱いません。

IV. 授業科目の開設方法

1. セメスター制

文学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

注：実際に授業を開講する上での第1学期、第2学期の区分は、毎年度学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開設方法

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

【 学期完結型（前期・後期型）】 [学期] → (授業 15 週間)	[週 1 回]	講義科目	外国語科目	実技科目
	[週 2 回]	2 単位		1 単位
		4 単位		2 単位
【 学期連結型（通年型）】 [学期] → [学期] → (授業 30 週間)	[週 1 回]	講義科目	外国語科目	実技科目
		4 単位		2 単位

- 学期完結型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- 学期連結型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授

業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。

- (3) サマーセッション（集中講義）を利用して開講される科目については、下記の取り扱いとなります。

区 分	取扱学期	留意事項
サマーセッション	第2学期(後期)科目	前期開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

- (注) 履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、第2学期（後期）に1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

（サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途掲示する場合がありますので注意してください）。

- (注) 第1学期（前期）科目として取り扱っていたサマーセッション I は2014年度をもって廃止されました。

移行措置として、2015年度から2017年度までの間、9月卒業希望者に対してのみ、サマーセッションのうち、一部の科目を第1学期（前期）科目（成績）として取り扱います。但し次の点に注意してください。

- ・対象者は、掲示でお知らせする期日までに「9月卒業希望の意思確認書」を提出した者に限ります。
- ・対象科目については、新4年次生の第2学期（後期）の成績表配付時（3月）に文学部教務課窓口にてお知らせします。
- ・2014年度まで、サマーセッション科目の履修登録科目数は、同一期につき1科目としていましたので、移行期間においても同様に1科目となります。

- (4) 同一科目の授業が第1学期・第2学期ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除けば、いずれの学期で履修しても構いません。

(注1) それぞれの科目には担当セメスターが設定されています。設定された担当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や担当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注2) すでに修得した科目（＝既得科目）の再履修はできません。

3. 学期完結型授業科目の開講方式

学期完結型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を1学期間継続して受講することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

学期完結型授業（週2回開講科目）の開講組合せ（原則）

※見方：「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

月1 — 木1	火1 — 金1	水1 — 土1
月2 — 木2	火2 — 金2	水2 — 土2
月3 — 木3	火3 — 金3	
月4 — 木4	火4 — 金4	

注) 週2回開講方法の場合で、1日に2講時連続で開講される科目もあります。

4. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位認定の区分を示すものです。講義科目はこの「授業科目」名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数の授業テーマで講義が開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマの講義を履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1つの講義だけ（同じ授業科目名の異なる複数の授業テーマの講義を履修することはできません）です。

また「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

なお、2013年度より、全学的にシラバス冊子を取りやめ、Webシラバスを本学のスタンダードとして位置づけ、Webシラバスに一元化しています。

5. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目の単位を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制をとっている授業科目とその履修の要件となる授業科目を同一学期に履修することはできません。先修制をとっている科目は次のとおりです。

(1) 教養教育科目（共同開講科目）

授業科目		履修の要件となる授業科目および単位数
ドイツ語	Ⅱ, ⅢA～ⅢH	ドイツ語Ⅰ（2単位）
フランス語	Ⅱ, ⅢA～ⅢH	フランス語Ⅰ（2単位）
中国語	Ⅱ, ⅢA～ⅢH	中国語Ⅰ（2単位）
スペイン語	Ⅱ, ⅢA～ⅢH	スペイン語Ⅰ（2単位）
<2014年度以降入学生> 韓国語 *注	Ⅱ, ⅢA～ⅢH	韓国語Ⅰ（2単位）
ドイツ語セミナー	A, B, C, D	ドイツ語Ⅰ, Ⅱ（計4単位）
フランス語セミナー	A, B, C, D	フランス語Ⅰ, Ⅱ（計4単位）
中国語セミナー	A, B, C, D	中国語Ⅰ, Ⅱ（計4単位）
スペイン語セミナー	A, B, C, D	スペイン語Ⅰ, Ⅱ（計4単位）
<2014年度以降入学生> 韓国語セミナー	A, B, C, D	韓国語Ⅰ, Ⅱ（計4単位）
英語	ⅡR1, ⅡR2, ⅡS1, ⅡS2	英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD（計4単位）
	ⅢR1, ⅢR2, ⅢS1, ⅢS2, ⅢG1, ⅢG2, ⅢW1, ⅢW2	「英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD, ⅠE, ⅠF, ⅠG, ⅠH」および「英語ⅡA, ⅡB, ⅡC, ⅡD」の内、4単位以上修得していること。
海外中国語研修講座		中国語Ⅰ, Ⅱ（計4単位）
<2013年度以前入学生> 韓国語 *注	Ⅱ, ⅢA, ⅢB	韓国語Ⅰ（2単位）

ポルトガル語	Ⅱ, ⅢA, ⅢB	ポルトガル語Ⅰ (2単位)
ロシア語	Ⅱ, ⅢA, ⅢB	ロシア語Ⅰ (2単位)
ドイツ語コミュニケーション	Ⅱ	ドイツ語コミュニケーションⅠ (2単位)
中国語コミュニケーション	Ⅱ	中国語コミュニケーションⅠ (2単位)
フランス語コミュニケーション	Ⅱ	フランス語コミュニケーションⅠ (2単位)
スペイン語コミュニケーション	Ⅱ	スペイン語コミュニケーションⅠ (2単位)

*注：コリア語は、2014年度以降入学生には「必修外国語」、2013年度以前入学生には「選択外国語」の科目として開講されています。

(2) 専攻科目

第2部専攻科目の項で確認してください。

6. グレイドナンバー制

2012年度までは教養教育（共同開講）科目のみでしたが、2013年度から専攻科目にもグレイドナンバーを付すことになりました。これは、科目のレベルを簡単に表示したものです。みなさんは学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

■教養教育（共同開講）科目

	基礎 \longrightarrow 応用				
グレイド	100	200	300	400	500

■専攻科目

グレイド	科目の性格・内容・レベル
100	入門科目 …第1セメで履修すべき科目
200	基礎的科目 …1・2セメで履修すべき科目
300	基本的科目 …3・4セメで履修すべき科目
400	専門中級科目 …5・6セメで履修すべき科目
500	専門上級科目 …7・8セメで履修すべき科目
600	大学院修士課程レベルの科目 …大学院文学研究科との共通科目

7. GPA【2009年度以降入学生対象】

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

算出方法は、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\sum (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語IA」（1単位）80点、「心の科学A」（2単位）40点、「生物学のすすめ」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (1 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 4} = \frac{19}{9} = 2.11$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

V. 履修制限

大学での学修は、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、文学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。卒業までの履修計画をよく考えて立てる必要があります。

■2009年度入学生まで

年次	1年次生		2年次生		3年次生	4年次生以上
学期	第1セメスター 第1学期	第2セメスター 第2学期	第3セメスター 第1学期	第4セメスター 第2学期	通年	通年
履修制限 単位数	24単位	24単位	24単位	24単位	前後期通算 で60単位	50単位

履修制限単位数の計算方法

通年開講科目の単位数は、第1学期・第2学期に等分して計算します。例えば、通年4単位科目の場合、第1学期2単位・第2学期2単位で計算します。

3年次生の履修制限単位について

3年次生の制限単位は、通年で60単位ですが、各学期では34単位までとします。例えば、第1学期に34単位登録した場合、第2学期は26単位が上限となります。

■2010年度以降入学生

年次	1年次生		2年次生		3年次生		4年次生以上
学期	第1セメスター 第1学期	第2セメスター 第2学期	第3セメスター 第1学期	第4セメスター 第2学期	第5セメスター 第1学期	第6セメスター 第2学期	通年
履修制限 単位数	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	48単位

(注1) 編転入学、再入学または復学した者のカリキュラム適用年度は、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた年次生と同様とします。

(注2) この履修制限には、次の科目は含まれないので、制限単位を超えて履修登録することができます。なお、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（時間割番号に「Z」が含まれる科目）
- ② サマーセッションに開講される科目 ※
- ③ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）
- ④ 放送大学科目

⑤ 「海外中国語研修講座」

⑥ 専攻科目の内、次の科目

「国際文化交流研修」、「社会活動ボランティア」、「海外研修」、「協定型インターンシップ」

※ 2012年度まではサマーセッションに開講される専攻科目は制限単位に含まれていましたが、2013年度からは教養教育（共同開講）科目と同様に制限単位には含まないことになりました。

VI. 卒業

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、124単位以上を履修しなければなりません。

1. 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。また、卒業判定が行われる学期に在学していなければなりません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目の別を指定していることは前述のとおりです。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

2. 卒業論文

卒業年次生は「卒業論文」を履修登録してください。

(1) 「卒業論文題目届（担当教員へ提出）」の提出

「卒業論文題目届（担当教員へ提出）」は、履修登録書類とともに年度始に配布します。「卒業論文」の担当教員へ、指示にしたがって提出してください。

(2) 「卒業論文題目届（文学部教務課窓口へ提出）」の提出

10月初旬の「演習Ⅱ」の授業時間中に配布します。「卒業論文題目届（文学部教務課窓口へ提出）」に明記されている注意事項にしたがって必要事項を記入し、定められた期間に提出してください。定められた期間内に提出できなかった場合は、卒業延期となります。

(3) 「卒業論文」の提出

- ① 2部提出してください。
- ② 学科・専攻ごとに指定された色の市販のペーパーファイルに綴じてください。ペーパーファイルの色は文学部掲示板で指示します。
- ③ ペーパーファイルの背表紙に、漢数字で整理番号を記入してください。整理番号は、文学部掲示板で指示します。

- ④ 論文提出に際しては、口述試問に備えて各自で控えを1部保持しておいてください。
- ⑤ 枚数・様式・ワープロ使用等の詳細については、「卒業論文」担当教員の指示にしたがってください。
- ⑥ 口述試問
「卒業論文」の提出者に対して、定められた期間に口述試問を実施します。

3. 卒業の時期

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱いについて

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、前期終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

(注) 9月卒業を希望する者は、4月の登録関係書類配付時に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください。）

〈文 学 部〉

第2部 カリキュラム(教育課程)

I. 教養教育科目(共同開講科目(2007年度入学生))	40
1. 教養教育とは	40
2. 「仏教の思想」について	42
3. 外国語科目について	43
4. 教養科目について	50
5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録について	52
6. 日本語科目等(留学生対象科目)の履修について	54
7. 教養教育科目開設科目一覧	55
II. 専攻科目	70
■学科・専攻別開設科目一覧	71
・真宗学科　・仏教学科　・哲学科哲学専攻　・哲学科教育学専攻	
・臨床心理学科　・史学科国史学専攻　・歴史学科日本史学専攻	
・史学科／歴史学科東洋史学専攻　・史学科／歴史学科仏教史学専攻	
・日本語日本文学科　・英語英米文学科	
■選択専攻科目開設科目一覧	124
1. 社会活動ボランティア	130
2. 協定型インターンシッププログラム	132
III. 随意科目	134
IV. 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」について	135
1. 「単位互換制度」について	135
2. 「インターンシップ・プログラム」について	137
V. 放送大学科目の受講について	139
1. 履修方法および単位認定等について	139
2. 放送大学への出願および本学での履修登録について	141
3. 龍谷大学以外での学習方法	141
4. 出願から成績評価までの流れ	142
VI. 自由選択コース	143

I. 教養教育科目（共同開講科目（2007年度入学生））

1. 教養教育とは

(1) 教養教育の目的と意義（2014年度以前入学生）

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育の理念・目的（2015年度入学生）

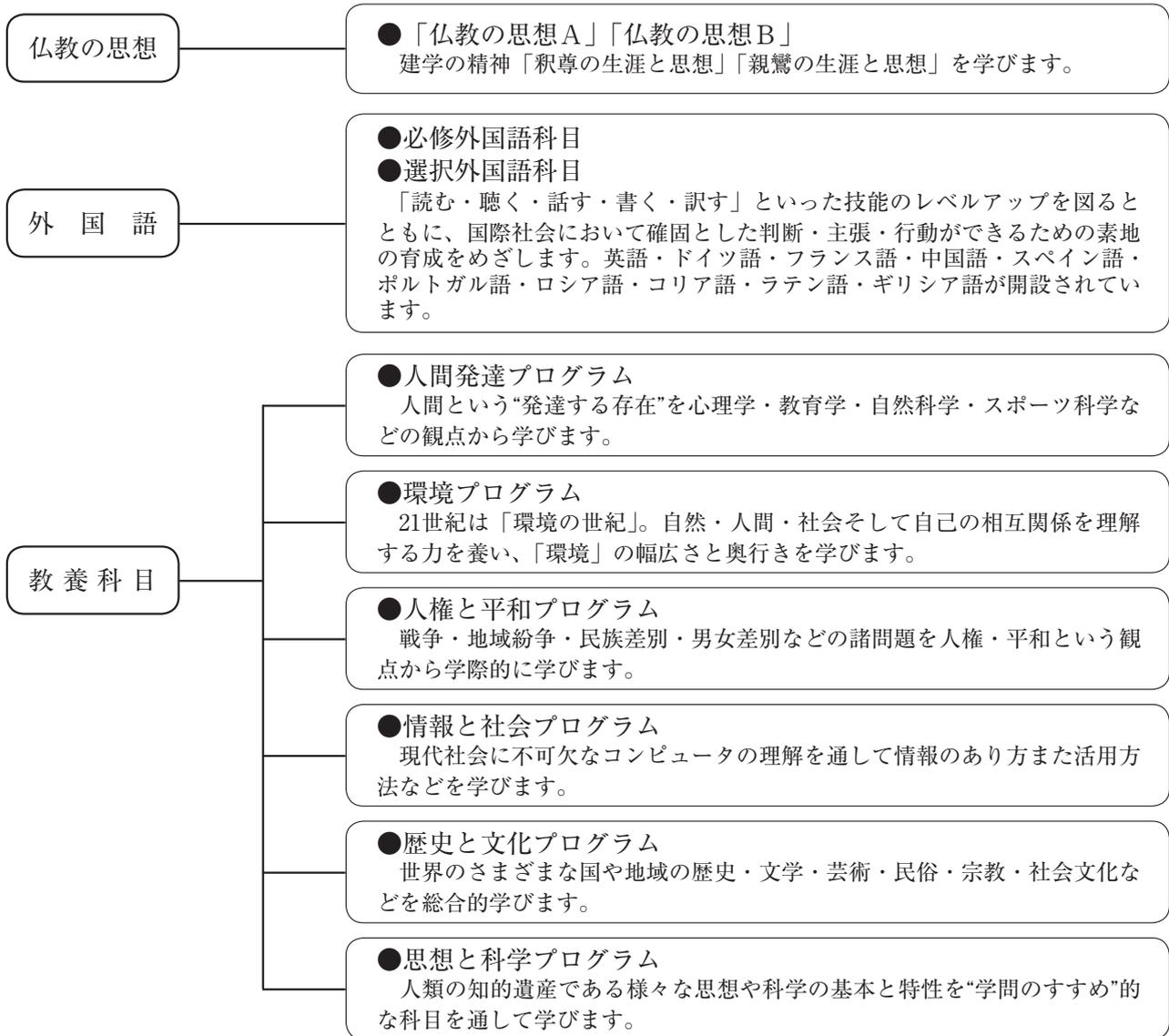
龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の習得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(3) 教養教育科目とは

① 2014年度以前入学生

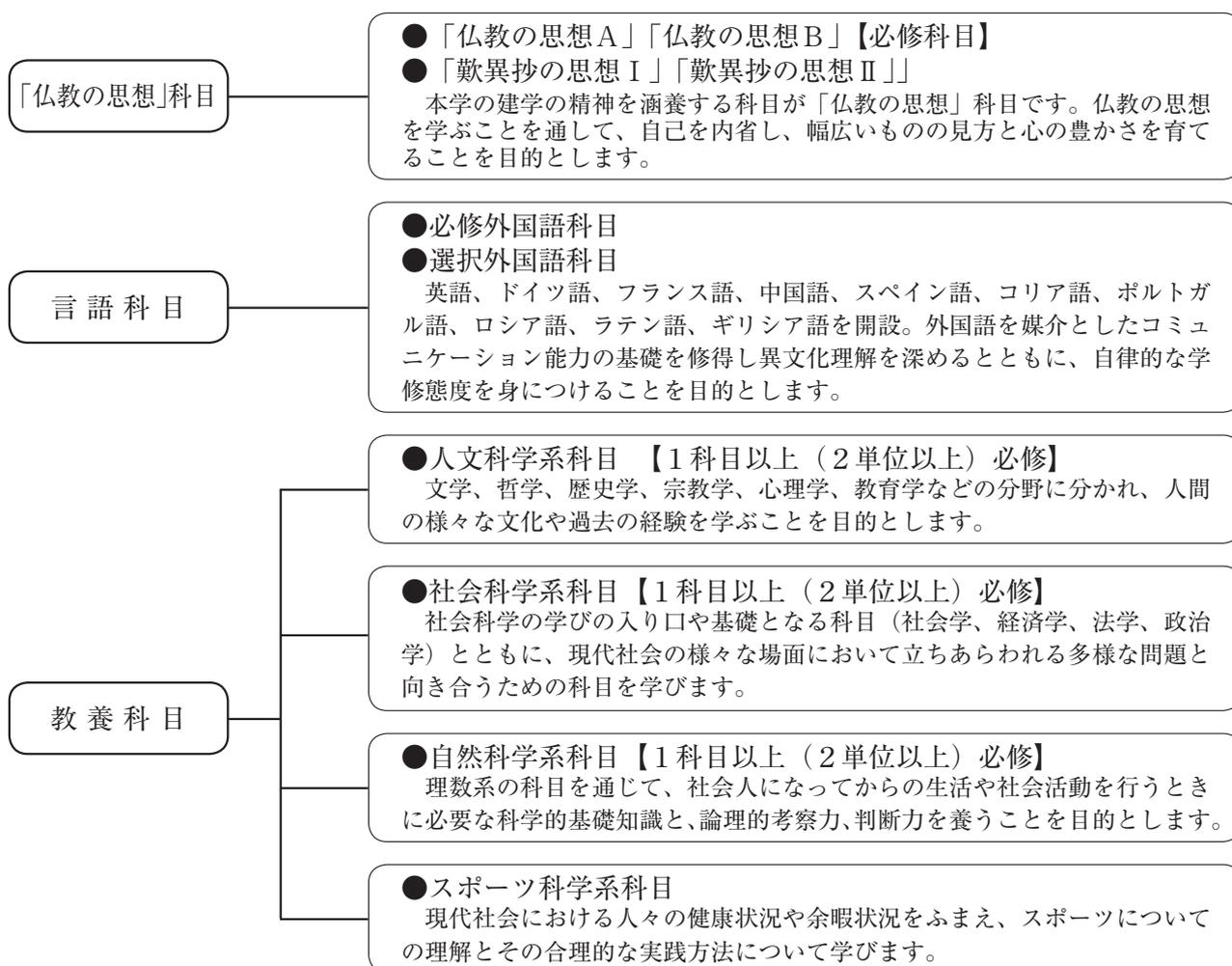
本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、京都学舎では、仏教の思想、外国語（必修／選択）、6つのプログラム（人間発達／環境／人権と平和／情報と社会／歴史と文化／思想と科学）が設置されています。そして、その履修を通して、高い倫理性を求める学修、幅広い知識の修得のための学修、テーマに基づく学生の自主的選択による学修を可能にしています。

教養教育科目は、建学の精神を学ぶための必修科目としての「仏教の思想」、国際的な時代におけるコミュニケーション能力を学ぶ科目としての「外国語」、テーマに基づく幅広い総合的知識を学ぶ「教養科目」から構成されています。



② 2015年度入学生

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



2. 「仏教の思想」（2014年度以前入学生）「仏教の思想科目」（2015年度入学生）について

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあ

ります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法について

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず受講してください。

② 単位認定

「仏教の思想A」「仏教の思想B」はそれぞれ独立した科目で、単位認定は別々に行われます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、同一の授業担当者の講義を履修してください。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

④ 再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、次の年次において再度履修してください。なお、この場合は上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。

また、3年次生以上は、同一セメスターで、A・B同時履修することが可能です。

学 期	科目名
第1学期（前期）	「仏教の思想A」・「仏教の思想B」（再履修）
第2学期（後期）	「仏教の思想B」・「仏教の思想A」（再履修）

3. 外国語科目（2014年度以前入学生）・言語科目（2015年度入学生）について

外国語科目（2014年度以前入学生）・言語科目（2015年度入学生）には、必修外国語科目と選択外国語科目があります。必修外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・韓国語（韓国語は2014年度以降入学生対象）が、選択外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・韓国語・ポルトガル語・ロシア語・ラテン語・ギリシア語が開設されます。必修外国語科目12単位を必ず修得してください。なお、12単位を越えて修得した単位数は、次の場合、卒業要件（フリーゾーン）に含むことができます。

- ① 必修外国語科目「初修外国語専修型」を選択し、「英語 I A～ I D」の単位を取得した場合
- ② 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修した場合（2年次生以降）
- ③ 初修外国語の言語を変更した場合の変更前言語の取得単位（2年次生以降）

また、選択外国語科目は教養科目として単位認定されます。

[2014年度以前入学生]

外国語教育は、その言語の実用的な能力を養うことだけを目的とはしていません。母語とはまったく異なる言語に接することで、その言語を用いている民族の思考様式や文化的伝統に対する認識・理解を深め得ることをも教育の目的としています。

また、そのことにより、外国の文化、芸術、社会をより深く理解する能力も養われるものと考えています。

外国語と母語との間でおこなう訳解は、その外国語をあやつる能力を向上させるだけでなく、ひろく論理的な思考能力の鍛錬にも大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的にながめ、学生が自分の日本語能力を検証するための数少ない機会ともなってきました。

このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。皆さんがこの目標に近づくためには、訓練に耐える持続力、忍耐力もまた不可欠であることを、この場でも強調しておきます。

なお、教室外での自発的な研修も、もちろん必要です。

[2015年度入学生]

外国語教育では、母語とはまったく異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とはまったく異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、教室外での自発的な研修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語]

●必修外国語科目・英語2年間の到達目標

辞書を使いながら標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。さらに、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を習得します。

1年生では主に英語受信能力の向上に焦点を置き、2年生では発信能力の育成も視野に入れながら、英語の4技能の充実をはかります。さらに2年間の必修を終えた後、3年生以降にも英語継続学習の動機付けを行います。

●選択外国語科目・英語（積み上げ英語）の到達目標

積み上げ英語とは、選択外国語科目中の発展科目として開設される英語を指します。必修科目で養った基礎的な運用能力のレベルアップをはかるとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中から、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語の5言語を「初修外国語」として必修科目に組み入れています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

課程	初修外国語
2013年度以前入学生	ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語の4言語
2014年度以降入学生	ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・コリア語の5言語

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

必修外国語科目、選択外国語科目の履修方法および教育内容は次のとおりです。

(1) 必修外国語科目について

「読む・聴く・話す・書く」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

2013年度以前の入学生は、英語、初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）の計5つの言語から、1つもしくは2つの言語を選んで学びます。計12単位を必修とします。

2014年度以降の入学生は、英語、初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語）の計6つの言語から、1つもしくは2つの言語を選んで学びます。計12単位を必修とします。

① 履修方法

必修外国語12単位の履修パターンには、次の4通りがあります。すべての学生は、必修外国語計12単位を第1～第4セメスターの2年間で履修してください。

履修パターン

履修パターン	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
①英語専修型 英語12単位	【英語 8単位】 I A (週1回/1単位) I C (週1回/1単位) I E (週1回/1単位) I G (週1回/1単位)		【英語 4単位】 II A (週1回/1単位) II C (週1回/1単位)	
②英語重視型 英語8単位 初修外国語4単位	【英語 4単位】 I A (週1回/1単位) I C (週1回/1単位)		【英語 4単位】 II A (週1回/1単位) II C (週1回/1単位) II D (週1回/1単位)	
③初修外国語重視型 英語4単位 初修外国語8単位	I D (週1回/1単位)		【初修外国語 4単位】 III A (週1回/1単位) III C (週1回/1単位) III D (週1回/1単位)	
④初修外国語専修型 (※注1) 初修外国語12単位	【初修外国語 4単位】 I (週2回/2単位) II (週2回/2単位)		【初修外国語 8単位】 III A (週1回/1単位) III C (週1回/1単位) III E (週1回/1単位) III G (週1回/1単位) III B (週1回/1単位) III D (週1回/1単位) III F (週1回/1単位) III H (週1回/1単位)	

(※注1) 「初修外国語専修型」を選択した場合の注意事項

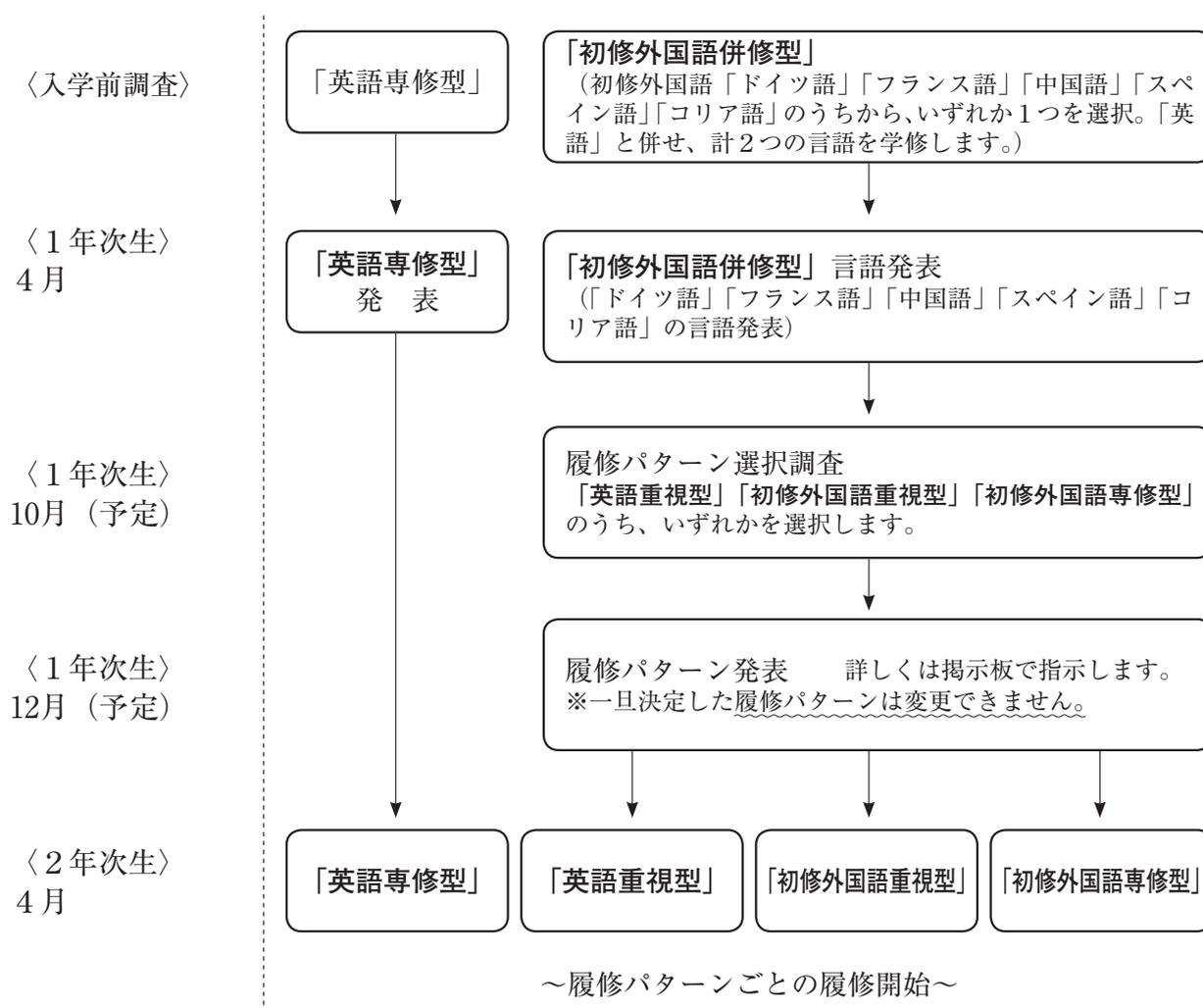
初修外国語専修型を選択した場合、1セメスター・2セメスターで修得した「英語 I A・I B・I C・I D」の単位は、フリーゾーンで認定します。よって、必修外国語12単位には算入されないので注意が必要です。

② 先修制

必修外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語Ⅱ，Ⅲ	ドイツ語Ⅰ（2単位）
フランス語Ⅱ，Ⅲ	フランス語Ⅰ（2単位）
中国語Ⅱ，Ⅲ	中国語Ⅰ（2単位）
スペイン語Ⅱ，Ⅲ	スペイン語Ⅰ（2単位）
<2014年度以降入学生> 韓国語Ⅱ，Ⅲ	韓国語Ⅰ（2単位）

③ 言語および履修パターンの選択方法



④ 言語および履修パターンについて

ア. 入学前調査

入学前に、次のうち、いずれかの履修パターンを選択します。

「英語専修型」

「初修外国語併修型」(初修外国語「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「韓国語」のうちから、いずれか1つを選び、「英語」と併せ、計2つの言語を学修します。)

新入生全員の選択結果に基づき大学で選考を行い、パターンが決まります。（第1学期の履修登録時（4月初旬）にWeb履修登録画面にて確認してください。

イ. 「履修パターン」選択調査（「英語専修型」以外の学生対象）

必修外国語（12単位）には、「英語専修型」「英語重視型」「初修外国語重視型」「初修外国語専修型」の履修パターンがあります。みなさんは、この中からいずれかのパターンで履修することになります。

この調査は「英語専修型」以外の学生を対象として、1年次生の10月（予定）に行います。その後、12月頃に発表します。

なお、一旦決定した履修パターンの変更は認められないので、注意が必要です。
詳細については、文学部掲示板で指示します。

ウ. 選択した履修パターン以外の必修外国語科目の履修希望受付（2年次以降）

文学部教務課窓口で受け付けます。結果については、授業開始までに文学部掲示板で発表します。

詳細は「⑥ 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合（48ページ）」を参照してください。

エ. 初修外国語の言語変更希望受付（2年次以降）

文学部教務課窓口で受け付けます。結果については、授業開始までに文学部掲示板で発表します。

詳細は「⑦ 初修外国語の言語を変更したい場合（48ページ）」を参照してください。

⑤ 再履修

必修外国語科目が不合格になった場合は、当該科目を再履修しなければなりません。

再履修するには、受講予定者自身が履修登録（本登録）の前に「事前登録」をする必要があります。希望の曜講時を選択し登録してください。
※受講者数が均等になるよう調整するため、担当者やクラスを選択できない場合があります。

履修方法等については、科目ごとに異なりますのでご注意ください。

○英語の再履修について

1) 履修方法

①英語ⅠA～ⅠHの再履修

再履修用科目の「英語Ⅰ（再）」が複数開講されていますので、必要各単位数に相当する「英語Ⅰ（再）」を選択して履修してください。不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

②英語ⅡA～ⅡDの再履修

再履修用科目の「英語Ⅱ（再）」が複数開講されていますので、必要単位数に相当する「英語Ⅱ（再）」を選択して履修してください。不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

2) 授業方法・内容

通常の講義を行います。

3) 評価方法

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席・授業態度などから総合的に評価し、最高点は79点となります。

○初修外国語の再履修について

1) 初修外国語Ⅰ・Ⅱ（中国語Ⅰ・Ⅱを除く）の再履修

不合格となった科目の再履修クラスあるいは正規クラスを選択して履修してください。

※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。

2) 中国語Ⅰ・Ⅱの再履修

不合格となった科目の再履修クラスを選択して履修してください。

※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。

※中国語Ⅰの正規クラス（第1 Semester）が不合格になった場合は、再履修クラスを第2 Semesterに配当しているため事前登録の必要はありません。第3 Semester以降に中国語Ⅰを履修する場合は事前登録が必要です。

3) 初修外国語ⅢA～ⅢHの再履修

不合格となった科目あるいは再履修用科目（○○○語（再））を履修してください。

例）ドイツ語ⅢCを不合格となった場合、ドイツ語ⅢCあるいはドイツ語Ⅲ（再）を履修。

⑥ 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合（2年次生以降）

各自が選択した履修パターンにある科目以外で、先修条件を満たしている必修外国語科目は履修することができます。履修を希望する場合は、文学部教務課窓口にある「希望届」を文学部教務課窓口に提出してください。ただし、「希望届」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。

修得した単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

例：1. 英語専修型の学生が、「ドイツ語Ⅰ」を履修する場合

2. フランス語を選択している英語重視型の学生が、「フランス語Ⅲ」を履修する場合

3. 初修外国語重視型の学生が「英語Ⅱ」を履修する場合

4. 中国語を選択している英語重視型または初修外国語重視型の学生が、「スペイン語Ⅰ」を履修する場合

⑦ 初修外国語の言語を変更したい場合（2年次生以降）

一旦選択した初修外国語の履修を放棄し、他の言語への変更を特に希望する場合は文学部教務課窓口にある「変更理由書」を、文学部教務課窓口に提出してください。ただし、「変更理由書」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。変更が認められた場合は、新たに「Ⅰ」から履修してください。

変更前に修得した言語の単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

注：「ドイツ語Ⅰ」の単位修得後、フランス語に言語変更した場合、先に修得した「ドイツ語Ⅰ」は「フランス語Ⅰ」として読み替えられませんので注意が必要です。

(2) 選択外国語科目について

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目、と発展科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の向上を図るとともに、その

ことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。

【入門科目】開設言語	【発展科目】開設言語
ドイツ語、フランス語、 中国語、スペイン語	2013年度以前入学生：英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語
	2014年度以降入学生：英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語

また、これらの科目の他に、ポルトガル語、ロシア語、韓国語（2013年度以前入学生のみ）、ラテン語、ギリシア語が開設されており、みなさんの多様な興味・関心に応えることができます。

① 開講科目

開講科目は下記のとおりです。

	1年次		2年次		3年次	
	1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ
【入門科目】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語				コミュニケーションⅠ (2単位)	コミュニケーションⅡ (2単位)	
【発展科目(英語)】			英語ⅡR1 (2単位)	英語ⅡR2 (2単位)	英語ⅢR1 (2単位)	英語ⅢR2 (2単位)
			英語ⅡS1 (2単位)	英語ⅡS2 (2単位)	英語ⅢS1 (2単位)	英語ⅢS2 (2単位)
		英語資格試験セミナー (2単位/サマーセッション)			英語ⅢG1 (2単位)	英語ⅢG2 (2単位)
					英語ⅢW1 (2単位)	英語ⅢW2 (2単位)
【発展科目(初修外国語)】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ＜2014年度以降入学生＞ 韓国語			セミナーA (2単位)	セミナーB (2単位)		
			セミナーC (2単位)	セミナーD (2単位)		
			海外中国語研修講座 (2単位/通年集中)			
ポルトガル語 ロシア語 ＜2013年度以前入学生＞ 韓国語(選択)			I (2単位)	II (2単位)	III A (2単位)	III B (2単位)
			ラテン語(2単位/通年) ギリシア語(2単位/通年)			
ラテン語 ギリシア語			I (1単位)	II (1単位)		

注1 「海外中国語研修講座」は現地研修に先立ち、グローバル教育推進センター開催の募集説明会において申込み手続きを行い、前期には事前指導が行われるので必ず出席してください。

注2 「海外中国語研修講座」(2単位)は、原則、所属する学部教務課へ申し出ることにより、初修外国語重視型「中国語ⅢA～ⅢD(計4単位)」、初修外国語専修型「中国語ⅢA～ⅢH(計8単位)」のなかで、2単位まで充当されます。

注3 韓国語は、2014年度以降入学生には「初修外国語(必修外国語)」として開講されています。

注4 「ラテン語」(2単位/通年)および「ギリシア語」(2単位/通年)は2014年度に廃止、新たに「ラテン語Ⅰ」・「ラテン語Ⅱ」(各1単位)および「ギリシア語Ⅰ」・「ギリシア語Ⅱ」(各1単位)が開講されました。

② 先修制

選択外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語セミナーA, B, C, D	「ドイツ語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーA, B, C, D	「フランス語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーA, B, C, D	「中国語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーA, B, C, D	「スペイン語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位)
<2014年度以降入学生> コリア語セミナーA, B, C, D	「コリア語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位) (<2014年度以降入学生>必修外国語)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語コミュニケーションⅠ (2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語コミュニケーションⅠ (2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	中国語コミュニケーションⅠ (2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	スペイン語コミュニケーションⅠ (2単位)
英語ⅡR1, ⅡR2, ⅡS1, ⅡS2	「英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD」(計4単位)
英語ⅢR1, ⅢR2, ⅢS1, ⅢS2, ⅢG1, ⅢG2, ⅢW1, ⅢW2	「英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD, ⅠE, ⅠF, ⅠG, ⅠH」および 「英語ⅡA, ⅡB, ⅡC, ⅡD」の内、4単位以上取得していること。
海外中国語研修講座	中国語Ⅰ, Ⅱ (計4単位)
<2013年度以前入学生> コリア語Ⅱ(選択)、ⅢA(選択)、ⅢB(選択)	コリア語Ⅰ (選択) (2単位)
ポルトガル語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ポルトガル語Ⅰ (2単位)
ロシア語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ロシア語Ⅰ (2単位)

4. 教養科目について

[2014年度以前入学生]

教養科目は、「人間発達プログラム」「環境プログラム」「人権と平和プログラム」「情報と社会プログラム」「歴史と文化プログラム」「思想と科学プログラム」という6つのテーマに分類されており、自分の関心に応じてひとつのプログラムに集中し、そこに開設されている科目を履修することによって、より系統的に学ぶことができるようになっています。

各プログラムのテーマにそって履修することにより、みなさんは自分の専攻とならぶ教養の体系を自分自身で組み立てることができます。ただし、全ての教養科目は自由に選択できるようになっています。

[2015年度入学生]

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目以上（2単位以上）修得する必要があります。

ります。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法について

- ①すべての科目はそれぞれに担当セメスターが設定されており、担当セメスターより以前のセメスターにおいては履修できません。
- ②同一科目名の授業の中にも、一般に学期完結型、学期連結型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③同一の科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- ④同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

⑤「スポーツ技術学演習」について

- ・「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については本学ホームページにて確認してください。
- ・各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録について

教養科目、選択外国語科目（以下、「教養科目等」）では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目等の受講に際しては、各学期に予備登録をする必要があります。（第1学期（前期）には前期科目と通年科目、第2学期（後期）には後期科目の予備登録を行います。）

予備登録を行う際は、学期ごとに定められている履修制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。

なお、2015年度より、3年生以上も教養科目等を履修する際は必ず予備登録を行う必要があります。

ただし、3年生以上の学生は以下の「(6) 3年生以上も受講制限を行う科目」を除いて、予備登録を行った科目を必ず履修することができます（登録の取消ができません）ので、よく考えて予備登録を行ってください。

一部予備登録が不要な科目もありますので、以下の「(5) 予備登録が不要な科目（P53）」を参照してください。）

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合は、本登録時に予備登録をしなくても履修登録が可能な科目をWeb履修登録画面に表示しますので、その中から選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルログイン」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。予備登録期間については、履修説明会および文学部掲示板で確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第1学期（後期）：7科目

(3) 予備登録結果発表について

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。なお発表日時（履修登録期間）については、履修説明会および文学部掲示板で確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期（前期）予備登録は、前期および通年開講科目のみ予備登録対象となり、第2

学期（後期）予備登録は、後期開講科目が予備登録対象科目となります。ただし、4年次生以上は後期開講科目についても第1学期（前期）に予備登録を行ってください。

- ② 各年次について定められている履修制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

「ドイツ語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「フランス語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「スペイン語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「中国語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「韓国語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目、2014年度以降入学生のみ履修可能）

「海外中国語研修講座」（2年次配当科目） ※

※「海外中国語研修講座」の履修を希望する学生は、グローバル教育推進センターが開催する説明会に参加してください（開催日時はグローバル教育推進センター掲示板にて確認してください）。その上で本登録を行います。なお、「中国語Ⅰ・Ⅱ」の計4単位を修得した学生だけが履修できますので注意してください。

(6) 3年生以上も受講制限を行う科目

授業科目名	授業科目名
英語ⅡS1	心理学セミナー
英語ⅡS2	教育学のすすめA
英語ⅡR1	教育学のすすめB
英語ⅡR2	現代社会と教育A
英語ⅢR1	現代社会と教育B
英語ⅢR2	スポーツ技術学演習
英語ⅢS1	スポーツ表現の実際
英語ⅢS2	動物の自然誌
英語ⅢG1	生命誌
英語ⅢG2	野外観察法
英語ⅢW1	自然誌実習
英語ⅢW2	里山学
英語資格試験セミナー	情報社会論
ドイツ語コミュニケーションⅠ	社会調査法
フランス語コミュニケーションⅠ	数学の世界
中国語コミュニケーションⅠ	英語で学ぶ日本の社会A
スペイン語コミュニケーションⅠ	英語で学ぶ日本の社会B
ドイツ語コミュニケーションⅡ	情報科学実習Ⅰ
フランス語コミュニケーションⅡ	情報科学実習Ⅱ
中国語コミュニケーションⅡ	情報科学入門Ⅲ
スペイン語コミュニケーションⅡ	歴史と文化総合研究
ポルトガル語Ⅰ	文章表現法A
ポルトガル語Ⅱ	文章表現法B
ポルトガル語ⅢA	環境経済学
ポルトガル語ⅢB	マスコミ論A
ロシア語Ⅰ	マスコミ論B
ロシア語Ⅱ	刑事政策
ロシア語ⅢA	平和学A
ロシア語ⅢB	音楽の世界A
コリア語Ⅰ (選択) 注)	音楽の世界B
コリア語Ⅱ (選択) 注)	夏期集中講義科目
コリア語ⅢA (選択) 注)	
コリア語ⅢB (選択) 注)	

注) 選択外国語のコリア語Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBは2013年度以前入学生のみ履修可。

6. 留学生の必修外国語科目 (日本語科目等) について

留学生は「日本語」および「留学生のための英語入門A」・「留学生のための英語入門B」を必修外国語とし12単位まで履修することができます。

ただし、登録にあたっては必ず文学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単位	配当年次	開講形態
日本語	1	1年次以上	学期完結型
留学生のための英語入門A ※1	1	1年次以上	学期完結型
留学生のための英語入門B ※2	1	1年次以上	学期完結型

※1 学則名は「英語IE」です。

※2 学則名は「英語IF」です。

7. 教養教育科目開設科目一覧

(1) 2014年度以前入学生

【仏教の思想】

グレード	授業科目名	単位	配当セメスター				備 考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	
200	仏教の思想 A	2	◎				4単位 必修
200	仏教の思想 B	2		◎			

【外国語科目】

〈必修外国語科目〉

グレード	授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
100	英語 I A	1	◎						
100	英語 I B	1		◎					
100	英語 I C	1	◎						
100	英語 I D	1		◎					
100	英語 I E	1	◎						
100	英語 I F	1		◎					
100	英語 I G	1	◎						
100	英語 I H	1		◎					
200	英語 II A	1			◎				
200	英語 II B	1				◎			
200	英語 II C	1			◎				
200	英語 II D	1				◎			
100	ドイツ語 I	2	◎						
100	ドイツ語 II	2		◎					
200	ドイツ語 III A	1			◎				
200	ドイツ語 III B	1				◎			
200	ドイツ語 III C	1			◎				
200	ドイツ語 III D	1				◎			
200	ドイツ語 III E	1			◎				
200	ドイツ語 III F	1				◎			
200	ドイツ語 III G	1			◎				
200	ドイツ語 III H	1				◎			
100	フランス語 I	2	◎						
100	フランス語 II	2		◎					
200	フランス語 III A	1			◎				
200	フランス語 III B	1				◎			

200	フランス語ⅢC	1			○				
200	フランス語ⅢD	1				○			
200	フランス語ⅢE	1			○				
200	フランス語ⅢF	1				○			
200	フランス語ⅢG	1			○				
200	フランス語ⅢH	1				○			
100	中国語Ⅰ	2	○						
100	中国語Ⅱ	2		○					
200	中国語ⅢA	1			○				
200	中国語ⅢB	1				○			
200	中国語ⅢC	1			○				
200	中国語ⅢD	1				○			
200	中国語ⅢE	1			○				
200	中国語ⅢF	1				○			
200	中国語ⅢG	1			○				
200	中国語ⅢH	1				○			
100	スペイン語Ⅰ	2	○						
100	スペイン語Ⅱ	2		○					
200	スペイン語ⅢA	1			○				
200	スペイン語ⅢB	1				○			
200	スペイン語ⅢC	1			○				
200	スペイン語ⅢD	1				○			
200	スペイン語ⅢE	1			○				
200	スペイン語ⅢF	1				○			
200	スペイン語ⅢG	1			○				
200	スペイン語ⅢH	1				○			
100	コリア語Ⅰ	2	○						2014年度以降入学生のみ履修可能
100	コリア語Ⅱ	2		○					2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢA	1			○				2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢB	1				○			2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢC	1			○				2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢD	1				○			2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢE	1			○				2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢF	1				○			2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢG	1			○				2014年度以降入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢH	1				○			2014年度以降入学生のみ履修可能

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。ただし、登録にあたっては必ず事前に文学部教務課窓口まで相談に来てください。

グ レ イ ド	授業科目名	単 位	配当セメスター						備 考
			1	2	3	4	5	6	
	日本語	1	○	○					
	留学生のための英語入門A	2	○	○					学則名 (英語 I E)
	留学生のための英語入門B	2	○	○					学則名 (英語 I F)

〈選択外国語科目〉

グ レ イ ド	授業科目名	単 位	配当セメスター						備 考
			1	2	3	4	5	6	
300	英語ⅡR1	2			○				廃止
300	英語ⅡR2	2				○			
300	英語ⅡS1	2			○				
300	英語ⅡS2	2				○			
300	英語ⅢR1	2					○		
300	英語ⅢR2	2						○	
300	英語ⅢS1	2					○		
300	英語ⅢS2	2						○	
300	英語ⅢG1	2					○		
300	英語ⅢG2	2						○	
300	英語ⅢW1	2					○		
300	英語ⅢW2	2						○	
200	英語資格試験セミナー	2		○					
200	海外英語研修講座	2							
300	ドイツ語セミナーA	2			○				
300	ドイツ語セミナーB	2				○			
300	ドイツ語セミナーC	2			○				
300	ドイツ語セミナーD	2				○			
100	ドイツ語コミュニケーションⅠ	2				○			
200	ドイツ語コミュニケーションⅡ	2					○		
300	フランス語セミナーA	2			○				
300	フランス語セミナーB	2				○			
300	フランス語セミナーC	2			○				
300	フランス語セミナーD	2				○			
100	フランス語コミュニケーションⅠ	2				○			
200	フランス語コミュニケーションⅡ	2					○		
300	中国語セミナーA	2			○				
300	中国語セミナーB	2				○			
300	中国語セミナーC	2			○				
300	中国語セミナーD	2				○			
100	中国語コミュニケーションⅠ	2				○			
200	中国語コミュニケーションⅡ	2					○		
300	スペイン語セミナーA	2			○				
300	スペイン語セミナーB	2				○			
300	スペイン語セミナーC	2			○				
300	スペイン語セミナーD	2				○			
100	スペイン語コミュニケーションⅠ	2				○			
200	スペイン語コミュニケーションⅡ	2					○		
300	韓国語セミナーA	2			○			2014年度以降入学生のみ履修可能	
300	韓国語セミナーB	2				○		2014年度以降入学生のみ履修可能	

300	コリア語セミナーC	2		◎					2014年度以降入学生のみ履修可能
300	コリア語セミナーD	2			◎				2014年度以降入学生のみ履修可能
200	海外中国語研修講座	2							
100	ポルトガル語Ⅰ	2		◎					
100	ポルトガル語Ⅱ	2			◎				
200	ポルトガル語ⅢA	2					◎		
200	ポルトガル語ⅢB	2						◎	
100	ロシア語Ⅰ	2		◎					
100	ロシア語Ⅱ	2			◎				
200	ロシア語ⅢA	2					◎		
200	ロシア語ⅢB	2						◎	
100	コリア語Ⅰ	2		◎					2013年度以前入学生のみ履修可能
100	コリア語Ⅱ	2			◎				2013年度以前入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢA	2					◎		2013年度以前入学生のみ履修可能
200	コリア語ⅢB	2						◎	2013年度以前入学生のみ履修可能
200	ラテン語	2			◎				2013年度で廃止
200	ラテン語Ⅰ	1		◎					2014年度から開講
200	ラテン語Ⅱ	1			◎				「ラテン語」既修得者は履修不可
200	ギリシア語	2			◎				2013年度で廃止
200	ギリシア語Ⅰ	1		◎					2014年度から開講
200	ギリシア語Ⅱ	1			◎				「ギリシア語」既修得者は履修不可

【教養科目（プログラム科目）】

プログラム	グレード	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
人間発達プログラム	200	心理学	4	◎						
	200	心の科学A	2	◎						
	200	心の科学B	2		◎					
	300	応用心理学A	2			◎				
	300	応用心理学B	2				◎			
	200	哲学思想A	2	◎						
	300	倫理思想C	2				◎			
	200	教育原論A	2			◎				
	200	教育原論B	2				◎			
	200	発達と教育A	2			◎				
	200	発達と教育B	2				◎			
	300	心理学セミナー	4			◎				
	200	国際社会と経済	2			◎				
	200	教育学のすすめA	2	◎						
	200	教育学のすすめB	2		◎					
	300	現代社会と教育A	2			◎				
	300	現代社会と教育B	2				◎			
	200	時間と空間の科学	2	◎						

	200	生理学	4			◎					
	200	人類進化学	2			◎					
	200	生命と進化	4	◎							
	100	スポーツ技術学演習	2	◎							「スポーツ技術学」既得者は履修不可
	200	スポーツ表現の実際	2			◎					
	100	人間とスポーツA	2	◎							
	200	健康とスポーツ	2			◎					
環境プログラム	200	自然論	2		◎						
	200	倫理思想A	2			◎					
	300	環境と社会	2					◎			
	500	環境経済学	4					◎			
	200	技術論	2					◎			
	200	環境問題と企業	2		◎						
	300	地域開発論	2				◎				
	200	環境論	2	◎							
	200	エネルギーの基礎	2	◎							
	200	エネルギーの利用	2		◎						
	200	生物と環境	4	◎							
	200	日本の自然	4	◎							
	200	植物の自然誌	2				◎				
	200	動物の自然誌	2				◎				
	200	生命誌	2				◎				
	200	野外観察法	2				◎				
	300	自然誌実習	4				◎				
	200	民族の自然誌	2				◎				
200	里山学	2		◎							
人権と平和プログラム	200	哲学思想B	2					◎			
	200	倫理思想B	2		◎						
	300	ヨーロッパの歴史C	2					◎			
	200	人権論A	2	◎							学科・専攻により2セメスターでも開講
	200	人権論B	2		◎						学科・専攻により1セメスターでも開講
	200	平和学A	2	◎							
	200	ジェンダーと仏教	2		◎						
	200	ジェンダー論	2	◎							
	200	女性と法	2				◎				
	100	現代社会と政治	2	◎							
	200	国際人権法入門	2				◎				
	200	現代世界の地域紛争	2		◎						
	200	現代社会と法	2	◎							
	300	刑事政策	2				◎				
	200	日本国憲法	2	◎							
	200	平和学B	2		◎						
300	現代司法の実際	2	◎							「民事司法の実際」既得者は履修不可	

	200	スポーツと人権・平和	2				◎				「オリンピック運動と人権・平和」 既得者は履修不可、3セメスターで開講
情報と社会プログラム	200	論理学A	2	◎							
	200	論理学B	2		◎						
	200	哲学思想C	2				◎				
	200	社会統計学I	2	◎							
	200	社会統計学II	2		◎						
	300	情報社会論	2				◎				
	300	社会調査法	2						◎		
	300	情報化社会と法	2				◎				
	200	経済社会の情報化	2		◎						
	200	マスコミ論A	2				◎				
	200	マスコミ論B	2					◎			
	200	企業と会計	2		◎						
	100	確率・統計入門	2	◎							
	200	数理統計学	4				◎				
	200	集合と論理	4				◎				
	300	数学の世界	4				◎				
	100	情報科学実習I	2		◎						
	100	情報科学実習II	2				◎				
	100	情報科学入門I	2				◎				
	200	情報科学入門II	2				◎				
300	情報科学入門III	2						◎			
300	英語で学ぶ日本の社会A	2	◎								
300	英語で学ぶ日本の社会B	2		◎							
歴史と文化プログラム	200	ヨーロッパの歴史A	4	◎							
	300	ヨーロッパの歴史B	2				◎				
	200	アメリカの歴史A	2	◎							
	200	アメリカの歴史B	2		◎						
	200	比較文化A	2				◎				
	200	比較文化B	2					◎			
	200	現代のヨーロッパA	2	◎							
	200	現代のヨーロッパB	2		◎						
	200	欧米の文化A	2				◎				
	200	欧米の文化B	2					◎			
	200	欧米の文学芸術A	2				◎				
	200	欧米の文学芸術B	2					◎			
	200	世界の宗教A	2	◎							
	200	世界の宗教B	2		◎						
	200	宗教と文化	4				◎				
	200	日本の歴史A	4	◎							
	200	日本の歴史B	4		◎						
	200	日本の歴史C	4				◎				
200	日本の文化	4					◎				

200	日本の文学A	4	○					
200	日本の文学B	4		○				
200	日本の文学C	2			○			
200	アジアの歴史A	4	○					
200	アジアの歴史B	4		○				
200	アジアの文化A	2			○			
200	アジアの文化B	2				○		
200	中国の文学A	2	○					
200	中国の文学B	2	○					
200	中国の思想A	2	○					
200	中国の思想B	2		○				
300	歴史と文化総合研究	4			○			
100	現代社会と経済	2	○					
300	文化と社会	2			○			
200	自然科学史	2	○					
200	地球と生命の歴史	4			○			
200	スポーツ文化史	2			○			
「スポーツ文化史(4単位)」既得者は履修不可								
思想と科学プログラム	100	宗教学入門	2	○				
	100	哲学入門	2	○				
	100	倫理学入門	2	○				
	100	論理学入門	2	○				
	100	文章表現法A	2	○				
	100	文章表現法B	2		○			
	200	歴史学入門	2	○				
	200	歎異抄の思想I	2			○		
	200	歎異抄の思想II	2				○	
	200	音楽の世界A	2			○		
	200	音楽の世界B	2				○	
	200	文化人類学のすすめ	2			○		
	100	経済学のすすめ	2		○			
	200	経営学のすすめ	2		○			
	200	社会学のすすめ	2		○			
	200	地理学のすすめ	2	○				
	200	地域科学のすすめ	2			○		
	100	数学入門	2	○				
	100	数学への旅	2	○				
	200	微分と積分	4	○				
	200	行列と行列式	4	○				
	300	微分方程式	2			○		
	300	数理と計算	2					○
	100	運動の科学	4	○				
	100	物質の科学	4		○			
	200	生物学のすすめ	4	○				

200	生命科学のすすめ	4	○		○					
100	人類学のすすめ	4	○		○					
100	銀河と宇宙	4	○		○					
100	星の誕生と進化	2	○	○						
200	太陽系の科学	4			○					
200	自然科学の論理	2			○					
100	現代社会とスポーツ	2	○							
100	スポーツ科学最前線	2		○						
100	人間とスポーツB	2		○						
200	言語と文化A	2	○							2011年度以降入学生のみ履修可能
200	言語と文化B	2		○						2011年度以降入学生のみ履修可能
300	教養教育科目特別講義	2	○							4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目（2単位／4単位）のみ卒業要件単位となる。
300	教養教育科目特別講義	4	○							

注意事項

- 1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。（例：1年次配当科目であれば、2年次生以上も受講可能。）
- 2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。時間割冊子および履修登録画面で確認してください。

【廃止科目】

グ レ イ ド	授業科目名	単 位	プログラム				開講セメスター				備 考
			人 間 発 達	環 境	人 権 と 平 和	情 報 と 社 会	1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	
100	スポーツ技術学	2	○				○		○		「スポーツ技術学演習」に名称変更
200	スポーツ生理学	4	○						○		2009年度から廃止
200	スポーツと環境	2		○					○		2009年度から廃止
200	人権論	4			○		○				2010年度から廃止
300	民事司法の実際	2			○						「現代司法の実際」に名称変更。2006年度から廃止
200	オリンピック運動と人権・平和	2			○						「スポーツと人権・平和」に名称変更
200	スポーツとメディア	2				○					2009年度から廃止

(2) 2015年度入学生

「仏教の思想」科目

◎は必修科目 ○は選択科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
仏教の思想A	2	◎						2科目（4単位）必修
仏教の思想B	2		◎					
歎異抄の思想Ⅰ	2			○				
歎異抄の思想Ⅱ	2				○			

言語科目

◎は必修外国語科目 ○は選択外国語科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
英語ⅠA	1	◎						
英語ⅠB	1		◎					
英語ⅠC	1	◎						
英語ⅠD	1		◎					
英語ⅠE	1	◎						
英語ⅠF	1		◎					
英語ⅠG	1	◎						
英語ⅠH	1		◎					
英語ⅡA	1			◎				
英語ⅡB	1				◎			
英語ⅡC	1			◎				
英語ⅡD	1				◎			
ドイツ語Ⅰ	2	◎						
ドイツ語Ⅱ	2		◎					
ドイツ語ⅢA	1			◎				
ドイツ語ⅢB	1				◎			
ドイツ語ⅢC	1			◎				
ドイツ語ⅢD	1				◎			
ドイツ語ⅢE	1			◎				
ドイツ語ⅢF	1				◎			
ドイツ語ⅢG	1			◎				
ドイツ語ⅢH	1				◎			
フランス語Ⅰ	2	◎						
フランス語Ⅱ	2		◎					
フランス語ⅢA	1			◎				
フランス語ⅢB	1				◎			
フランス語ⅢC	1			◎				
フランス語ⅢD	1				◎			
フランス語ⅢE	1			◎				
フランス語ⅢF	1				◎			

フランス語ⅢG	1			○		
フランス語ⅢH	1				○	
中国語Ⅰ	2	○				
中国語Ⅱ	2		○			
中国語ⅢA	1			○		
中国語ⅢB	1				○	
中国語ⅢC	1			○		
中国語ⅢD	1				○	
中国語ⅢE	1			○		
中国語ⅢF	1				○	
中国語ⅢG	1			○		
中国語ⅢH	1				○	
スペイン語Ⅰ	2	○				
スペイン語Ⅱ	2		○			
スペイン語ⅢA	1			○		
スペイン語ⅢB	1				○	
スペイン語ⅢC	1			○		
スペイン語ⅢD	1				○	
スペイン語ⅢE	1			○		
スペイン語ⅢF	1				○	
スペイン語ⅢG	1			○		
スペイン語ⅢH	1				○	
コリア語Ⅰ	2	○				
コリア語Ⅱ	2		○			
コリア語ⅢA	1			○		
コリア語ⅢB	1				○	
コリア語ⅢC	1			○		
コリア語ⅢD	1				○	
コリア語ⅢE	1			○		
コリア語ⅢF	1				○	
コリア語ⅢG	1			○		
コリア語ⅢH	1				○	
英語ⅡR1	2			○		
英語ⅡR2	2				○	
英語ⅡS1	2			○		
英語ⅡS2	2				○	
英語ⅢR1	2					○
英語ⅢR2	2					○
英語ⅢS1	2				○	
英語ⅢS2	2					○
英語ⅢG1	2				○	
英語ⅢG2	2					○
英語ⅢW1	2				○	
英語ⅢW2	2					○
英語資格試験セミナー	2		○			

ドイツ語セミナーA	2			○		
ドイツ語セミナーB	2				○	
ドイツ語セミナーC	2			○		
ドイツ語セミナーD	2				○	
ドイツ語コミュニケーションI	2				○	
ドイツ語コミュニケーションII	2					○
フランス語セミナーA	2			○		
フランス語セミナーB	2				○	
フランス語セミナーC	2			○		
フランス語セミナーD	2				○	
フランス語コミュニケーションI	2				○	
フランス語コミュニケーションII	2					○
中国語セミナーA	2			○		
中国語セミナーB	2				○	
中国語セミナーC	2			○		
中国語セミナーD	2				○	
中国語コミュニケーションI	2				○	
中国語コミュニケーションII	2					○
スペイン語セミナーA	2			○		
スペイン語セミナーB	2				○	
スペイン語セミナーC	2			○		
スペイン語セミナーD	2				○	
スペイン語コミュニケーションI	2				○	
スペイン語コミュニケーションII	2					○
コリア語セミナーA	2			○		
コリア語セミナーB	2				○	
コリア語セミナーC	2			○		
コリア語セミナーD	2				○	
海外中国語研修講座	2				○	
ポルトガル語I	2			○		
ポルトガル語II	2				○	
ポルトガル語ⅢA	2					○
ポルトガル語ⅢB	2					○
ロシア語I	2			○		
ロシア語II	2				○	
ロシア語ⅢA	2					○
ロシア語ⅢB	2					○
ラテン語I	1			○		
ラテン語II	1				○	
ギリシア語I	1			○		
ギリシア語II	1				○	

通年集中科目

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
日本語	1	◎	◎					
留学生のための英語入門A	1	◎	◎					学則名（英語 I E）
留学生のための英語入門B	1	◎	◎					学則名（英語 I F）

教養科目

●は選択必修科目として開講する基幹科目

○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
			1	2	3	4	5	6	
人文科学系科目	哲学入門	2	●						} 1科目（2単位以上）必修
	哲学A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界A	2	●						
	宗教の世界B	2		●					
	中国の思想A	2	●						
	中国の思想B	2		●					
	芸術の世界A	2			●				
	芸術の世界B	2				●			
	日本の文学A	4	●						
	日本の文学B	4		●					
	中国の文学A	2	●						
	中国の文学B	2	●						
	西洋の文学A	2	●						
	西洋の文学B	2		●					
	文章表現法A	2	●						
	文章表現法B	2		●					
	言語と文化	2	●						
	日本の歴史A	4	●						
	日本の歴史B	4		●					
	アジアの歴史A	4	●						
	アジアの歴史B	4		●					
	西洋の歴史A	4	●						
	西洋の歴史B	2			●				
	西洋の歴史C	2				●			
	現代世界の歴史A	2	●						
	現代世界の歴史B	2		●					
	心理学	4	●						
	心の科学A	2	●						
心の科学B	2		●						

	教育学のすすめA	2	●						
	教育学のすすめB	2		●					
	現代社会と教育A	2			●				
	現代社会と教育B	2				●			
	哲学B	2			○				
	倫理学B	2			○				
	論理学	2			○				
	日本の文学C	2			○				
	歴史学入門	2			○				
	日本の歴史C	4			○				
	日本の文化	4				○			
	アジアの文化	2			○				
	応用心理学A	2			○				
	応用心理学B	2				○			
	教育原論A	2			○				
	教育原論B	2				○			
	学習・発達論A	2			○				
	学習・発達論B	2				○			
	人文科学セミナー	4			○				
社会科学系科目	法学のすすめ	2	●						
	日本国憲法	2	●						
	政治学のすすめ	2	●						
	社会統計学のすすめ	2	●						
	社会学のすすめ	2	●						
	地理学のすすめ	2	●						
	経済学のすすめ	2	●						
	社会調査のすすめ	2	●						
	経営学のすすめ	2	●						
	人権論A	2	○						
	人権論B	2		○					
	現代社会とメディア	2			○				
	現代社会と福祉	2			○				
	現代社会と法	2			○				
	環境と社会	2			○				
	平和学A	2			○				
	ジェンダー論	2			○				
	文化人類学	2			○				
	国際社会論	2			○				
	現代社会の諸問題	2			○				
	地域論	2			○				
	企業と会計	2			○				
現代社会と労働	2			○					
社会思想史	2			○					
英語で学ぶ日本の社会A	2	○							
英語で学ぶ日本の社会B	2	○							

} 1科目（2単位以上）必修

自然科学系科目	数学入門	2	●					} 1科目 (2単位以上) 必修
	数学への旅	2	●					
	確率・統計入門	2	●					
	宇宙の科学Ⅰ	4	●					
	物理学の世界	4	●					
	時間と空間の科学	2	●					
	自然科学史Ⅰ	2	●					
	生物科学のすすめ	4	●					
	生命科学のすすめ	4	●					
	生態学のすすめ	4	●					
	人類学のすすめ	4	●					
	環境学	4	●					
	情報科学入門	2			●			
	微分と積分	4	○					
	行列と行列式	4	○					
	数理統計学	4			○			
	数理と計算	2			○			
	数学の世界	4			○			
	数理と論証	2			○			
	宇宙の科学Ⅱ	2			○			
	地球の科学	4	○					
	エネルギー入門	2			○			
	自然科学史Ⅱ	2			○			
	科学論	2			○			
	技術論	2				○		
	平和学B	2			○			
	里山学	2	○					
	日本の自然	4	○					
	生命誌	2			○			
	植物の自然誌	2			○			
	動物の自然誌	2			○			
	民族の自然誌	2			○			
人類進化学	2			○				
人間の生物学	4			○				
自然誌実習	4			○				
野外観察法	2			○				
情報科学Ⅰ	2				○			
情報科学Ⅱ	2					○		
情報科学実習	4		○					
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○			
	現代社会とスポーツ	2		○				
	スポーツ技術学演習	2	○					
	人間とスポーツA	2	○					
	人間とスポーツB	2	○					
	スポーツと人権・平和	2			○			

スポーツ文化史	2			○			
スポーツ科学最前線	2	○					
教養教育科目特別講義	2	○					4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目（2単位／4単位）のみ卒業要件単位となる。
教養教育科目特別講義	4	○					

注意事項

- 1) 各印は担当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。
(例：1年次担当科目であれば、2年次以降生も受講可能)
- 2) 上記担当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。
時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

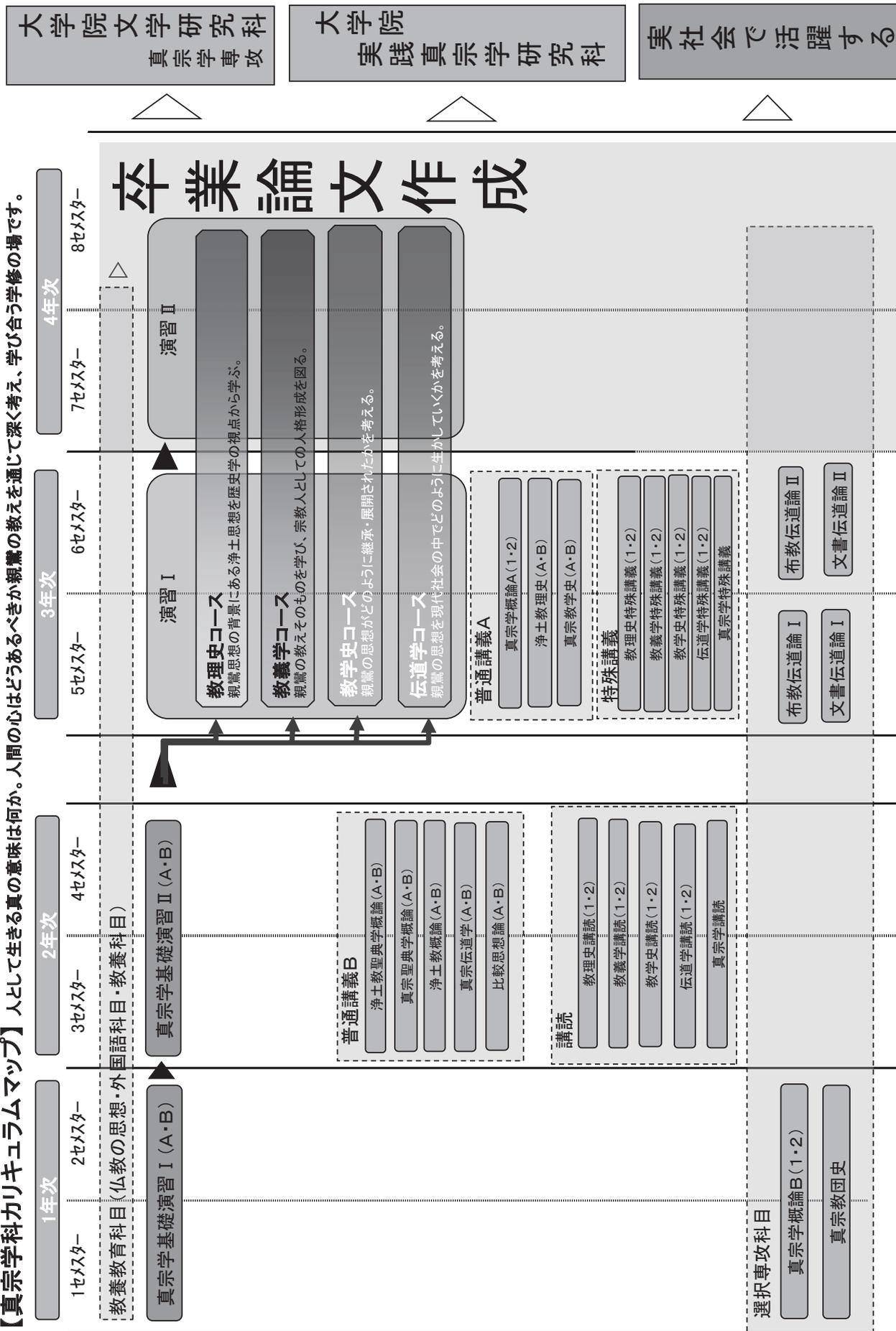
Ⅱ．専攻科目

5～7ページ記載の学科・専攻の教育理念・目的に基づき、専攻科目を開設しています。18ページ記載のカリキュラム概念図でも示しているとおおり、所属学科・専攻以外の専攻科目（履修できない科目もあります。詳細はこの項目の各学科専攻の履修上の注意点を参照してください。）も履修できるため、計画的な履修計画を立てる必要があります。

各学科・専攻の開設科目とともにカリキュラムマップも掲載していますので参考にしてください。

☆年度によっては開講されない場合もあります。開設科目一覧に掲載されていても、時間割表に掲載されていない場合は、その年度は不開講ということになります。

【真宗学科カリキュラムマップ】人として生きる真の意味は何か。人間の心はどうあるべきか親鸞の教えを通じて深く考え、学び合う学修の場です。



大学院 文学研究科
真宗学専攻

大学院
実践真宗学研究所

実社会で活躍する

卒業論文作成

■真宗学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧 【2007～2013年度入学生】

▼真宗学科の教育理念・目的

親鸞によって開顕された浄土真宗の教義を、浄土教理史・真宗教義学・真宗教学史・真宗伝道学の4分野にわたって探究し、広い視野に立って真宗教義の真理性を明らかにするとともに、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それらにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。				
普通講義B					
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。				
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法を習得し、基礎的な学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。				
演習I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習I」(3年次)および「演習II」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 2015年度から同一科目名称で4単位から2単位に変更となっています。すでに4単位科目を修得している場合は、2単位科目を履修することはできません（例：真宗学概論A 4単位修得者は真宗学概論A1・真宗学概論A2を履修できません）。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定	
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
☆ 真宗学概論A (4)				12単位必修	
[400] 真宗学概論A1 (2)【大宮】	[400] 真宗学概論A2 (2)【大宮】				
☆ 浄土教理史 (4)					
[400] 浄土教理史A (2)【大宮】	[400] 浄土教理史B (2)【大宮】				
☆ 真宗教学史 (4)				4単位選択必修	
[400] 真宗教学史A (2)【大宮】	[400] 真宗教学史B (2)【大宮】				
☆ 教理史特殊講義(A) (4)					
[400] 教理史特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 教理史特殊講義A2 (2)【大宮】				
☆ 教理史特殊講義(B) (4)				4単位選択必修	
[400] 教理史特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 教理史特殊講義B2 (2)【大宮】				
☆ 教義学特殊講義(A) (4)					
[400] 教義学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義A2 (2)【大宮】				
☆ 教義学特殊講義(B) (4)					
[400] 教義学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義B2 (2)【大宮】				
☆ 教義学特殊講義(C) (4)					
[400] 教義学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義C2 (2)【大宮】				
☆ 教学史特殊講義(A) (4)					
[400] 教学史特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 教学史特殊講義A2 (2)【大宮】				
☆ 教学史特殊講義(B) (4)					
[400] 教学史特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 教学史特殊講義B2 (2)【大宮】				
☆ 伝道学特殊講義(A) (4)				4単位選択必修	
[400] 伝道学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義A2 (2)【大宮】				
☆ 伝道学特殊講義(B) (4)					
[400] 伝道学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義B2 (2)【大宮】				
☆ 伝道学特殊講義(C) (4)					
[400] 伝道学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義C2 (2)【大宮】				
					8単位必修
☆ 教理史演習Ⅰ (4)					
[400] 教理史演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 教理史演習ⅠB (2)【大宮】				
☆ 教義学演習Ⅰ (4)					
[400] 教義学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 教義学演習ⅠB (2)【大宮】				4単位選択必修 2単位科目の場合、同一分野(教理史、教義学、教学史、伝道学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
☆ 教学史演習Ⅰ (4)					
[400] 教学史演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 教学史演習ⅠB (2)【大宮】				
☆ 伝道学演習Ⅰ (4)					
[400] 伝道学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 伝道学演習ⅠB (2)【大宮】			(2014年3月まで) 1科目8単位選択必修	
		☆ 卒業論文(教理史演習Ⅱ) (8)			
		☆ 卒業論文(教義学演習Ⅱ) (8)			
		☆ 卒業論文(教学史演習Ⅱ) (8)			
		☆ 卒業論文(伝道学演習Ⅱ) (8)		(2015年4月以降) 卒業論文4単位及び、同一分野の演習ⅡA・ⅡB(教理史、教義学、教学史、伝道学)の4単位、合計8単位必修。	
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】			
[500] 教理史演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教理史演習ⅡB (2)【大宮】				
[500] 教義学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教義学演習ⅡB (2)【大宮】				
[500] 教学史演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教学史演習ⅡB (2)【大宮】				
[500] 伝道学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 伝道学演習ⅡB (2)【大宮】				

■真宗学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧 【2014年度以降入学生】

▼真宗学科の教育理念・目的

親鸞によって開顕された浄土真宗の教義を、浄土教理史・真宗教義学・真宗教学史・真宗伝道学の4分野にわたって探究し、広い視野に立って真宗教義の真理性を明らかにするとともに、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

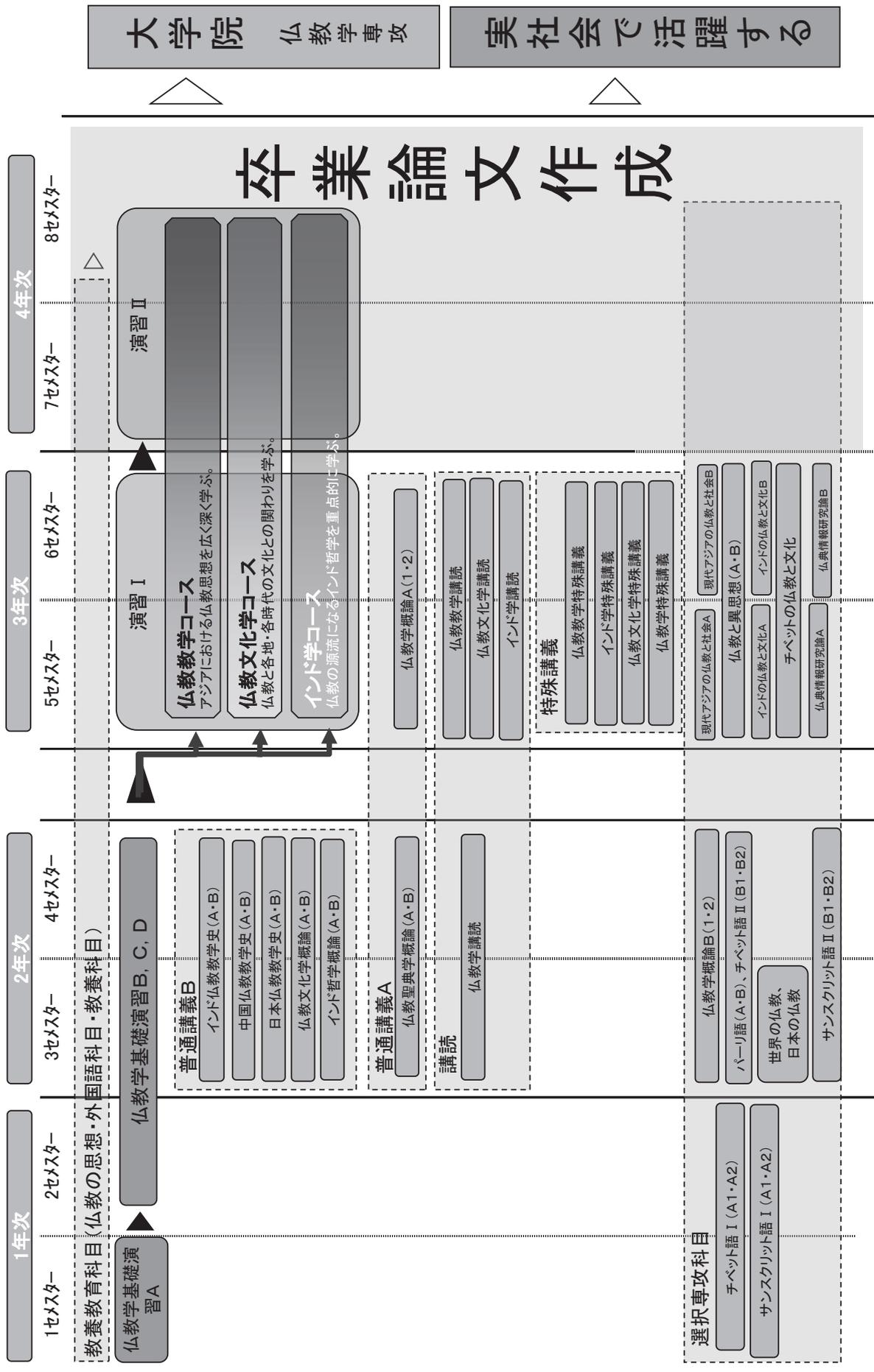
▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

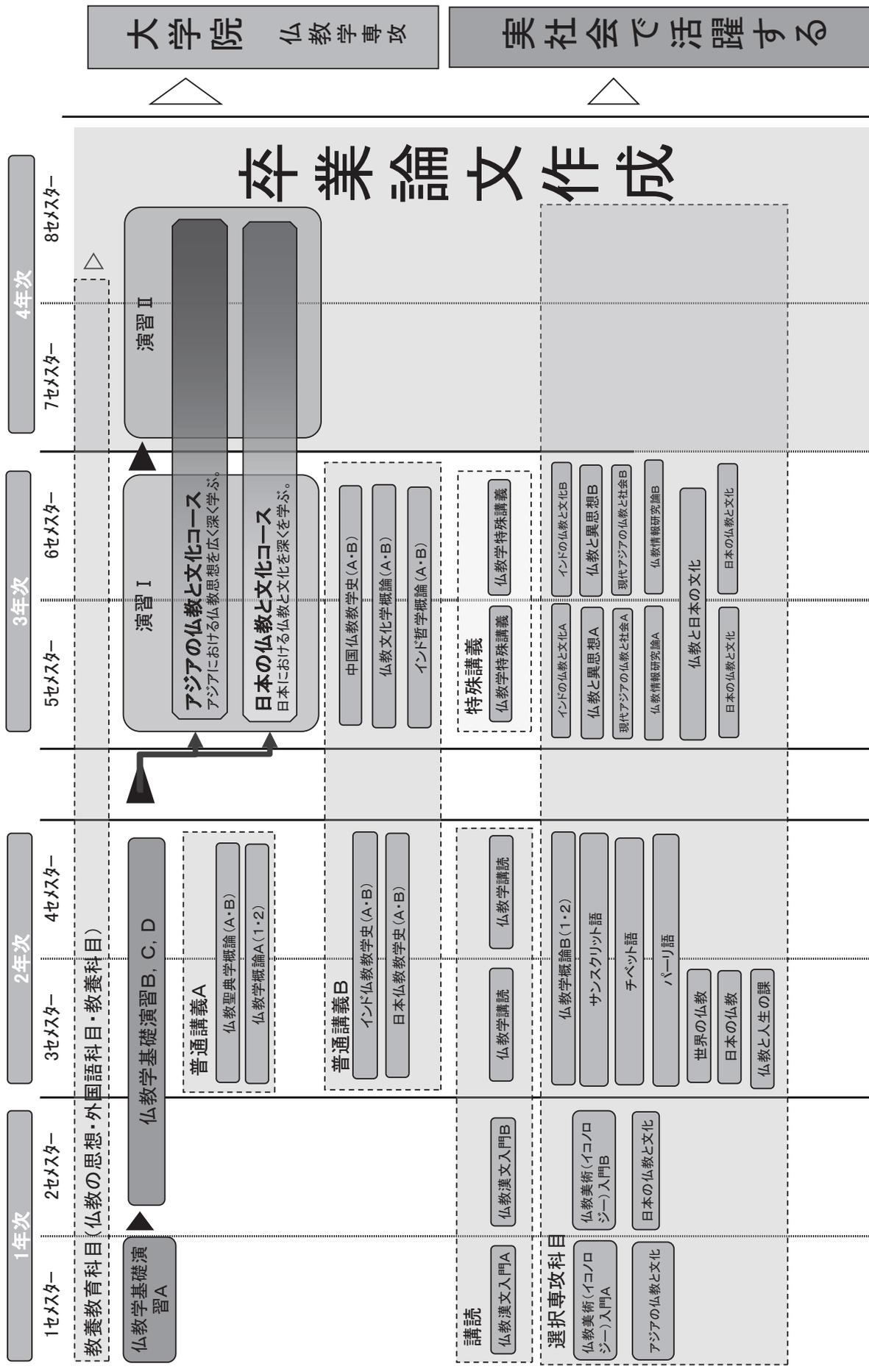
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。				
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 浄土教聖典学概論A (2)【大宮】	[300] 浄土教聖典学概論B (2)【大宮】
				[300] 真宗聖典学概論A (2)【大宮】	[300] 真宗聖典学概論B (2)【大宮】
				[300] 浄土教概論A (2)【大宮】	[300] 浄土教概論B (2)【大宮】
				[300] 真宗伝道学A (2)【大宮】	[300] 真宗伝道学B (2)【大宮】
				[300] 比較思想論A (2)【大宮】	[300] 比較思想論B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 教理史講読A1 (2)【大宮】	[300] 教理史講読A2 (2)【大宮】
				[300] 教理史講読B1 (2)【大宮】	[300] 教理史講読B2 (2)【大宮】
				[300] 教理史講読C1 (2)【深草】	[300] 教理史講読C2 (2)【深草】
				[300] 教義学講読A1 (2)【大宮】	[300] 教義学講読A2 (2)【大宮】
				[300] 教義学講読B1 (2)【大宮】	[300] 教義学講読B2 (2)【大宮】
				[300] 教義学講読C1 (2)【大宮】	[300] 教義学講読C2 (2)【大宮】
				[300] 教義学講読D1 (2)【大宮】	[300] 教義学講読D2 (2)【大宮】
				[300] 教義学講読E1 (2)【深草】	[300] 教義学講読E2 (2)【深草】
				[300] 教学史講読A1 (2)【大宮】	[300] 教学史講読A2 (2)【大宮】
				[300] 教学史講読B1 (2)【深草】	[300] 教学史講読B2 (2)【深草】
				[300] 伝道学講読A1 (2)【大宮】	[300] 伝道学講読A2 (2)【大宮】
				[300] 伝道学講読B1 (2)【大宮】	[300] 伝道学講読B2 (2)【大宮】
				[300] 伝道学講読C1 (2)【深草】	[300] 伝道学講読C2 (2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 真宗学基礎演習ⅠA (2)【深草】	[200] 真宗学基礎演習ⅠB (2)【深草】	[300] 真宗学基礎演習ⅡA (2)【深草】	[300] 真宗学基礎演習ⅡB (2)【深草】
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

【仏教学科カリキュラムマップ】2500年の時を超え、各地の文化と融合しつつ世界に広まった仏教を思想面から追究するとともに、実践的な学修でさらに理解を深めます。
(2008～2012年度入学生)



【仏教学科カリキュラムマップ】(2013年度以降入学生)

2500年の時を超え、各地の文化と融合しつつ世界に広まった仏教を思想面から追究するとともに、実践的な学修でさらに理解を深めます。



大学院 仏教学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■仏教学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2008～2012年度入学生】

▼仏教学科の教育理念・目的

インド・中国・日本等の諸地域に及ぶ仏教を仏教教学・仏教文化学・インド学という3つの視座から学ぶことによって専門的知識と論理的洞察力を修得し、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			☆仏教聖典学概論(4) [300] 仏教聖典学概論A(2)【大宮】 [300] 仏教聖典学概論B(2)【大宮】	
普通講義B		☆インド仏教教学史(4) [300] インド仏教教学史A(2)【深草】 [300] インド仏教教学史B(2)【深草】		☆中国仏教教学史(4) [300] 中国仏教教学史A(2)【大宮】 [300] 中国仏教教学史B(2)【大宮】	
		☆日本仏教教学史(4) [300] 日本仏教教学史A(2)【深草】 [300] 日本仏教教学史B(2)【深草】		☆仏教文化学概論(4) [300] 仏教文化学概論A(2)【大宮】 [300] 仏教文化学概論B(2)【大宮】	
		☆インド哲学概論(4) [300] インド哲学概論A(2)【大宮】 [300] インド哲学概論B(2)【大宮】			
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			☆仏教学講読(A) (4)《2年次のみ》 ☆仏教学講読(B) (4)《2年次のみ》 ☆仏教学講読(C) (4)《2年次のみ》 ☆仏教学講読(D) (4)《2年次のみ》 [300] 仏教学講読A1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読A2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読B1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読B2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読C1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読C2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読D1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読D2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読F1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読F2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読G1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読G2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読H1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読H2 (2)【大宮】	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 仏教学基礎演習A(2)【深草】	B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。 仏教学基礎演習B(2)【深草】 仏教学基礎演習C(2)【深草】 仏教学基礎演習D(2)【深草】		
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 仏教学基礎演習B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 2013年度から同一科目名称で4単位から2単位に変更となっています。すでに4単位科目を修得している場合は、2単位科目を履修することはできません（例：仏教学概論4単位修得者は仏教学概論A1・仏教学概論A2を履修できません）。
- 卒業論文（4単位）は、仏教学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。
- 仏教教学演習Ⅰ、仏教文化学演習Ⅰ、インド学演習Ⅰは2015年度から仏教学演習Ⅰに科目名称が1本化されました。再履修の場合は「仏教学演習Ⅰ」を履修することになります。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
☆ 仏教学概論A(4)				8単位必修
[400] 仏教学概論A1(2)【大宮】	[400] 仏教学概論A2(2)【大宮】			
				4単位選択必修
☆ 仏教教学特殊講義(A) (4)				4単位選択必修
☆ 仏教教学特殊講義(B) (4)				
☆ 仏教教学特殊講義(B)A (2)	☆ 仏教教学特殊講義(B)B (2)			
☆ 仏教教学特殊講義(C) (4)				
☆ 仏教教学特殊講義(D) (4)				
☆ 仏教文化学特殊講義(A)A (2)	☆ 仏教文化学特殊講義(A)B (2)			
☆ 仏教文化学特殊講義(B) (4)				
☆ インド学特殊講義(A)A (2)	☆ インド学特殊講義(A)B (2)			
☆ インド学特殊講義(B) (4)				
☆ インド学特殊講義(C) (2)				
☆ 仏教学特殊講義 (4)				
[400] 仏教学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義A2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義C2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義D1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義D2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義E1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義E2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義F1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義F2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義G1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義G2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義H1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義H2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義I1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義I2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義J1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義J2 (2)【大宮】			
☆ 仏教教学講読(A) (4)				年次指定≪2年次のみ≫4単位及び≪2年次以上≫履修可能な講読4単位の合計8単位必修。
☆ 仏教教学講読(B) (4)				
☆ 仏教教学講読(C) (4)				
☆ 仏教教学講読(D) (4)				
☆ 仏教文化学講読(A) (4)				
☆ 仏教文化学講読(B) (4)				
☆ 仏教文化学講読(C) (4)				
☆ 仏教文化学講読(C)A (2)	☆ 仏教文化学講読(C)B (2)			
☆ インド学講読(A) (4)				
☆ インド学講読(B) (4)				
☆ インド学講読(B)A (2)	☆ インド学講読(B)B (2)			
☆ インド学講読(C) (4)				
☆ インド学講読(C)A (2)	☆ インド学講読(C)B (2)			
[600] 仏教学講読E1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読E2 (2)【大宮】			
[600] 仏教学講読I1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読I2 (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 仏教学演習Ⅰ(4)【大宮】				1科目4単位選択必修
☆ 仏教教学演習Ⅰ(4)				
☆ 仏教文化学演習Ⅰ(4)				
☆ インド学演習Ⅰ(4)				
		☆ 卒業論文(仏教教学演習Ⅱ)(8)		(2014年3月まで) 1科目8単位選択必修
		☆ 卒業論文(仏教文化学演習Ⅱ)(8)		
		☆ 卒業論文(インド学演習Ⅱ)(8)		
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降) 2科目8単位必修
		[500] 仏教学演習Ⅱ(4)【大宮】		

■仏教学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2013年度以降入学生】

▼仏教学科の教育理念・目的

インド・中国・日本等の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を「アジアの仏教と文化」「日本の仏教と文化」の2つの視座から学ぶことによって専門的知識の修得と論理的洞察力の涵養を図り、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

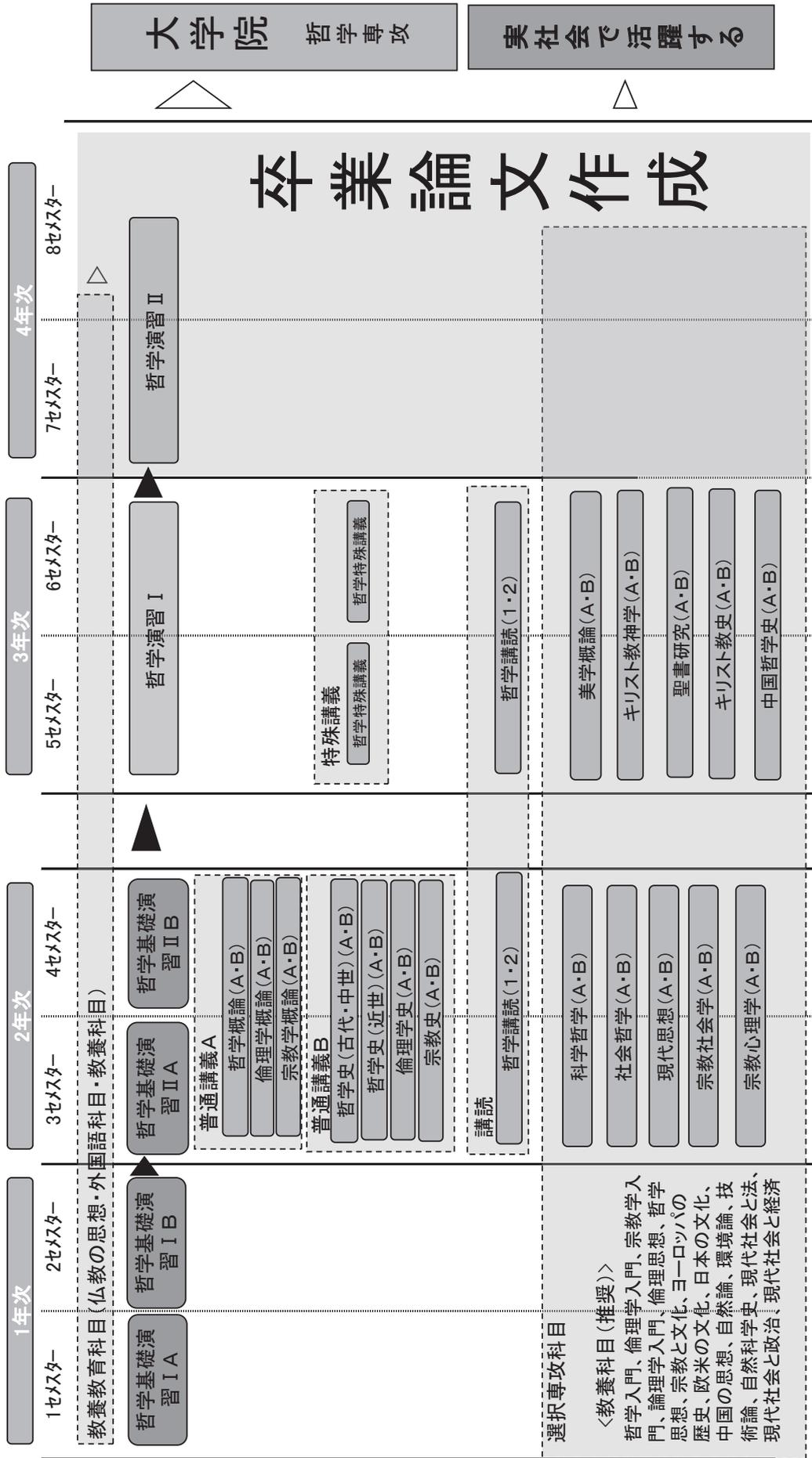
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 仏教聖典学概論A(2)【大宮】	[300] 仏教聖典学概論B(2)【大宮】
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 仏教学概論A1(2)【大宮】	[300] 仏教学概論A2(2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			[300] インド仏教教学史A(2)【深草】	[300] インド仏教教学史B(2)【深草】
				[300] 日本仏教教学史A(2)【深草】	[300] 日本仏教教学史B(2)【深草】
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。	[100] 仏教漢文入門A (2)【深草】	[200] 仏教漢文入門B (2)【深草】	[300] 仏教学講読A1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読A2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読B1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読B2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読C1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読C2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読D1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読D2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読F1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読F2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読G1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読G2 (2)【大宮】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 仏教学基礎演習A(2)【深草】	B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。		
			仏教学基礎演習B(2)【深草】 仏教学基礎演習C(2)【深草】 仏教学基礎演習D(2)【深草】		
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 仏教学基礎演習B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- 卒業論文（4単位）は、仏教学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5semester	第6semester	第7semester	第8semester	
				4科目8単位必修
[400] インド哲学概論A(2)【大宮】	[400] インド哲学概論B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 仏教文化概論A(2)【大宮】	[400] 仏教文化概論B(2)【大宮】			
[400] 中国仏教教学史A(2)【大宮】	[400] 中国仏教教学史B(2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義A2 (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 仏教学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義C2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義D1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義D2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義E1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義E2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義F1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義F2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義G1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義G2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義H1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義H2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義I1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義I2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義J1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義J2 (2)【大宮】			
[600] 仏教学講読E1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読E2 (2)【大宮】			「仏教漢文入門A」「仏教漢文入門B」4単位と講読科目の中から4単位選択必修の合計8単位必修。
[600] 仏教学講読I1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読I2 (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 仏教学演習Ⅰ (4)【大宮】				4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		2科目8単位必修
		[500] 仏教学演習Ⅱ (4)【大宮】		

【哲学科哲学専攻カリキュラムマップ】あらゆる偏見・独断・権威を捨てて思想のライブに身を浸し知の迷宮をさまよいつつながら、論理的思考力と表現力を身につけよう。



大学院 哲学専攻

実社会で活躍する

■哲学科哲学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2008～2013年度入学生】

▼哲学科哲学専攻の教育理念・目的

哲学の歴史を深く学び、他者との対話によってあらゆる物事の本質を考えるとともに、現代の諸科学や社会の動向をも吟味しつつ、哲学的・倫理的・宗教的諸問題の解決に寄与する、論理的洞察力に富んだ人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			☆哲学概論 (4)	
				[300] 哲学概論A (2)【大宮】	[300] 哲学概論B (2)【大宮】
				☆倫理学概論 (4)	
				[300] 倫理学概論A (2)【大宮】	[300] 倫理学概論B (2)【大宮】
普通講義B				☆宗教学概論 (4)	
				[300] 宗教学概論A (2)【大宮】	[300] 宗教学概論B (2)【大宮】
				☆哲学史(古代・中世) (4)	
				[300] 哲学史(古代・中世)A (2)【大宮】	[300] 哲学史(古代・中世)B (2)【大宮】
				☆哲学史(近世) (4)	
				[300] 哲学史(近世)A (2)【大宮】	[300] 哲学史(近世)B (2)【大宮】
				☆倫理学史 (4)	
				[300] 倫理学史A (2)【大宮】	[300] 倫理学史B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			☆宗教史 (4)	
				[300] 宗教史A (2)【大宮】	[300] 宗教史B (2)【大宮】
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			☆哲学講読(G) (4)《2年次のみ》	
				[300] 哲学講読G1(2)【深草】	[300] 哲学講読G2(2)【深草】
				《2年次のみ》	
				☆哲学講読(H) (4)《2年次のみ》	
				[300] 哲学講読H1(2)【深草】	[300] 哲学講読H2(2)【深草】
				《2年次のみ》	
				☆哲学講読(I) (4)《2年次のみ》	
				[300] 哲学講読I1(2)【深草】	[300] 哲学講読I2(2)【深草】
				《2年次のみ》	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 哲学基礎演習ⅠA (2)【深草】	[200] 哲学基礎演習ⅠB (2)【深草】	[300] 哲学基礎演習ⅡA (2)【深草】	[300] 哲学基礎演習ⅡB (2)【深草】
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 「哲学演習Ⅰ」「卒業論文(哲学演習Ⅱ)」の先修要件について
 - ① 「哲学演習Ⅰ」の履修については、前年次までに「哲学基礎演習ⅠA・ⅠB」を修得していること。
 - ② 「卒業論文(哲学演習Ⅱ)」の履修については、前年次までに「哲学基礎演習ⅠA・ⅠB」及び「哲学基礎演習ⅡA・ⅡB」を修得していること。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 2013年度から同一科目名称で4単位から2単位に変更となっています。すでに4単位科目を修得している場合は、2単位科目を履修することはできません(例：倫理学概論4単位修得者は倫理学概論A・倫理学概論Bを履修できない)。
- 卒業論文(4単位)は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
				4単位選択必修
				4単位選択必修
[600] 哲学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(A)B (2)【大宮】			8単位選択必修
[600] 哲学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 哲学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 哲学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 哲学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 哲学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 哲学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
☆哲学講読(A) (4)				8単位必修。 年次指定《2年次のみ》4単位修得した上で《3年次以上》履修可能な講読4単位の修得が望ましいが、年次指定が《2年次のみ》の「講読」を修得できなかった場合は、年次指定《3年次以上》の科目を修得し、合計8単位修得しなければなりません。なお、《2年次のみ》の講読は、4単位まで講読分野の卒業要件単位とし、4単位を超えて修得した場合は選択専攻科目とする。
[400] 哲学講読A1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読A2 (2)【大宮】			
☆哲学講読(B) (4)				
[400] 哲学講読B1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読B2 (2)【大宮】			
☆哲学講読(C) (4)				
[400] 哲学講読C1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読C2 (2)【大宮】			
☆哲学講読(D) (4)				
[400] 哲学講読D1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読D2 (2)【大宮】			
☆哲学講読(E) (4)				
[400] 哲学講読E1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読E2 (2)【大宮】			
☆哲学講読(F) (4)				
[400] 哲学講読F1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読F2 (2)【大宮】			
☆哲学講読(J) (4)				
[400] 哲学講読J1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読J2 (2)【大宮】			
				8単位必修
☆哲学演習Ⅰ(4)				4単位必修
[400] 哲学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 哲学演習ⅠB (2)【大宮】			
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降) 3科目8単位必修
		[500] 哲学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 哲学演習ⅡB (2)【大宮】	
		☆卒業論文(哲学演習Ⅱ)(8)【大宮】		(2014年3月まで) 1科目8単位必修

■哲学科哲学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2014年度以降入学生】

▼哲学科哲学専攻の教育理念・目的

哲学の歴史を深く学び、他者との対話によってあらゆる物事の本質を考えるとともに、現代の諸科学や社会の動向をも吟味しつつ、哲学的・倫理的・宗教的諸問題の解決に寄与する、論理的洞察力に富んだ人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

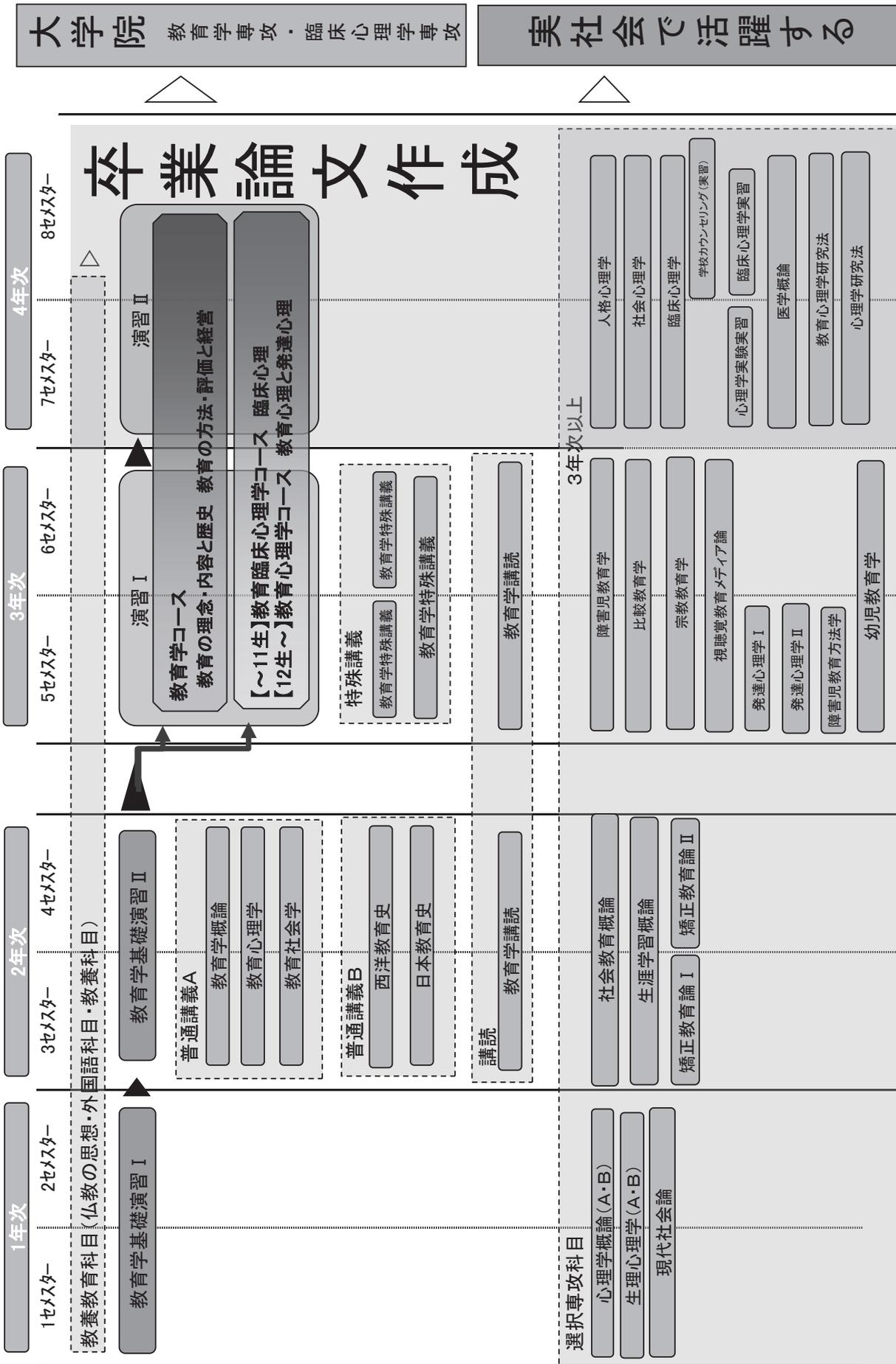
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 哲学概論A (2)【大宮】	[300] 哲学概論B (2)【大宮】
				[300] 倫理学概論A (2)【大宮】	[300] 倫理学概論B (2)【大宮】
				[300] 宗教学概論A (2)【大宮】	[300] 宗教学概論B (2)【大宮】
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 哲学史(古代・中世)A (2)【大宮】	[300] 哲学史(古代・中世)B (2)【大宮】
				[300] 哲学史(近世)A (2)【大宮】	[300] 哲学史(近世)B (2)【大宮】
				[300] 倫理学史A (2)【大宮】	[300] 倫理学史B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 哲学講読G1(2)【深草】	[300] 哲学講読G2(2)【深草】
				《2年次のみ》	《2年次のみ》
				[300] 哲学講読H1(2)【深草】	[300] 哲学講読H2(2)【深草】
				《2年次のみ》	《2年次のみ》
				[300] 哲学講読I1(2)【深草】	[300] 哲学講読I2(2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 哲学基礎演習IA (2)【深草】	[200] 哲学基礎演習IB (2)【深草】	[300] 哲学基礎演習IIA (2)【深草】	[300] 哲学基礎演習IIB (2)【深草】
演習I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習I」(3年次)および「演習II」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 「卒業論文（哲学演習Ⅱ）」の先修要件について
「卒業論文」の履修については、前年次までに「哲学基礎演習ⅠA・ⅠB」「哲学基礎演習ⅡA・ⅡB」「哲学演習ⅠA・ⅠB」の合計12単位のうち、6単位以上を修得していること。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				2科目4単位選択必修
				2科目4単位選択必修
[600] 哲学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4科目8単位選択必修
[600] 哲学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 哲学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 哲学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 哲学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 哲学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 哲学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[400] 哲学講読A1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読A2 (2)【大宮】			4科目8単位必修。 年次指定《2年次のみ》4単位修得した上で《3年次以上》履修可能な講読4単位の修得が望ましいが、年次指定が《2年次のみ》の「講読」を修得できなかった場合は、年次指定《3年次以上》の科目を修得し、合計8単位修得しなければなりません。なお、《2年次のみ》の講読は、4単位まで講読分野の卒業要件単位とし、4単位を超えて修得した場合は選択専攻科目とする。
[400] 哲学講読B1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読B2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読C1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読C2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読D1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読D2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読E1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読E2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読F1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読F2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読J1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読J2 (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 哲学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 哲学演習ⅠB (2)【大宮】			2科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		3科目8単位必修
		[500] 哲学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 哲学演習ⅡA (2)【大宮】	

【哲学科教育学専攻カリキュラムマップ】人間本来の生き方、成長・発達メカニズム、そして心の問題総合的な人間学をベースに教育にアプローチします。



大学院 教育学専攻・臨床心理学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■哲学科教育学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2008～2011年度入学生】

▼哲学科教育学専攻の教育理念・目的

深い人間理解に基づいて、教育の本質・方法や社会・文化との関係、発達・成長・学習の心理学などについての基本的な考え方・見識を養い、人間本来の生き方や発達のメカニズムなどを追究して、生涯学習社会における実践的課題に応えられる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 教育学概論 (4)【両学舎】	
				[300] 教育心理学 (4)【両学舎】	
				[300] 教育社会学 (4)【両学舎】	
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 西洋教育史 (4)【大宮】	
				[300] 日本教育史 (4)【大宮】	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 教育学講読(C) (4)【深草】	
				[300] 教育学講読(D) (4)【深草】	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 教育学基礎演習 I (4)【深草】		[300] 教育学基礎演習 II (4)【深草】	
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				3科目12単位必修
				1科目4単位選択必修
[600] 教育学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4単位選択必修
[600] 教育学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 教育学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(G)B (2)【大宮】			
[400] 教育学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(H)B (2)【大宮】			
☆教育学特殊講義(I) (4)				
[400] 教育学特殊講義(I)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(I)B (2)【大宮】			
[400] ◎教育学特殊講義(J)A (2)【大宮】	[400] ◎教育学特殊講義(J)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(K)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(K)B (2)【大宮】			
☆教育学特殊講義(a) (2)				
[400] 教育学講読(A) (4)【大宮】				1科目4単位選択必修
[400] 教育学講読(B) (4)【大宮】				
☆ 教育学講読(E) (4)				
☆ 教育学講読(F) (4)				
☆ 教育学講読(G) (4)				
☆ 教育学講読(H) (4)				
				2科目8単位必修
[400] 教育学演習Ⅰ(4)【大宮】				1科目4単位選択必修
[400] 教育心理学演習Ⅰ(4)【大宮】				
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降) 卒業論文4単位を含み8単位必修
		[500] 教育学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 教育心理学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		☆ 卒業論文(教育学演習Ⅱ)(8)		(2014年3月まで) 1科目8単位必修
		☆ 卒業論文(教育心理学演習Ⅱ)(8)		

■哲学科教育学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2012年度以降入学生】

▼哲学科教育学専攻の教育理念・目的

深い人間理解に基づいて、教育の本質・方法や社会・文化との関係、発達・成長・学習の心理学などについての基本的な考え方・見識を養い、人間本来の生き方や発達のメカニズムなどを追究して、生涯学習社会における実践的課題に応えられる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

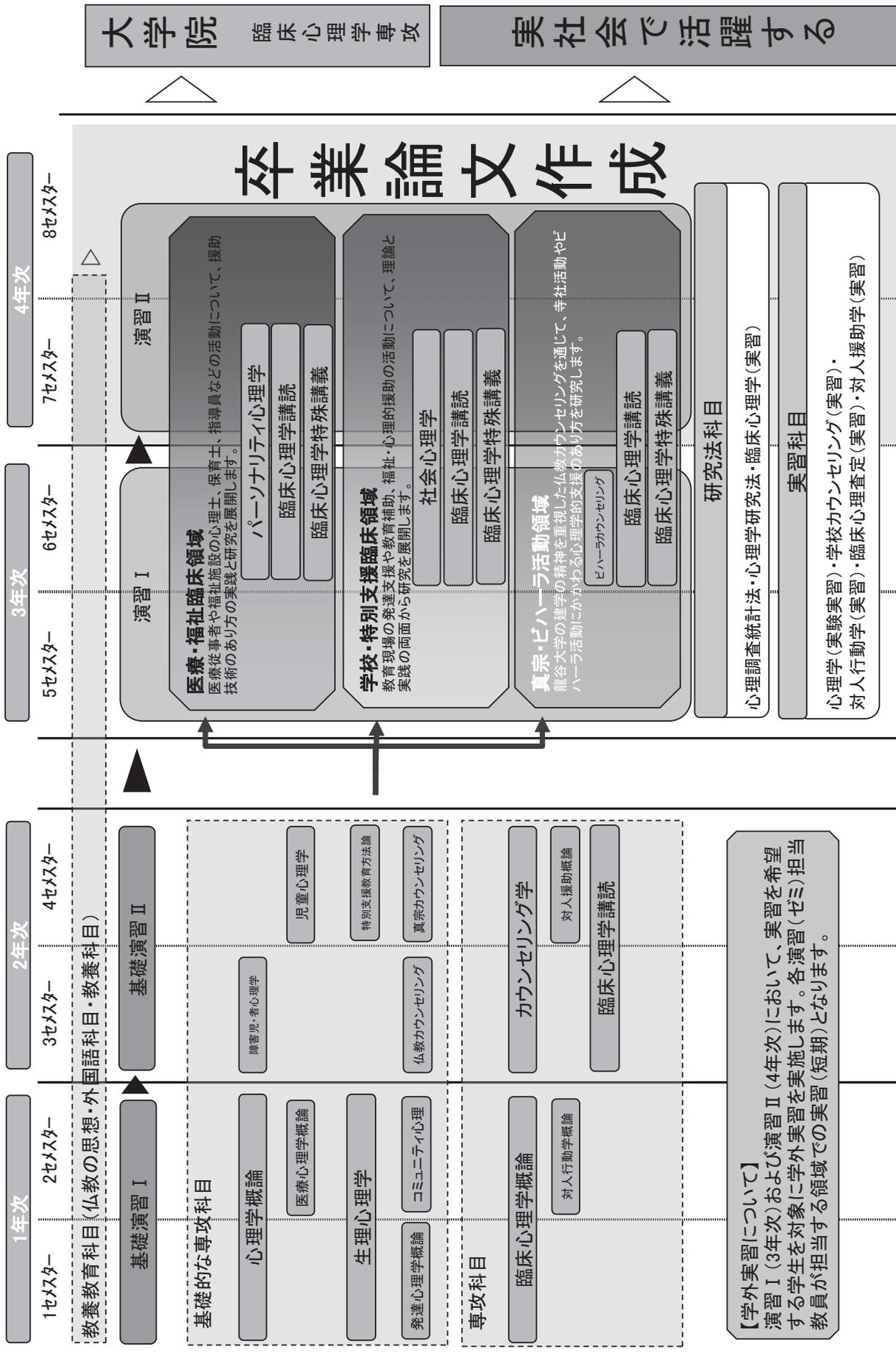
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 教育学概論(4)【両学舎】	
				[300] 教育心理学(4)【両学舎】	
				[300] 教育社会学(4)【両学舎】	
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 西洋教育史(4)【大宮】	
				[300] 日本教育史(4)【大宮】	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 教育学講読(C) (4)【深草】	
				[300] 教育学講読(D) (4)【深草】	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 教育学基礎演習 I (4)【深草】		[300] 教育学基礎演習 II (4)【深草】	
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定	
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester		
				3科目12単位必修	
				1科目4単位選択必修	
[600] 教育学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4単位選択必修	
[600] 教育学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(B)B (2)【大宮】				
[600] 教育学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(C)B (2)【大宮】				
[600] 教育学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(D)B (2)【大宮】				
[400] 教育学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(E)B (2)【大宮】				
[600] 教育学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(F)B (2)【大宮】				
[600] 教育学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(G)B (2)【大宮】				
[400] 教育学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(H)B (2)【大宮】				
[400] 教育学特殊講義(I)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(I)B (2)【大宮】				
[600] 教育学特殊講義(K)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(K)B (2)【大宮】				
[400] 教育学講読(A) (4)【大宮】					1科目4単位選択必修
[400] 教育学講読(B) (4)【大宮】					
[400] 教育学講読(E) (4)【大宮】					
				2科目8単位必修	
[400] 教育学演習Ⅰ(4)【大宮】				1科目4単位選択必修	
[400] 教育心理学演習Ⅰ(4)【大宮】					
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		卒業論文4単位を含み8単位必修	
		[500] 教育学演習Ⅱ (4)【大宮】			
		[500] 教育心理学演習Ⅱ (4)【大宮】			

【臨床心理学カリキュラムマップ】専門的な知識や技能を用い、人の心の問題や悩みを援助・予防するための力を養います。



【学外実習について】
 演習 I (3年次)および演習 II (4年次)において、実習を希望する学生を対象に学外実習を実施します。各演習(ゼミ)担当教員が担当する領域での実習(短期)となります。

■臨床心理学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼臨床心理学科の教育理念・目的

社会的に解決困難な心理的課題に対して、臨床心理学を基礎とした対人援助のためのコミュニケーション・スキルを身に付けることで具体的な解決のための方策を構築し、現代社会が抱える心理的課題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

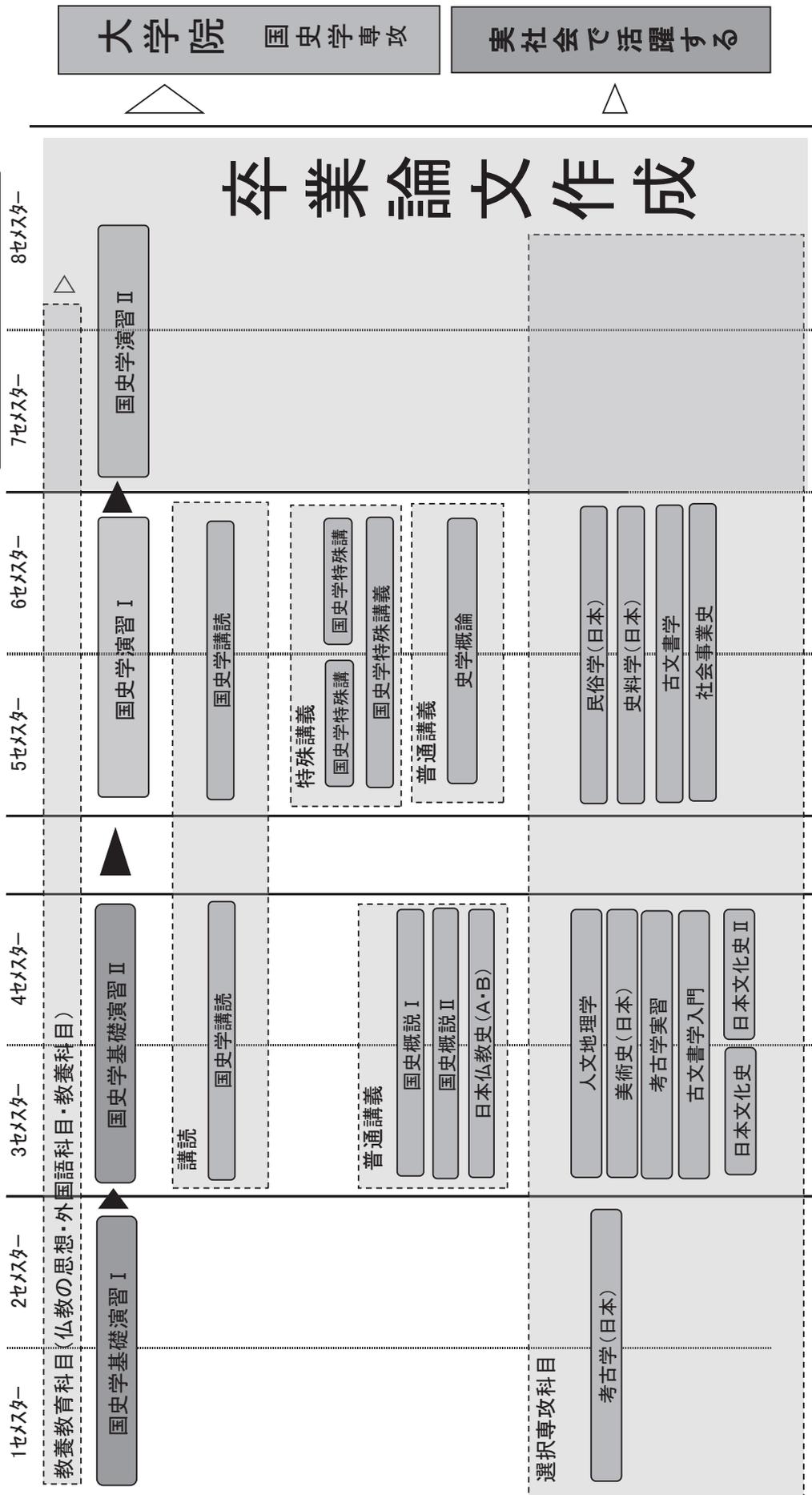
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 心理学概論A(2)【深草】	[200] 心理学概論B(2)【深草】		
		[100] 臨床心理学概論A(2)【深草】	[200] 臨床心理学概論B(2)【深草】		
		[100] 発達心理学概論(2)【深草】	[200] 対人行動学概論(2)【深草】		
普通講義B				[300] カウンセリング学A(2)【深草】	[300] カウンセリング学B(2)【深草】
				[300] 障害児・者心理学(2)【深草】	[300] 対人援助概論(2)【深草】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 臨床心理学講読A(A)(2)【深草】	[300] 臨床心理学講読A(B)(2)【深草】
				[300] 臨床心理学講読B(A)(2)【深草】	[300] 臨床心理学講読B(B)(2)【深草】
				[300] 臨床心理学講読C(A)(2)【深草】	[300] 臨床心理学講読C(B)(2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 臨床心理学基礎演習 I (4)【深草】		[300] 臨床心理学基礎演習 II (4)【深草】	
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定	
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester		
[400] 心理学研究法 (4)【大宮】				8科目18単位必修	
[400] 心理調査・統計法A (2)【大宮】					
				2科目4単位選択必修	
[400] 臨床心理学特殊講義A(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義A(B) (2)【大宮】			2科目4単位選択必修	
[400] 臨床心理学特殊講義B(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義B(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義C(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義C(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義D(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義D(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義E(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義E(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義F(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義F(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義G(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義G(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義H(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義H(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義I(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義I(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学特殊講義J(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義J(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学講読D(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学講読D(B) (2)【大宮】				2科目4単位選択必修
[400] 臨床心理学講読E(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学講読E(B) (2)【大宮】				
[400] 臨床心理学講読F(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学講読F(B) (2)【大宮】				
				2科目8単位必修	
☆臨床心理学演習Ⅰ (4)				4単位必修	
[400] 臨床心理学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 臨床心理学演習ⅠB (2)【大宮】				
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		3科目8単位必修	
		[500] 臨床心理学演習ⅡA (4)【大宮】	[500] 臨床心理学演習ⅡB (4)【大宮】		

【史学科国史学専攻カリキュラムマップ】 通説に疑問を持ち、独自の見方・考え方で歴史的事実を解明。歴史を学ぶと現代社会の問題点や自分の生き方が見えてきます。



大学院 国史学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■史学科国史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼史学科国史学専攻の教育理念・目的

日本史の各時代・領域に関する教育・研究を通して、専門知識・技能を修得し、併せて批判的精神と確かな歴史認識をもった歴史的主体として、現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 国史概説Ⅰ (4)【大宮】		
				[300] 国史概説Ⅱ (4)【大宮】		
				☆日本仏教史 (4)		
				[300] 日本仏教史A (2)【大宮】	[300] 日本仏教史B (2)【大宮】	
				「日本仏教史(4単位)」既修得者は履修不可		
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。					
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 日本史学講読F1 (4)【深草】	[300] 日本史学講読F2 (4)【深草】	
				[300] 日本史学講読G1 (4)【深草】	[300] 日本史学講読G2 (4)【深草】	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	☆ 国史学基礎演習Ⅰ (4)		☆ 国史学基礎演習Ⅱ (4)		
		[200] 日本史学基礎演習ⅠA(2)【深草】	[200] 日本史学基礎演習ⅠB(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習ⅡA(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習ⅡB(2)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。					
卒業論文						

《履修上の注意点》

- 「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 「国史学演習Ⅰ」「卒業論文（国史学演習Ⅱ）」「卒業論文」の先修要件について【2007年度以降入学生】
 - (1) 国史学演習Ⅰ／日本史学演習Ⅰ

前年次までに、次のいずれかの要件を充たすこと。

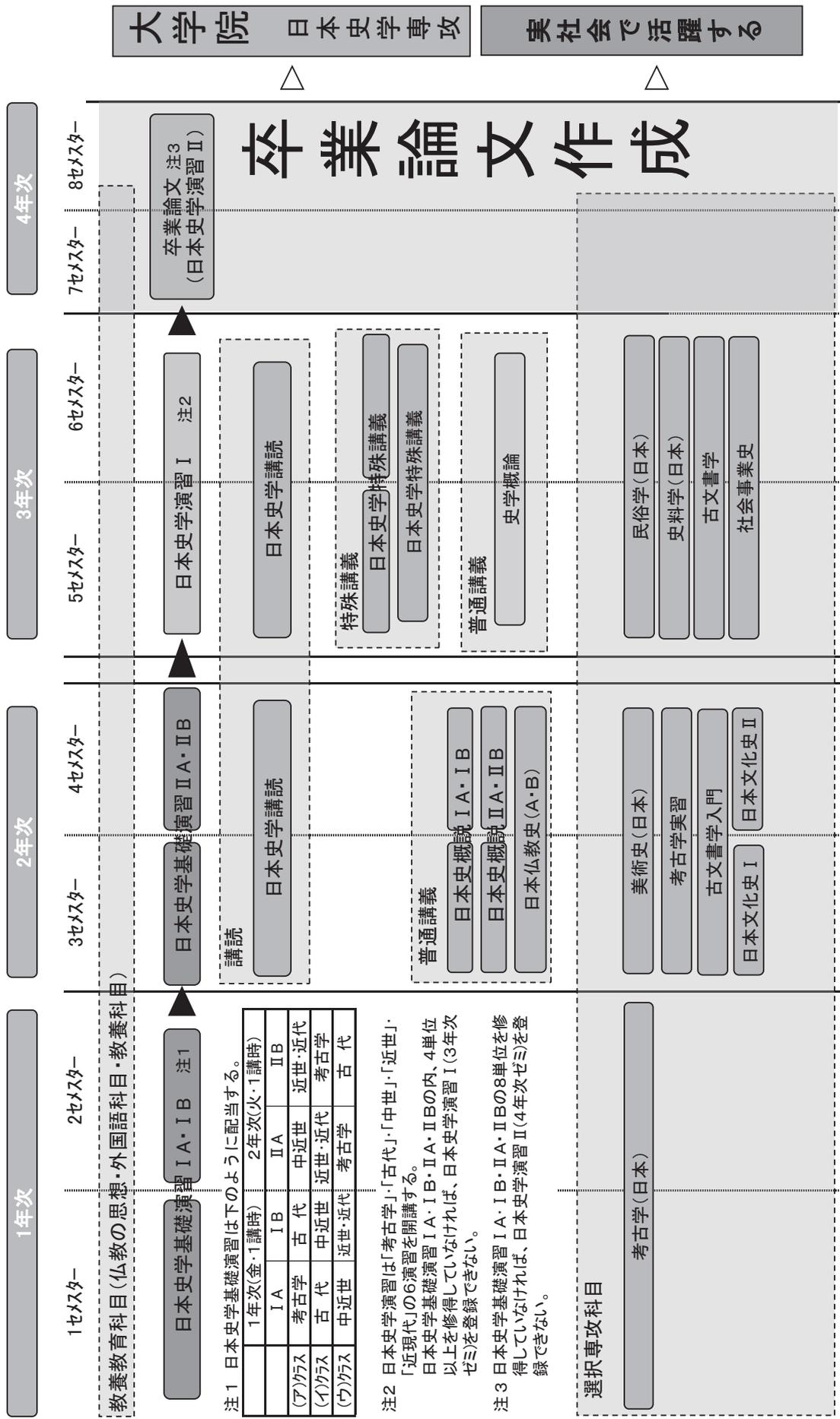
 - ① 「国史学基礎演習Ⅰ」（2011年度で廃止）もしくは「国史学基礎演習Ⅱ」（2012年度で廃止）のどちらかを修得していること。
 - ② 「日本史学基礎演習ⅠA」（2012年度以降開講）「日本史学基礎演習ⅠB」（2012年度以降開講）「日本史学基礎演習ⅡA」（2013年度以降開講）「日本史学基礎演習ⅡB」（2013年度以降開講）から4単位以上修得していること。
 - (2) 「卒業論文」の先修要件について

前年次までに、次のいずれかの要件を充たすこと。

 - ① 「国史学基礎演習Ⅰ」（2011年度で廃止）および「国史学基礎演習Ⅱ」（2012年度で廃止）を修得していること。
 - ② 「日本史学基礎演習ⅠA」（2012年度以降開講）「日本史学基礎演習ⅠB」（2012年度以降開講）「日本史学基礎演習ⅡA」（2013年度以降開講）「日本史学基礎演習ⅡB」（2013年度以降開講）全て修得していること。
- 卒業論文（4単位）は、日本史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
[400] 史学概論 (4)【大宮】				16単位必修
[600] 日本史学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4単位選択必修 (2013年度までの開講科目名は「国史学特殊講義」)
[600] 日本史学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(G)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(H)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(I)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(I)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(J)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(J)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(K)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(K)B (2)【大宮】			
[400] 日本史学特殊講義(L) (4)【大宮】				
[600] 日本史学講読A1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読A2 (2)【大宮】			
[600] 日本史学講読B1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読B2 (2)【大宮】			
[600] 日本史学講読C1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読C2 (2)【大宮】			
[600] 日本史学講読D1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読D2 (2)【大宮】			
[400] 日本史学講読E1 (2)【大宮】	[400] 日本史学講読E2 (2)【大宮】			
[400] 日本史学講読H1 (4)【大宮】	[400] 日本史学講読H2 (4)【大宮】			
				8単位必修
☆ 国史学演習Ⅰ (4)				1科目4単位必修
[400] 日本史学演習Ⅰ (4)【大宮】				
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降) 2科目8単位必修
		[500] 日本史学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		☆ 卒業論文(国史学演習Ⅱ) (8)		(2014年3月まで) 1科目8単位必修

【歴史学科日本史学専攻カリキュラムマップ】学説を踏まえつつ、自らの手で事実を解明。歴史を学ぶと現代の問題や自分の生き方が見えてきます。



■歴史学科日本史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼歴史学科日本史学専攻の教育理念・目的

日本史の各時代・領域に関する教育・研究を通して、専門知識・技能を修得し、併せて批判的精神と確かな歴史認識をもった歴史の主体として、現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 日本史概説ⅠA (2)【大宮】	[300] 日本史概説ⅠB (2)【大宮】
				[300] 日本史概説ⅡA (2)【大宮】	[300] 日本史概説ⅡB (2)【大宮】
				☆ 日本仏教史 (4)	
				[300] 日本仏教史A (2)【大宮】	[300] 日本仏教史B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			☆ 日本史学講読(F) (4)	
				[300] 日本史学講読F1 (2)【深草】	[300] 日本史学講読F2 (2)【深草】
				☆ 日本史学講読(G) (4)	
				[300] 日本史学講読G1 (2)【深草】	[300] 日本史学講読G2 (2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 日本史学基礎演習ⅠA(2)【深草】	[200] 日本史学基礎演習ⅠB(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習ⅡA(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習ⅡB(2)【深草】
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

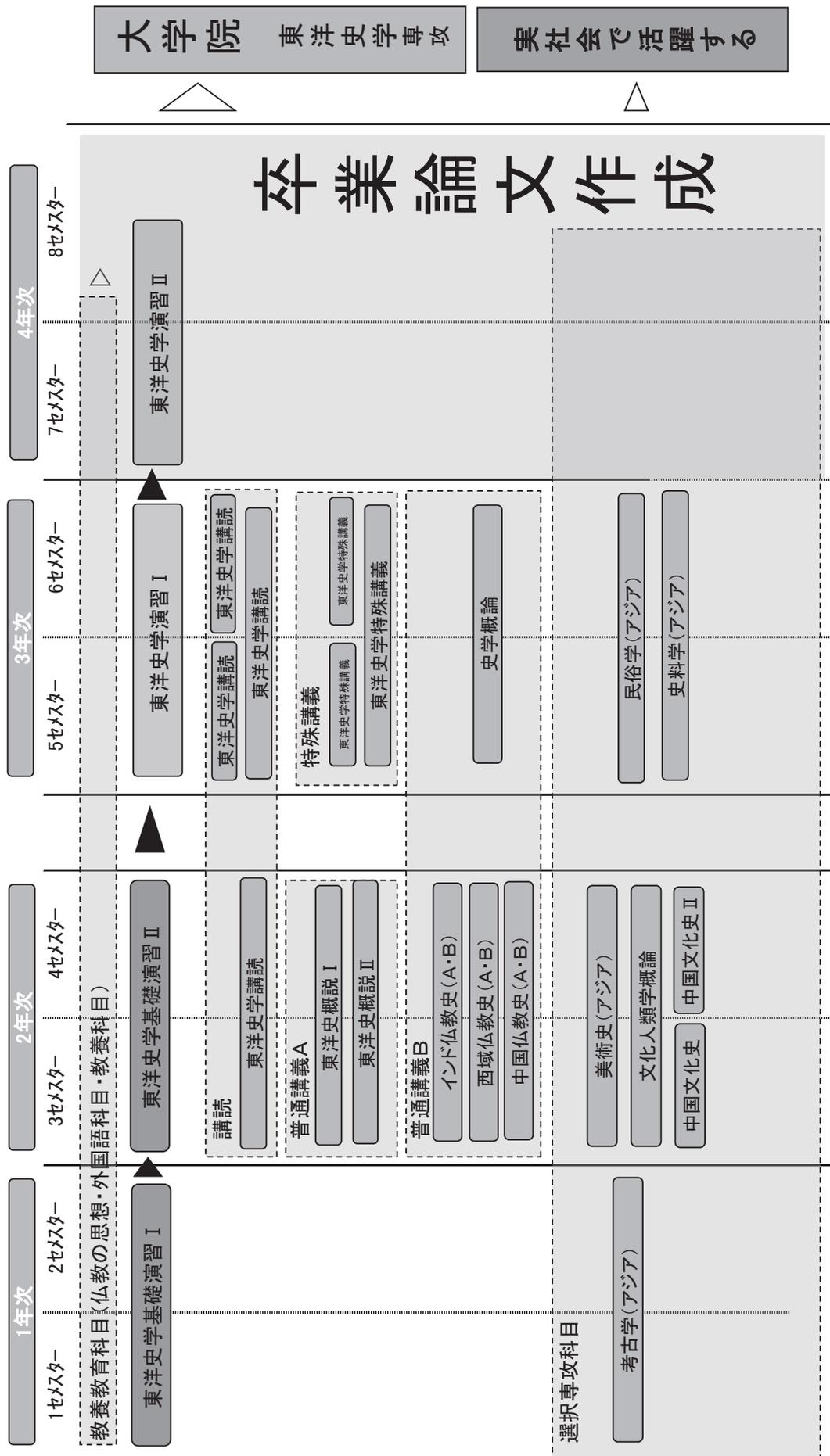
《履修上の注意点》

- 「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返し履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 「日本史学演習Ⅰ」「卒業論文」の先修要件について
 - ① 「日本史学演習Ⅰ」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA～ⅡB」の中から4単位以上を修得していること。
 - ② 「卒業論文」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA～ⅡB」の8単位を修得していること。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 卒業論文（4単位）は、日本史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定	
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester		
[400] 史学概論 (4)【大宮】				16単位必修	
[600] 日本史学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4単位選択必修	
[600] 日本史学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(B)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(C)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(D)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(E)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(F)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(G)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(H)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(I)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(I)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(J)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(J)B (2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(K)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(K)B (2)【大宮】				
[400] 日本史学特殊講義(L) (4)【大宮】					
[600] 日本史学講読A1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読A2 (2)【大宮】				4単位選択必修
[600] 日本史学講読B1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読B2 (2)【大宮】				
[600] 日本史学講読C1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読C2 (2)【大宮】				
[600] 日本史学講読D1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読D2 (2)【大宮】				
[400] 日本史学講読E1 (2)【大宮】	[400] 日本史学講読E2 (2)【大宮】				
[400] 日本史学講読H1 (4)【大宮】	[400] 日本史学講読H2 (4)【大宮】				
				4科目8単位必修	
[400] 日本史学演習Ⅰ (4)【大宮】				1科目4単位必修	
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		2科目8単位必修	
		[500] 日本史学演習Ⅱ (4)【大宮】			

【史学科／歴史学科専攻カリキュラムマップ】

広大なアジア全域の歴史・文化を学び、研究を深めるとともに漢字文化圏やイスラーム文化圏の諸言語を修得することも可能です。



大学院 東洋史学専攻

東社会で活躍する

■史学科／歴史学科東洋史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼史学科／歴史学科東洋史学専攻の教育理念・目的

中国をはじめ、アジア諸地域の歴史・文化・宗教・言語に関する専門的な知識と技能を修得し、明確な歴史認識をもち、広い視野に立ってアジア全体を深く洞察できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

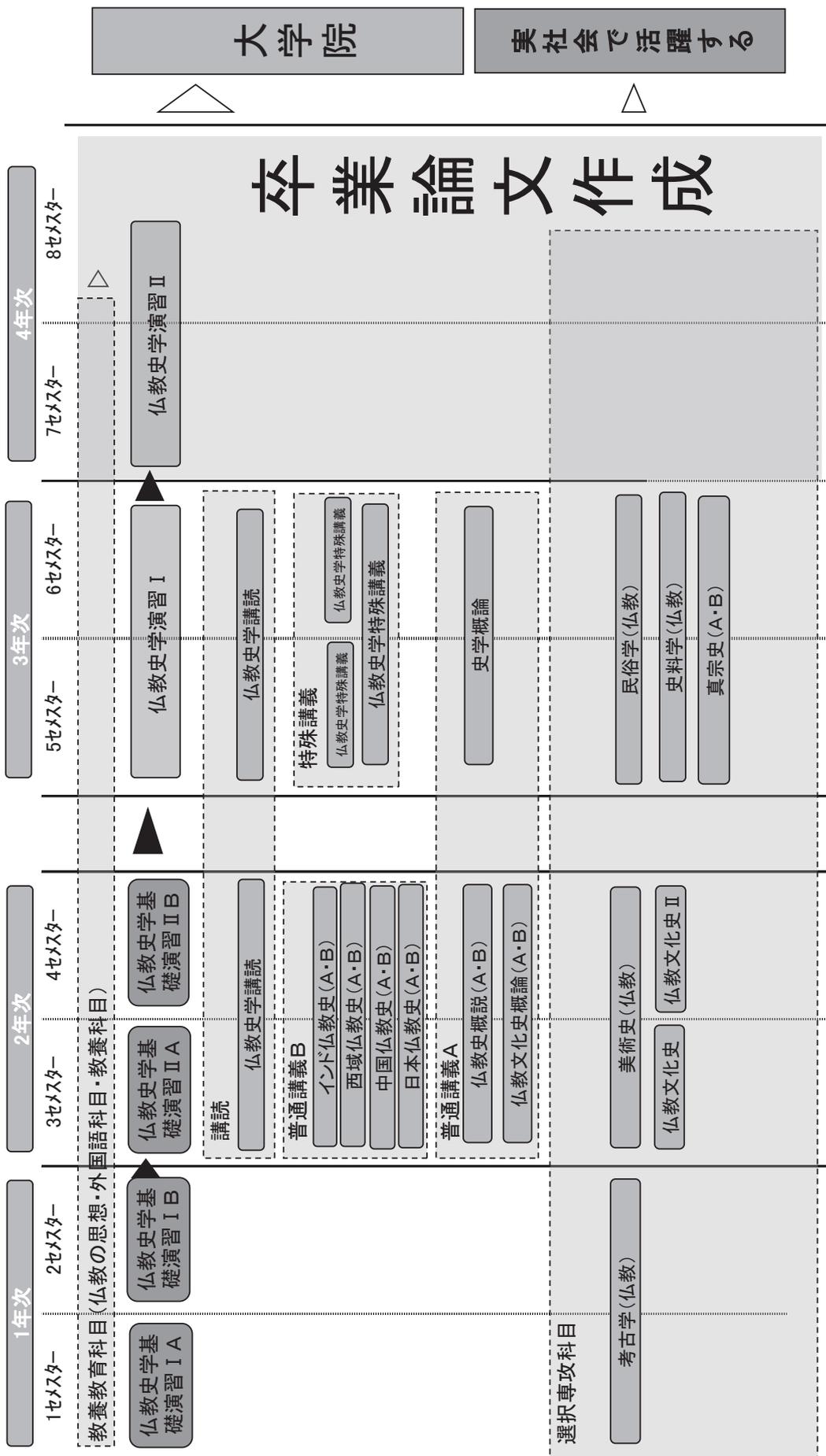
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 東洋史概説Ⅰ (4)【大宮】	
				[300] 東洋史概説Ⅱ (4)【大宮】	
普通講義B				☆インド仏教史 (4)	
				[300] インド仏教史A (2)【大宮】 [300] インド仏教史B (2)【大宮】	
				☆西域仏教史 (4)	
				[300] 西域仏教史A (2)【大宮】 [300] 西域仏教史B (2)【大宮】	
				☆中国仏教史 (4)	
				[300] 中国仏教史A (2)【大宮】 [300] 中国仏教史B (2)【大宮】	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 東洋史学講読(F) (4)【深草】《2年次のみ》	
				[300] 東洋史学講読(G) (4)【深草】《2年次のみ》	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的な学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 東洋史学基礎演習Ⅰ (4)【深草】		[300] 東洋史学基礎演習Ⅱ (4)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 2013年度からインド仏教史、西域仏教史、中国仏教史は4単位から2単位に変更となっています。すでに4単位科目を修得している場合は、2単位科目を履修することはできません。
- 卒業論文（4単位）は、東洋史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				2科目8単位必修
[400] 史学概論 (4)【大宮】				4単位選択必修
[600] 東洋史学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4単位選択必修
[600] 東洋史学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
☆[600] 東洋史学特殊講義(G) (4)【大宮】				
[600] 東洋史学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(G)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(H)B (2)【大宮】			
[400] 東洋史学講読(A) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(B) (4)【大宮】				
[600] 東洋史学講読(C)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学講読(C)B (2)【大宮】			
☆東洋史学講読(D)A (2)	☆東洋史学講読(D)B (2)			
[400] 東洋史学講読(D) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(E) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(H) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(I) (4)【大宮】				
				2科目8単位必修
[400] 東洋史学演習Ⅰ (4)【大宮】				1科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降)
		[500] 東洋史学演習Ⅱ (4)【大宮】		2科目8単位必修
		☆卒業論文(東洋史学演習Ⅱ) (8)【大宮】		(2014年3月まで) 1科目8単位必修

【史学科／歴史学科仏教史学専攻カリキュラムマップ】私たちの精神の根底にある「仏教」の歴史を知ることによって人間とは？仏教とは？という本質的な問いを探究します。



■史学科／歴史学科仏教史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼史学科／歴史学科仏教史学専攻の教育理念・目的

歴史的な視点に立って、仏教が、それぞれの時代・地域の中でどのように受け入れられ展開してきたのかを考察することにより、歴史的主体として現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

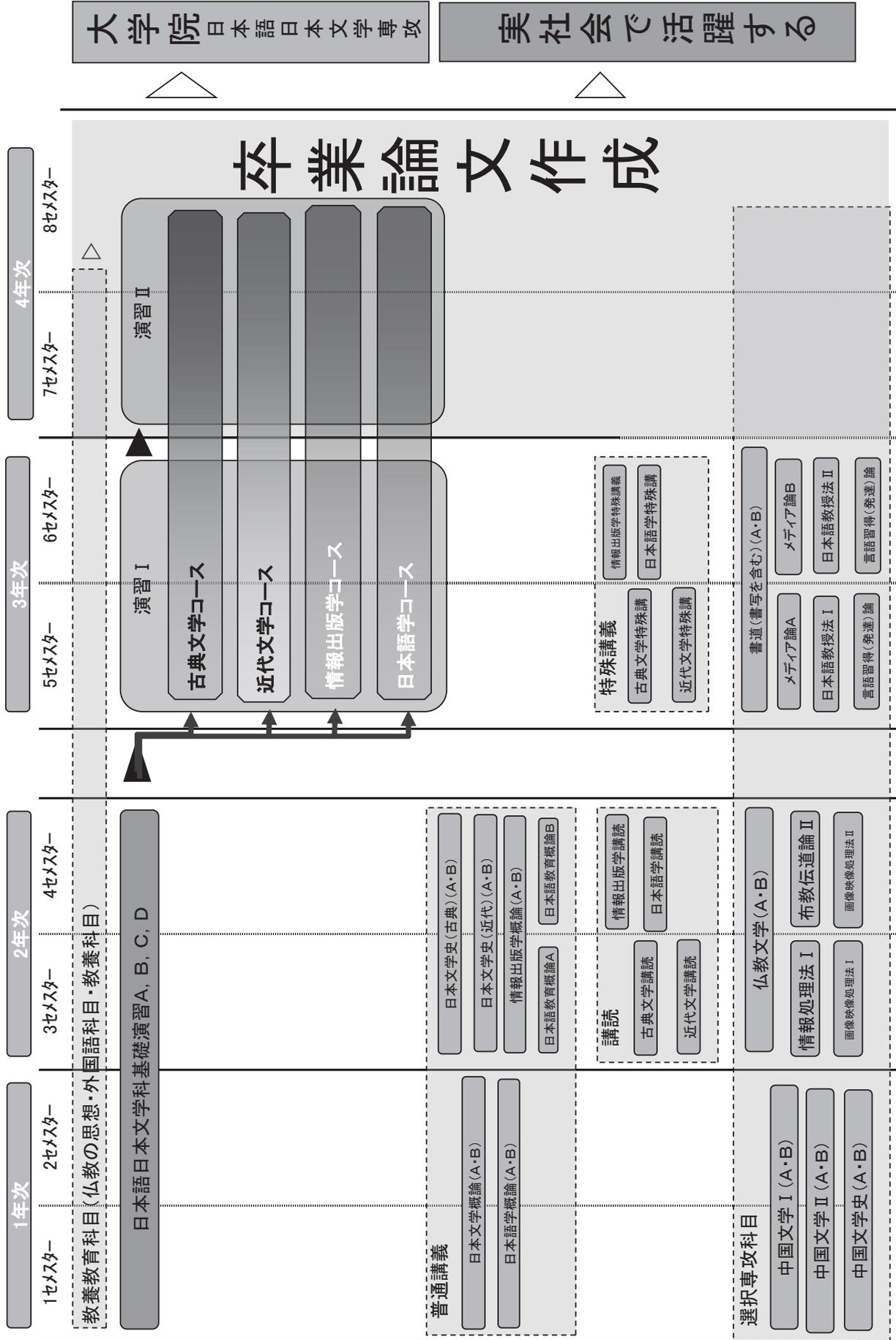
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			☆仏教史概説 (4) [300] 仏教史概説A (2)【大宮】 [300] 仏教史概説B (2)【大宮]	
				☆仏教文化史概論 (4) [300] 仏教文化史概論A (2)【大宮】 [300] 仏教文化史概論B (2)【大宮]	
普通講義B				☆インド仏教史 (4) [300] インド仏教史A (2)【大宮】 [300] インド仏教史B (2)【大宮]	
				☆西域仏教史 (4) [300] 西域仏教史A (2)【大宮】 [300] 西域仏教史B (2)【大宮]	
				☆日本仏教史 (4) [300] 日本仏教史A (2)【大宮】 [300] 日本仏教史B (2)【大宮]	
				☆中国仏教史 (4) [300] 中国仏教史A (2)【大宮】 [300] 中国仏教史B (2)【大宮]	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			☆仏教史学講読(F) (4)《2年次のみ》 ☆仏教史学講読(G) (4)《2年次のみ》 [300] 仏教史学講読F1 (2)【深草】 [300] 仏教史学講読F2 (2)【深草] 《2年次のみ》 《2年次のみ》 [300] 仏教史学講読G1 (2)【深草】 [300] 仏教史学講読G2 (2)【深草] 《2年次のみ》 《2年次のみ》 [300] 仏教史学講読H1 (2)【大宮】 [300] 仏教史学講読H2 (2)【大宮] 《2年次のみ》 《2年次のみ》	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 仏教史学基礎演習 I A(2)【深草】	[200] 仏教史学基礎演習 I B(2)【深草】	[300] 仏教史学基礎演習 II A(2)【深草】	[300] 仏教史学基礎演習 II B(2)【深草】
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 2013年度から同一科目名称で4単位から2単位に変更となっています。すでに4単位科目を修得している場合は、2単位科目を履修することはできません（例：仏教史概説4単位修得者は仏教史概説A・仏教史概説Bを履修できない）。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 卒業論文（4単位）は、仏教史学演習ⅡA・ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないで登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
[400] 史学概論 (4)【大宮】				8単位選択必修
				4単位選択必修
[400] 仏教史学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義A2 (2)【大宮】	3年次		4単位選択必修
[400] 仏教史学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義B2 (2)【大宮】	第5セメスター 第6セメスター		
[600] 仏教史学特殊講義C1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学特殊講義C2 (2)【大宮】	☆仏教史学特殊講義(A) (4)		
[400] 仏教史学特殊講義D1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義D2 (2)【大宮】	☆仏教史学特殊講義(A) (2)		
[600] 仏教史学特殊講義E1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学特殊講義E1 (2)【大宮】	☆仏教史学特殊講義(B) (4)		
[400] 仏教史学特殊講義F1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義F2 (2)【大宮】	☆仏教史学特殊講義(C) (4)		
[400] 仏教史学特殊講義G1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義G2 (2)【大宮】	☆仏教史学特殊講義(C)A (2) ☆仏教史学特殊講義(C)B (2)		
[400] 仏教史学特殊講義H1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義H2 (2)【大宮】	☆仏教史学特殊講義(D) (4)		
[400] 仏教史学特殊講義I1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義I2 (2)【大宮】	☆仏教史学特殊講義(D)A (2) ☆仏教史学特殊講義(D)B (2)		
		☆仏教史学特殊講義(E) (4)		
		☆仏教史学特殊講義(E)A (2) ☆仏教史学特殊講義(E)B (2)		
		☆仏教史学特殊講義(F) (4)		
		☆仏教史学特殊講義(G) (4)		
		☆仏教史学特殊講義(H) (4)		
		☆仏教史学特殊講義(I) (4)		
[600] 仏教史学講読A1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学講読A2 (2)【大宮】	3年次		年次指定《2年次のみ》4単位及び《3年次以上》履修可能な講読4単位の合計8単位必修。 年次指定が《2年次のみ》の「講読」を修得できなかった場合は、年次指定《3年次以上》の科目で修得しなければなりません。
[600] 仏教史学講読B1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学講読B2 (2)【大宮】	第5セメスター 第6セメスター		
[400] 仏教史学講読C1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学講読C2 (2)【大宮】	☆仏教史学講読(A) (4)		
[400] 仏教史学講読D1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学講読D2 (2)【大宮】	☆仏教史学講読(B) (4)		
[400] 仏教史学講読E1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学講読E2 (2)【大宮】	☆仏教史学講読(C) (4)		
		☆仏教史学講読(D) (4)		
		☆仏教史学講読(E) (4)		
		☆仏教史学講読(H) (4)		
☆ 仏教史学演習Ⅰ(4)【大宮】				4科目8単位必修
[400] 仏教史学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 仏教史学演習ⅠB (2)【大宮】			4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降) 3科目8単位必修
		[500] 仏教史学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 仏教史学演習ⅡA (2)【大宮】	
		☆ 卒業論文(仏教史学演習Ⅱ)(8)【大宮】		(2014年3月まで) 1科目8単位必修

【日本語日本文学科カリキュラムマップ】豊富な古典籍に囲まれて日本語・日本文学の真髄にふれる喜び。情報出版学コースも設置し、「ことばのプロ」を育成しています。



■日本語日本文学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2007～2014年度入学生】

▼日本語日本文学科の教育理念・目的

日本語の正しい理解力、日本の言語文化に関する専門的読解力、論理的思考力、および表現力を修得し、「ことば」によって成り立つ社会の持続的発展に主体的に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	☆日本文学概論 (4)		☆日本文学史(古典) (4)	
		[100] 日本文学概論A (2)【両学舎】	[200] 日本文学概論B (2)【両学舎】	[300] 日本文学史(古典)A (2)【大宮】	[300] 日本文学史(古典)B (2)【大宮】
		☆日本語学概論 (4)		☆日本文学史(近代) (4)	
		[100] 日本語学概論A (2)【両学舎】	[200] 日本語学概論B (2)【両学舎】	[300] 日本文学史(近代)A (2)【大宮】	[300] 日本文学史(近代)B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			☆情報出版学概論 (4)	
				[300] 情報出版学概論A (2)【大宮】	[300] 情報出版学概論B (2)【大宮】
				[300] 日本語教育概論A (2)【大宮】	[300] 日本語教育概論B (2)【大宮】
				[300] 情報出版学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[300] 情報出版学特殊講義(A)B (2)【大宮】
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 古典文学講読A(A) (2)【深草】	[300] 古典文学講読A(B) (2)【深草】
				[300] 古典文学講読B(A) (2)【大宮】	[300] 古典文学講読B(B) (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読C(A) (2)【大宮】	[300] 古典文学講読C(B) (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読D(A) (2)【大宮】	[300] 古典文学講読D(B) (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読E (4)【大宮】	
				[300] 古典文学講読F (4)【大宮】	
				[300] 近代文学講読A(A) (2)【大宮】	[300] 近代文学講読A(B) (2)【大宮】
				[300] 近代文学講読B(A) (2)【大宮】	[300] 近代文学講読B(B) (2)【大宮】
				[300] 近代文学講読C(A) (2)【深草】	[300] 近代文学講読C(B) (2)【深草】
				[300] 情報出版学講読A(A) (2)【大宮】	[300] 情報出版学講読A(B) (2)【大宮】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	A～Dはクラスにより履修する順序が異なる。			
		[200] 日本語日本文学基礎演習A (2)【深草】	[200] 日本語日本文学基礎演習B (2)【深草】	[300] 日本語日本文学基礎演習C (2)【深草】	[300] 日本語日本文学基礎演習D (2)【深草】
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追及し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 「演習Ⅰ」「卒業論文」はいずれか1科目しか履修登録できません。
- 日本語日本文学基礎演習A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
				12単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 古典文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 情報出版学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 情報出版学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
☆情報出版学特殊講義(α)《3年次のみ》				
[400] 日本語学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 日本語学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 日本語学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
				8単位選択必修
				4科目8単位必修
☆ 古典文学演習Ⅰ (4)				4単位必修 2単位科目の場合、同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 古典文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 古典文学演習ⅠB (2)【大宮】			
☆ 近代文学演習Ⅰ (4)				
[400] 近代文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 近代文学演習ⅠB (2)【大宮】			
☆ 情報出版学演習Ⅰ (4)				
[400] 情報出版学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 情報出版学演習ⅠB (2)【大宮】			
☆ 日本語学演習Ⅰ (4)				
[400] 日本語学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 日本語学演習ⅠB (2)【大宮】			
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降) 卒業論文4単位及び、演習ⅡA・ⅡB(同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学))の4単位、合計8単位必修。
		[500] 古典文学演習Ⅱ (8)【大宮】		
		[500] 近代文学演習Ⅱ (8)【大宮】		
		[500] 情報出版学演習Ⅱ (8)【大宮】		
		[500] 日本語学演習Ⅱ (8)【大宮】		
		[500] 卒業論文(古典文学演習Ⅱ) (8)【大宮】		(2014年3月まで) 1科目8単位選択必修
		[500] 卒業論文(近代文学演習Ⅱ) (8)【大宮】		
		[500] 卒業論文(情報出版学演習Ⅱ) (8)【大宮】		
		[500] 卒業論文(日本語学演習Ⅱ) (8)【大宮】		

■日本語日本文学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧【2015年度以降入学生】

▼日本語日本文学科の教育理念・目的

日本語の正しい理解力、日本の言語文化に関する専門的読解力、論理的思考力、および表現力を修得し、「ことば」によって成り立つ社会の持続的発展に主体的に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

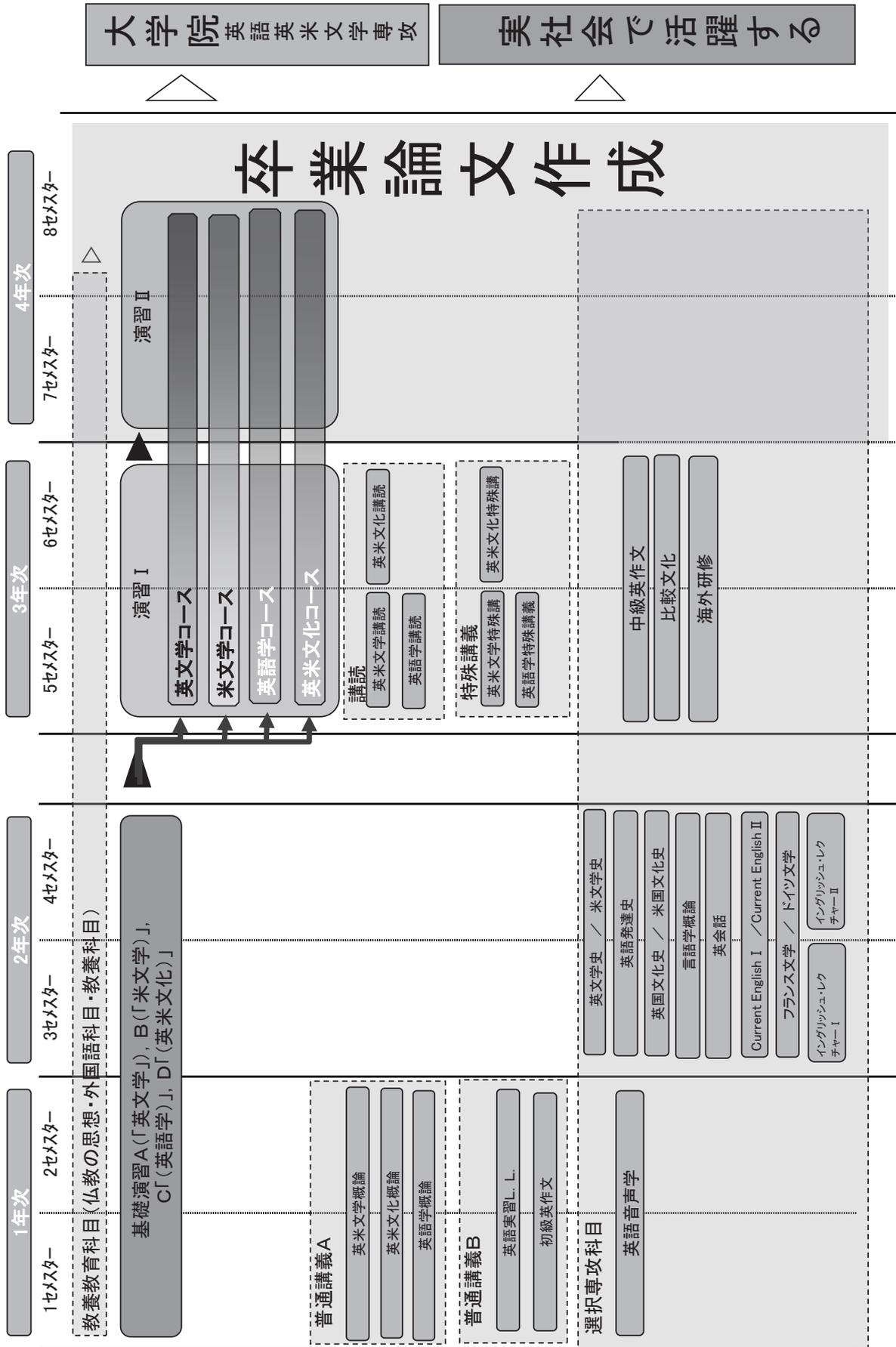
区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 日本文学概論A (2)【両学舎】	[200] 日本文学概論B (2)【両学舎】	[300] 日本文学史(古典)A (2)【大宮】	[300] 日本文学史(古典)B (2)【大宮】
		[100] 日本語学概論A (2)【両学舎】	[200] 日本語学概論B (2)【両学舎】	[300] 日本文学史(近代)A (2)【大宮】	[300] 日本文学史(近代)B (2)【大宮】
				[300] 情報出版学概論A (2)【大宮】	[300] 情報出版学概論B (2)【大宮】
				[300] 日本語教育概論A (2)【大宮】	[300] 日本語教育概論B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			[300] 情報出版学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[300] 情報出版学特殊講義(A)B (2)【大宮】
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 古典文学講読A(A) (2)【深草】	[300] 古典文学講読A(B) (2)【深草】
				[300] 古典文学講読B(A) (2)【大宮】	[300] 古典文学講読B(B) (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読C(A) (2)【大宮】	[300] 古典文学講読C(B) (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読D(A) (2)【大宮】	[300] 古典文学講読D(B) (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読E (4)【大宮】	[300] 古典文学講読F (4)【大宮】
				[300] 近代文学講読A(A) (2)【大宮】	[300] 近代文学講読A(B) (2)【大宮】
				[300] 近代文学講読B(A) (2)【大宮】	[300] 近代文学講読B(B) (2)【大宮】
				[300] 近代文学講読C(A) (2)【深草】	[300] 近代文学講読C(B) (2)【深草】
				[300] 情報出版学講読A(A) (2)【大宮】	[300] 情報出版学講読A(B) (2)【大宮】
				[300] 情報出版学講読B(A) (2)【深草】	[300] 情報出版学講読B(B) (2)【深草】
				[300] 情報出版学講読C(A) (2)【大宮】	[300] 情報出版学講読C(B) (2)【大宮】
				[300] 日本語学講読A(A) (2)【深草】	[300] 日本語学講読A(B) (2)【深草】
		[300] 日本語学講読B(A) (2)【大宮】	[300] 日本語学講読B(B) (2)【大宮】		
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	A～Dはクラスにより履修する順序が異なる。			
		[200] 日本語日本文学基礎演習A (2)【深草】	[200] 日本語日本文学基礎演習B (2)【深草】	[300] 日本語日本文学基礎演習C (2)【深草】	[300] 日本語日本文学基礎演習D (2)【深草】
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および				
卒業論文	「演習 II」(4年次)を開講する。				

《履修上の注意点》

- 「普通講義」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 「演習Ⅰ」「卒業論文」はいずれか1科目しか履修登録できません。
- 日本語日本文学基礎演習A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- ☆印の科目は、現在開講されていません。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				12単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 古典文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[800] 情報出版学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[800] 情報出版学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[800] 日本語学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[800] 日本語学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
				8単位選択必修
				4科目8単位必修
[400] 古典文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 古典文学演習ⅠB (2)【大宮】			4単位必修 同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 近代文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 近代文学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 情報出版学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 情報出版学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 日本語学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 日本語学演習ⅠB (2)【大宮】			
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		卒業論文4単位及び、演習ⅡA・ⅡB(同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学))の4単位、合計8単位必修。
		[500] 古典文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 近代文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 情報出版学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 日本語学演習Ⅱ (4)【大宮】		

【英語英文学科カリキュラムマップ】ネイティブ・スピーカーの教員が英語で展開する多彩な授業が好評。学問と実践的な英語を同時に学ぶことができる、魅力的な学科です。



■英語英米文学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼英語英米文学科の教育理念・目的

英国・米国をはじめとする英語圏に関する言語・文学・文化についての知識を修得し、広い視野に立って英語圏地域を深く洞察する能力を身に付け、国際化する現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[200] 英米文学概論 (4)【両学舎】			
		[200] 英米文化概論 (4)【両学舎】			
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[200] 英語学概論 (4)【両学舎】			
		[200] 英語実習L・L (2)【深草】			
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。	[200] 初級英作文 (2)【深草】			
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。				
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	【2011年度以降入学生】A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。			
		【2010年度以前入学生】			
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。	[200] 英語英米文学基礎演習A(「英文学」)(2)【深草】	[200] 英語英米文学基礎演習B(「米文学」)(2)【深草】	[200] 英語英米文学基礎演習C(「英語学」)(2)【深草】	[200] 英語英米文学基礎演習D(「米文化」)(2)【深草】
		[200] 英語英米文学基礎演習 I A (2)【深草】	[200] 英語英米文学基礎演習 I B (2)【深草】	[200] 英語英米文学基礎演習 II A (2)【深草】	[200] 英語英米文学基礎演習 II B (2)【深草】
卒業論文					

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 「演習Ⅰ」「卒業論文」はいずれか1科目しか履修登録できません。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				2科目8単位選択必修
				2科目4単位必修
[400] 英米文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 英米文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 英米文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[400] 英語学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 英語学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文化特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 英米文化特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(A)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(B)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(C)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(C)B (2)【大宮】			4科目8単位選択必修
[400] 英米文学講読(D)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(D)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(E)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(E)B (2)【大宮】			
[400] 英語学講読(A)A (2)【大宮】	[400] 英語学講読(A)B (2)【大宮】			
[400] 英語学講読(B)A (2)【大宮】	[400] 英語学講読(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化講読(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文化講読(A)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化講読(B)A (2)【大宮】	[400] 英米文化講読(B)B (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
☆ 米文学演習Ⅰ (4)				
[400] 米文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 米文学演習ⅠB (2)【大宮】			
☆ 英文学演習Ⅰ (4)				
[400] 英文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 英文学演習ⅠB (2)【大宮】			
☆ 英語学演習Ⅰ (4)				4単位必修 2単位科目の場合、同一分野(米文学、英文学、英語学、英米文化)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 英語学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 英語学演習ⅠB (2)【大宮】			
☆ 英米文化演習Ⅰ (4)				
[400] 英米文化演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 英米文化演習ⅠB (2)【大宮】			
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		(2015年4月以降) 卒業論文4単位及び演習Ⅱの合計8単位必修。
		[500] 米文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 英文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 英語学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 英米文化演習Ⅱ (4)【大宮】		
		☆ 卒業論文(米文学演習Ⅱ) (8)【大宮】		(2014年3月まで) 1科目8単位選択必修
		☆ 卒業論文(英文学演習Ⅱ) (8)【大宮】		
		☆ 卒業論文(英語学演習Ⅱ) (8)【大宮】		
		☆ 卒業論文(英米文化演習Ⅱ) (8)【大宮】		

■選択専攻科目 開講科目一覧

■履修方法

- 以下の表から自由に選択し、24単位以上を修得しなければなりません。24単位を超えて修得した単位は、「フリーズン」の単位として卒業要件単位に含めることができます。
- 各学科・専攻ごとに定められた必修専攻科目の規定の単位を満たし、それを超えて修得した必修専攻科目については、選択専攻科目として扱われます(下表の備考欄に詳細は記載しています)。
- 選択専攻科目「総合講義」「総合講義A」「総合講義B」「人文系講義」「社会系講義」「社会系講義A」「社会系講義B」「自然系講義」は、毎年それぞれの講義内容を変えて開講するため、同一科目の場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「総合講義」を修得した次年度に「総合講義」を再度履修登録することができます。
- 臨床心理学科開講科目以外の「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読(A)」を修得した次年度に「講読(A)」を再度履修登録することができます。

	1年次		2年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
真宗学科関係科目	真宗学科必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、			
	☆真宗学概論B (4)			
	[200] 真宗学概論B1 (2)【深草】	[200] 真宗学概論B2 (2)【深草】		
	[200] 真宗教団史 (4)【深草】			
仏教学科関係科目	仏教学科必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	☆サンスクリット語Ⅰ (2)		☆サンスクリット語Ⅱ (2)	
	☆チベット語Ⅰ (2)		☆サンスクリット語A (2)	
	[100] 仏教美術(イコノロジー)入門A (2)【深草】	[200] 仏教美術(イコノロジー)入門A (2)【深草】	[300] サンスクリット語A1 (1)【深草】	[300] サンスクリット語A2 (1)【深草】
	[100] アジアの仏教と文化 (2)【深草】	[200] 日本の仏教と文化 (2)【深草】	「サンスクリット語Ⅰ」既修得者は履修不可	
			「サンスクリット語A」既修得者は履修不可	
			☆サンスクリット語B (2)	
			[300] サンスクリット語B1 (1)【大宮】	[300] サンスクリット語B2 (1)【大宮】
			「サンスクリット語Ⅱ」既修得者は履修不可	
			「サンスクリット語B」既修得者は履修不可	
			☆チベット語Ⅱ (2)	
			☆チベット語A (2)	
			[300] チベット語A1 (1)【深草】	[300] チベット語A2 (1)【深草】
			「チベット語Ⅰ」既修得者は履修不可	
			「チベット語A」既修得者は履修不可	
			☆チベット語B (2)【大宮】	
			[300] チベット語B1 (1)【大宮】	[300] チベット語B2 (1)【大宮】
			「チベット語Ⅱ」既修得者は履修不可	
			「チベット語B」既修得者は履修不可	
			☆パーリ語 (2)	
			[300] パーリ語A (1)【大宮】	[300] パーリ語B (1)【大宮】
			「パーリ語」既修得者は履修不可	
			[300] 仏教漢文の世界A (2)【深草】	[300] 仏教漢文の世界B (2)【深草】
		[300] 古都の仏教 (2)【深草】	[300] 仏教と人生の課題 (2)【深草】	
		[300] 世界の仏教 (2)【深草】		
		☆仏教学概論B (4)		
		[300] 仏教学概論B1 (2)【深草】	[300] 仏教学概論B2 (2)【深草】	
		「仏教学概論B」既修得者は履修不可		
哲学科哲学専攻関係科目	哲学科哲学専攻必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	[200] 宗教と倫理(2)【キャンパスプラザ京都】	[200] 宗教と平和(2)【キャンパスプラザ京都】	☆科学哲学(4)	
			[300] 科学哲学A(2)【深草】	[300] 科学哲学B(2)【深草】
			☆社会哲学(4)	
			[300] 社会哲学A(2)【大宮】	[300] 社会哲学B(2)【大宮】
			☆宗教社会学(4)	
			[300] 宗教社会学A(2)【深草】	[300] 宗教社会学B(2)【深草】
			☆宗教心理学(4)	
			[300] 宗教心理学A(2)【深草】	[300] 宗教心理学B(2)【深草】
			☆現代思想(4)	
		[300] 現代思想A(2)【深草】	[300] 現代思想B(2)【深草】	

■履修上の注意

○ ☆印の科目は、現在開講されていません。

▼選択専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針《抜粋》

○学生の多様な興味・関心を喚起し、学修意欲を促進するために、どの科目を履修するかはすべて学生の選択に任せられている「選択科目」を開講する。

3年次		備考
第5セメスター	第6セメスター	
特殊講義、講読の科目		真宗学科以外の学生
[400] 布教伝道論 I (2)【大宮】	[400] 布教伝道論 II (2)【大宮】	「真宗学概論B」(4単位)修得者は、「真宗学概論B1」「真宗学概論B2」は履修不可。
[400] 文書伝道論 I (2)【大宮】	[400] 文書伝道論 II (2)【大宮】	
講読(仏教漢文入門A・Bを除く)の科目		仏教学科以外の学生
☆チベットの仏教と文化 (4)		■語学科目の先修制について サンスクリット語A2、B2、チベット語A2、B2、パーリ語Bの受講にあたっては、それぞれA1、B1、Aの科目の単位を修得していなければ履修することができません。
☆インドの仏教と文化 (4)		
☆仏教と異思想 (4)		■古都の仏教、世界の仏教は隔年開講。
[400] 仏教と異思想A (2)【大宮】	[400] 仏教と異思想B (2)【大宮】	
「仏教と異思想(4単位)」既修得者は履修不可		
[400] インドの仏教と文化A (2)【大宮】	[400] インドの仏教と文化B (2)【大宮】	
☆仏教文献情報学 I (2)【大宮】		■古都の仏教、世界の仏教は隔年開講。
☆仏教文献情報学 II (2)【大宮】		
[400] 仏典情報研究論A(2)【大宮】	[400] 仏典情報研究論B(2)【大宮】	
「仏教文献情報学 I」既修得者は履修不可		
「仏教文献情報学 II」既修得者は履修不可		
☆現代アジアの仏教と社会(4)		
[400] 現代アジアの仏教と社会A (2)【大宮】	[400] 現代アジアの仏教と社会B (2)【大宮】	
「現代アジアの仏教と社会」(4単位)既修得者は履修不可		
[400] 仏教と日本の文化A (4)【大宮】		
[400] 仏教と日本の文化B1 (2)【大宮】	[400] 仏教と日本の文化B2 (2)【大宮】	
[400] 仏教と日本の文化C (2)【大宮】	[400] 仏教と日本の文化D (2)【大宮】	
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		哲学科哲学専攻以外の学生
☆美学概論 (4)		同一科目名称で4単位科目の既修得者は2単位科目は履修不可
[400] 美学概論A (2) 【大宮】	[400] 美学概論B (2) 【大宮】	
☆キリスト教神学 (4)		
[400] キリスト教神学A (2) 【大宮】	[400] キリスト教神学B (2) 【大宮】	
☆聖書研究 (4)		
[400] 聖書研究A (2) 【大宮】	[400] 聖書研究B (2) 【大宮】	
☆キリスト教史 (4)		
[400] キリスト教史A (2) 【大宮】	[400] キリスト教史B (2) 【大宮】	
☆中国哲学史 (4)		
[400] 中国哲学史A (2) 【大宮】	[400] 中国哲学史B (2) 【大宮】	

	1年次		2年次		
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	
哲学科教育学専攻関係科目 臨床心理学科関係科目	哲学科教育学専攻必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、 臨床心理学科専攻必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、				
	☆心理学概論 (4)		[300] 社会教育概論 (4)【深草】		
	☆生理心理学 (4)		[300] 生涯学習概論 (4)【大宮】		
	[100] 生理心理学A(2)【深草】	[200] 生理心理学B(2)【深草】	[300] 矯正教育論 I (2)【深草】	[300] 矯正教育論 II (2)【深草】	
	「生理心理学(4単位)」既修得者は履修不可		[300] 仏教カウンセリング (2)【深草】	[300] 真宗カウンセリング (2)【深草】	
		[200] 医療心理学概論 (2)【深草】		[300] 特別支援教育方法論 (2)【深草】	
		[200] コミュニティ心理学 (2)【深草】		[300] 児童心理学 (2)【深草】	
	[200] 現代社会論 (4)【深草】				
	史学科/歴史学科関係科目	史学科国史学専攻/歴史学科日本史学専攻必修専攻科目:普通講義、 史学科/歴史学科東洋史学専攻必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、特殊講義、 史学科/歴史学科仏教史学専攻必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
		[200] 考古学(日本) (4)【深草】		[300] 美術史(日本) (4)【大宮】	
[200] 考古学(アジア) (4)【深草】		[300] 美術史(アジア) (4)【大宮】			
[200] 考古学(仏教) (4)【深草】		[300] 美術史(仏教) (4)【大宮】			
			[300] 日本文化史 I (2)【深草】	[300] 日本文化史 II (2)【深草】	
			[300] 中国文化史 I (2)【深草】	[300] 中国文化史 II (2)【深草】	
			[300] 仏教文化史 I (2)【深草】	[300] 仏教文化史 II (2)【深草】	
			[300] 考古学実習 (2)【大宮】		
			[300] 古文書学入門 (4)【深草】		
			[300] 文化人類学概論 (4)【大宮】		
日本語日本文学科関係科目	日本語日本文学科専攻必修専攻科目:普通講義、				
	☆中国文学 I (4)【深草】		☆仏教文学 (4)【大宮】		
	[100] 中国文学 I A (2)【深草】	[200] 中国文学 I B (2)【深草】	[300] 仏教文学A (2)【大宮】	[300] 仏教文学B (2)【大宮】	
	☆中国文学 II (4)【大宮】		[300] 情報処理法 I (2)【両学舎】	[300] 情報処理法 II (2)【両学舎】	
	[100] 中国文学 II A (2)【大宮】	[200] 中国文学 II B (2)【大宮】	[300] 画像映像処理法 I (2)【大宮】	[300] 画像映像処理法 II (2)【大宮】	
	☆中国文学史 (4)【大宮】				
[100] 中国文学史A (2)【大宮】	[200] 中国文学史B (2)【大宮】				

3年次		備考
第5セメスター	第6セメスター	
特殊講義、講読の科目		哲学科哲学専攻以外の学生
特殊講義、講読の科目		臨床心理学科以外の学生
☆教育行政学 (4)		<p>■心理学(実験実習)(1単位)既修得者は心理学(実験実習)Iを受講できません。</p> <p>■心理学実験A、Bは哲学科教育学専攻の学生のみ受講可能。</p> <p>■「心理学(実験実習)I」と「心理学(実験実習)II」は同一学期に同時登録をしなければなりません。なお、どちらか一方の科目のみの登録はできません。</p> <p>ただし、以下の場合には「心理学(実験実習)II」のみの受講を認めます。</p> <p>・2014年度に「心理学実験A」または「心理学(実験実習)」の単位を修得した者で「心理学(実験実習)II」を未受講または不合格となった者。</p> <p>■4単位科目の学習心理学の単位修得者は2単位科目の学習心理学と発達心理学を受講できません。</p> <p>■4単位科目の認知心理学の単位修得者は認知心理学Aおよび認知心理学Bを受講できません。</p>
☆教育方法学 (4)		
[400] 比較教育学(4)【大宮】		
[400] 幼児教育学(4)【大宮】		
☆宗教教育学(4)		
[400] 視聴覚教育メディア論(4)【大宮】		
[400] 社会教育計画(4)【大宮】		
[400] 社会教育特講I(4)【大宮】		
[400] 社会教育特講II(4)【大宮】		
[400] 社会教育特講III(4)【大宮】		
[400] 教育心理学研究法(4)【大宮】		
☆障害児教育方法学(2)	[400] 臨床心理学実習(2)【大宮】	
[400] 発達心理学I(2)【大宮】	☆学校カウンセリング(実習)(2)	
☆発達心理学II(2)【大宮】	[400] 人権教育論(2)【大宮】	
☆人格心理学 (4)		
[400] パーソナリティ心理学A(2)【大宮】	[400] パーソナリティ心理学B(2)【大宮】	
「人格心理学(4単位)」既修得者は履修不可		
☆社会心理学 (4)		
[400] 社会心理学A(2)【大宮】	[400] 社会心理学B(2)【大宮】	
「社会心理学(4単位)」既修得者は履修不可		
☆臨床心理学 (4)		
☆心理学実験実習(2)	☆心理学実験実習(2)	
☆医学概論 (4)		
☆学習心理学(4)		
☆認知心理学(4)		
[400] 学習心理学(2)【大宮】		
[400] 発達心理学(2)【大宮】		
[400] 認知心理学A(2)【大宮】	[400] 認知心理学B(2)【大宮】	
[400] 心理学実験A(1)【大宮】	[400] 心理学実験B(1)【大宮】	
[400] ビハーラカウンセリング(2)【大宮】	[400] 家族心理学(2)【大宮】	
☆心理学(実験実習)(1)【大宮】	[400] 学校カウンセリング(実習)(1)【大宮】	
[400] 心理学(実験実習)I(1)【大宮】	[400] 心理学(実験実習)II(1)【大宮】	
[400] 臨床心理学(実習)(2)【大宮】		
[400] 臨床心理査定(実習)(1)【大宮】	[400] 対人援助学(実習)(1)【大宮】	
[400] 対人行動学(実習)(1)【大宮】	[400] 心理調査・統計法B(2)【大宮】	
特殊講義、講読の科目		
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		
[400] 民俗学(日本)(4)【大宮】		
[400] 民俗学(アジア)(4)【大宮】		
[400] 民俗学(仏教)(4)【大宮】		
[400] 史料学(日本)(4)【大宮】		
[400] 史料学(アジア)(4)【大宮】		
[400] 史料学(仏教)(4)【大宮】		
[400] 古文書学(4)【大宮】		
[400] 社会事業史(4)【大宮】		
☆真宗史(4)		
[400] 真宗史A(2)【大宮】	[400] 真宗史B(2)【大宮】	
特殊講義、講読の科目		真宗史4単位の既修得者は2単位科目は履修不可。
特殊講義、講読の科目		日本語日本文学科以外の学生
☆書道(書写を含む)(4)		書道(書写を含む)4単位の既修得者は2単位科目は履修不可。
[400] 書道(書写を含む)A(2)【大宮】	[400] 書道(書写を含む)B(2)【大宮】	
[400] 言語習得(発達)論A(2)【大宮】	[400] 言語習得(発達)論B(2)【大宮】	
[400] メディア論A(2)【大宮】	[400] メディア論B(2)【大宮】	
[400] 日本語教授法I(2)【大宮】	[400] 日本語教授法II(2)【大宮】	
☆マスコミ論(4)		

	1年次		2年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
英語英米文学科関係科目	英語英米文学科専攻必修専攻科目:普通講義A、			
	[200] 英語音声学 (4)【深草】		[300] 英文学史 (4)【大宮】	
			[300] 米文学史 (4)【大宮】	
			[300] 英語発達史 (4)【大宮】	
			[300] 英国文化史 (4)【大宮】	
			[300] 米国文化史 (4)【大宮】	
			[300] 言語学概論 (4)【大宮】	
			[300] 英会話 (2)【両学舎】	
			[300] Current English I (2)【深草】	
			[300] Current English II (2)【大宮】	
			[300] フランス文学 (4)【深草】	
			[300] ドイツ文学 (4)【深草】	
			[300] イングリッシュ・レクチャー(日本の文化と宗教) I (2)【大宮】	[300] イングリッシュ・レクチャー(日本の文化と宗教) II (2)【大宮】
			[300] イングリッシュ・レクチャー(仏教思想) I (2)【大宮】	[300] イングリッシュ・レクチャー(仏教思想) II (2)【大宮】
			[300] イングリッシュ・レクチャー(英米のポピュラー・カルチャー) I (2)【深草】	[300] イングリッシュ・レクチャー(英米のポピュラー・カルチャー) II (2)【深草】
			[300] イングリッシュ・レクチャー(英米の風土と習慣) I (2)【深草】	[300] イングリッシュ・レクチャー(英米の風土と習慣) II (2)【深草】
教職課程関係科目	☆人文科学情報処理実習 I (2)	☆人文科学情報処理実習 I (2)	[300] 日本史A (2)【大宮】	[300] 日本史B (2)【大宮】
	☆人文科学情報処理実習 II (2)	☆人文科学情報処理実習 II (2)	☆ 東洋史 (4)【大宮】	
	[100]教育情報処理演習 (2)【両学舎】	[100]教育情報処理演習 (2)【両学舎】	[300] 東洋史A (2)【大宮】	[300] 東洋史B (2)【大宮】
	「人文科学情報処理実習 I」既修得者は履修不可「人文科学情報処理実習 II」既修得者は履修不可 前期・後期の両方に開講されますが、いずれか1科目しか単位の修得はできません。			
			[300] 西洋史 (4)【大宮】	
			☆西洋史(西洋文化史) (4)【大宮】	
			[300] 人文地理学 (4)【大宮】	
			[300] 歴史地理学 (4)【大宮】	
			[300] 社会学概論(4) 【大宮】	
			[300] 社会事業概論 (4)【大宮】	
博物館学芸員課程関係科目 (2011年度以前入学生対象科目)			☆博物館学概論 (2)	
			[300]博物館学各論 (4)【大宮】	
博物館学芸員課程関係科目 (2012年度以降入学生対象科目)	[100](博)生涯学習概論 (2)【深草】	[200]博物館資料論 (2)【深草】	[300] 博物館経営論 (2)【大宮】	[300]博物館資料保存論 (2)【大宮】
	[100]博物館概論 (2)【深草】			[300] 博物館展示論 (2)【大宮】
	[100] 博物館教育論 (2)【深草】			[300] 博物館情報・メディア論 (2)【瀬田】
他学部開講自由選択コース科目 【2011年度以前入学生のみ履修可能】 2014年度以降全科目休講				☆学部共通特別講義IV(比・宗) (2)
				☆学部共通特別講義V(比・宗) (2)
自由選択コース科目(文化財コース)			[300] 文化財科学 (4)【大宮】	
			[300] 文化財実習 (2)【大宮】	
留学関係科目(BIE Program関係科目は除く。(BIE Program関係科目については182ページ参照))	国際文化交流研修 (2)～(8) 【詳細は185ページ参照】			
ボランティア関係科目	社会活動ボランティア (2)(4)【詳細は130ページ参照】			
社会人特別コース関係科目 (社会人特別コース生は12単位までは選択基礎科目として扱われる)	☆総合講義 (4)			
	☆総合講義A (2)	☆総合講義B (2)		
	☆人文系講義 (4)			
	☆社会系講義 (4)			
	☆社会系講義A (2)	☆社会系講義B (2)		
	☆自然系講義 (4)			
	☆共生論 (4)			
	☆英語 I (2)			
	☆英語 II (2)			
	☆外国語 I (2)			
	☆外国語 I (2)			
キャリア開発科目	キャリア形成論(2)【深草】(1・2年次のみ) キャリア形成論(2)【深草】(1・2年次のみ)			
	前期・後期の両方に開講されますが、いずれか1科目しか単位の修得はできません。			
経営学部開講科目			[300]実践・放送メディアの実際と論理A(2)【深草】	[300]「映画構造論－文化と産業－」(2)【深草】
			☆実践・放送メディアの実際と論理B(2)	
			[300]実践・放送メディアの実際と論理B(4)【深草】	

1. 社会活動ボランティア

(1) 科目の趣旨

この科目は、通常の開設科目とは異なり、学生が自主的に行う国内でのボランティア活動に対して単位を認定するものです。大学がお膳立てした実習科目ではなく、学生の個性と自主性にもとづいたボランティア活動を評価し、単位を認定します。ボランティア活動の目的・内容等を、学生自身で計画し、実行することができます。ただし、活動の事実が受入先によって証明されうるボランティアに限ります。履修登録を希望する学生は、定められた手続きにしたがってください。

なお、国外でのボランティア活動については、「国際文化交流研修」の履修要領にしたがってください。

①対象学生 文学部1年次以上の正規学生

②科目名等 「社会活動ボランティア」

1～3年次生については選択専攻科目として卒業要件単位になります。

4年次生以上については随意科目となり、卒業要件単位とはなりません。

③認定単位 2～4単位（履修制限単位には含まれません）

※次の基準で単位数は定められています。

2単位：3週間程度のボランティア活動期間で、4,000字程度の「社会活動ボランティア」報告書を提出した場合

4単位：5週間程度のボランティア活動期間で、8,000字程度の「社会活動ボランティア」報告書を提出した場合

4単位又は2単位：4ヶ月以上にわたって週末及び課外時間等に定期的に行うボランティア活動で、8,000字程度の「社会活動ボランティア」報告書を提出した場合

※4単位以内であれば、単位を分割して複数回同科目を履修登録することができます。ただし、在学中修得できるのは4単位が上限です。

④履修登録上の条件

(ア) 収益を目的とした活動でないこと。

(イ) 社会通念上、ボランティア活動として不適當でないこと。

(ウ) 国内での活動であること。

(2) 履修申込手続き

①ボランティアの受入先と個別に交渉し、受入許可を得てください。その際、ボランティア活動によって、この科目の単位修得をすることについての了承も得ておいてください。

②所定の「社会活動ボランティア計画書」を掲示・ポータルサイトでお知らせする期日までに文学部教務課窓口へ提出してください（期限に遅れたものは、いかなる理由があっても受け付けません）。この計画書の内容にもとづいて、履修登録の許可が判定されます。5月中旬に許可判定結果を発表しますので、許可された者だけが正式な履修登録者となります。

③履修登録許可発表内容

(ア) 履修登録の可否（50名程度の許可を予定）

(イ) 単位数

(ウ) 指導教員

- ④履修登録を許可された者は、受入先に本学からの受入依頼状を渡し、所定の「ボランティア受入許可書」に必要事項を記入し、認印をもらった上で、5月末までに文学部教務課窓口へ提出してください（提出がない場合は登録を取り消します）。

(3) 活動先・活動期間

- ①活動先は、上述の条件を満たしておれば、他に限定はありません。参考までに、ボランティア活動の分野をいくつか挙げると次のようなものがあります。

障がい者支援、高齢者福祉、社会教育・生涯学習支援、病院ボランティア、スポーツ・文化交流、人権・社会問題等市民活動、自然保護・環境保護、リサイクル運動等々

- ②活動期間は次の2通りに分かります。

- 1) 日常の生活圏から離れた宿泊地において行う1週間以上にわたるボランティア活動については、特別な事情がある場合を除き、授業期間外及び定期試験期間外でなければなりません。必然的に、夏期休業中が主な活動期間になります。しかし、通常の授業科目履修の障害とならない活動期間の設定が他にある場合は、文学部教務課窓口へ相談してください。
- 2) 週末や課外等の時間を使って定期的に行うボランティア活動については、自由に期間を設定できます。

(4) ボランティア保険の加入

履修登録の許可された学生は、必ずボランティア保険に加入してから活動を始めてください。ボランティア保険は、数百円の保険料で加入することができます。京都府社会福祉協議会（TEL：075-252-6291）または全国社会福祉協議会（TEL：03-3581-7851）まで問い合わせてください。

(5) 単位認定・成績評価

- ①履修登録を許可された学生は、所定の「『社会活動ボランティア』活動証明書」とともに、ボランティア活動で得た成果を「社会活動ボランティア報告書」にまとめて、翌年2月末日までに文学部教務課窓口へ提出してください（期間厳守）。証明書には所定の用紙が、また報告書には所定の表紙があるので、提出前に文学部教務課窓口で受け取ってください。これらの二種類の書類の提出がなかった場合は単位認定は行いません。
- ②成績評価にあたっては、提出された「『社会活動ボランティア』活動証明書」「社会活動ボランティア報告書」の記載内容が正確なものであるかどうかについて、ボランティアの受入先に照会します。
- ③「社会活動ボランティア報告書」には指定の様式はありません。認定単位数に応じた字数となるように、自由に報告書を作成できます。
- ④履修登録許可書に発表された単位数は、提出された「社会活動ボランティア報告書」の内容に応じて変更されることがあります。

2. 協定型インターンシッププログラム

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム」のリーフレットを参照してください。

また、文学部では、2007年度から卒業要件単位として単位認定しています。詳細については、下記のとおりです。

(1) 対象学年

1～3年次生

※4年次生以上、および社会人特別コース生は履修できません。

(2) 単位認定

①選択専攻科目として履修登録することができます。

②履修制限単位には含めません。

③単年度4単位までの履修を認め、在学中に大学コンソーシアム京都単位互換科目の修得単位数と合わせて12単位までを卒業要件として認めます。

(3) 応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

(4) シラバス

ポータルサイトにて案内します。

(5) 定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに文学部教務課窓口にご相談してください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の授業科目	協定型インターンシップ	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

(6) 注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形成を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先をはじめとして、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

IV. 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め50以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでに多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、文学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配布する予定です。

1. 「単位互換制度」について

この事業のために用意された特定の授業のうち、文学部が予め認定対象科目（掲示でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。受講料は無料です。（ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。）

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

(1) 資格要件

履修条件は下記のとおりです。なお、不明な点については文学部教務課窓口で確認してください。

文学部では下記の条件で卒業要件単位として認定します。

一度、単位認定された科目を再度登録することはできません。

- ①専攻科目または教養教育（共同開講）科目として履修登録することができます。ただし、教養教育（共同開講）科目として単位を修得できるのは、別途掲示で知らせる科目に限ります。4単位を超えて修得した場合は、2011年度までは専攻科目の単位として扱っていましたが、2012年度からは随意科目として扱います。
- ②履修制限単位には含みません。
- ③単年度4単位までの履修登録（インターンシップ・プログラム科目はこの4単位には含みません）を認め、インターンシップ・プログラム科目を含み、在学中12単位まで卒業要件単位として認定します。超過分は卒業要件単位数には含まれませんので注意してください（随意科目扱い）。
- ④4年次以上で履修する場合は、随意科目扱いとなります。
- ⑤単位互換科目は全て後期の成績発表時に評価が記載されます。

(2) 出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

出願手続きは、ポータルサイトにログインして、「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について6月初旬と9月中旬に追加登録をおこないます。

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、大学コンソーシアム京都のホームページ「単位互換開講科目webシラバス」を参照してください。

(3) 履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃掲示およびメールでお知らせします。6月追加登録は6月中旬、9月後期登録は10月上旬に選考結果をお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

(4) 単位互換履修生の学籍およびその取り扱い

- ①履修手続きを完了した者は、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。
- ②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
- ③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。
- ④休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

ホームページアドレス <http://www.consortium.or.jp/student/tan-i/>

(5) 試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに文学部教務課窓口にご相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

本学の授業科目	大学コンソーシアム科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	大学コンソーシアム科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	大学コンソーシアム科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

(6) その他の注意事項

大学コンソーシアム京都の単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることになります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。大学コンソーシアム京都の単位互換科目の成績は全て、3月下旬に配布される第2学期（後期）分の成績表に記載されます。

2. 「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されております。

①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」

夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

②長期プロジェクト型「プログレスコース」

3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので文学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2014年度の「インターンシップ実習生募集ガイド」で確認してください。

(1) 出願手続について

文学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

(2) インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

①事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

②実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

③事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

(3) 実習先の決定について

実習生の希望や適正を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

(4) 単位認定等について

文学部では、これまで「大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム」について単位認定を行っていませんでしたが、2014年度から選択専攻科目の単位として単位認定を行います。

V. 放送大学科目の受講について

放送大学とは、テレビ・ラジオまたその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく新しいタイプの正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。

本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、文学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって取得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。

受講希望者は下記要領を熟読の上、所定の手続きをしてください。

なお、受講にあたっては、1単位あたり5,500円（2単位科目、11,000円）の授業料が必要になります。

1. 履修方法および単位認定等について

①出願および履修期間

「特別聴講学生」の履修期間は、2セメ、4セメ、6セメ（1、2、3年次の第2学期）の1学期間（6ヶ月）です。特別聴講学生出願票は文学部教務課窓口にあります。

出願および履修・試験期間は別途掲示及びポータルサイトにてお知らせします。

②履修できる放送大学科目（全て2単位科目です。）

別途掲示及びポータルサイトにてお知らせします。

③学期毎の履修制限

文学部が定めている履修制限単位数には含みません。

④卒業要件に算入できる上限単位数

専攻科目 8単位まで

※超過分は卒業要件単位数に含まれないので注意してください。（随意科目扱いとなります。）

⑤履修方法

学期開始までに送付される印刷教材と本学ならびに学習センターに設置されているDVD、カセットテープ（1科目：15巻 1巻45分）による視聴および通信指導によって学習し、学期末に本学において単位認定試験を受けることとなります。

通信指導とは、原則15回の放送授業のうち8回まで学習を終え、放送大学から通知される課題についてレポートを放送大学に提出し、放送大学教員による採点・評価・指導を受ける通信添削です。この通信指導に合格しなければ、単位認定試験は受験できません。

〈DVD、カセットテープの視聴について〉

本学（深草学舎）では5号館3階セルフラーニング室で、DVDおよびカセットテープの視聴ができます。

また、各都道府県に設置されている学習センターでの視聴も可能です。

学習センター内での視聴はどの都道府県でも可能ですが、貸出については、所属学習センター（本学の場合は京都学習センター）のみとなります。

⑥単位認定試験について

放送大学科目の単位認定試験は、翌年1月下旬（予定）です。

「京都学習センター（京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）内）」

※翌年度前期に実施する再試験の会場も上記の通りです。

試験当日欠席した場合は、追試験制度はありませんので、次学期で再試験を受験してください。（「⑨再試験について」を参照。）

⑦単位の認定

成績表は放送大学から本人および本学に通知されます。本学は成績等を確認の上、単位認定します。

⑧単位取得

試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定します。

なお、放送大学の成績評価は、④A,B,C（合格）、D,E（不合格）等の標記によって通知されるため、本学では次のような素点換算により本学成績表に表示します。

放送大学	本学素点換算
④ (90点以上)	95
A (89～80点)	85
B (79～70点)	75
C (69～60点)	65
D (59～50点)	55
E (49点以下)	45
未（未受験）	0
否（受験資格無）	0

⑨再履修（再試験）について

放送大学では、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）において再履修（再試験）制度があります。

この制度は単位認定試験や通信指導において不合格になった場合（試験欠席、通信レポート未提出も含む）、次学期の1回に限り再試験の受験ならびに通信レポートの再提出ができます。

次学期での再試験を希望する場合は、放送大学に対する手続きは不要ですが、本学の履修登録で放送大学科目の登録をしなければなりません。

なお、翌年度前期に実施する再試験については、放送大学のホームページで確認してください。（会場は「⑥単位認定試験について」を参照）」

⑩放送大学科目の試験と本学の試験日時が重なった場合

放送大学科目の試験期間は本学と同じ時期に実施されます。このことにより、放送大学科目と本学科目の試験時間が重なった場合は、原則として放送大学科目を優先して受験し、本学科目については、追試験で受験してください。

なお、この場合に限り、追試験の適用を次のとおりとします。

（ア）追試験の受験料は無料です。

（イ）諸課程科目についても実施の対象になります。

※その他については、通常の追試験制度に準じます。

2. 放送大学への出願および本学での履修登録について

①放送大学科目出願について

受講希望者は、指定された期間に「特別聴講学生出願票」を文学部教務課窓口に提出してください。放送大学科目は、第2学期の出願期間までに単位認定試験の時間割が発表されていますので、試験日・時限を確認の上、出願してください。

②学費について

入学科、テキスト代は無料ですが、授業料として1科目（2単位）につき、11,000円（1単位あたり5,500円）が必要です。出願後、放送大学から送付されてくる用紙にて、直接、納入してください。

③本学での履修登録について

放送大学科目を受講する場合は、「特別聴講学生出願票」の提出の他に本学の履修登録で放送大学科目を登録しなければなりません。また、次学期で再試験を受験する場合も同様に履修登録してください。

履修登録（本登録）をしないで単位認定試験および再試験を受験し合格しても、本学の単位として認定されないので注意してください。

3. 龍谷大学以外での学習方法

①視聴方法

テレビ・ラジオともBSデジタル放送やケーブルテレビにより全国どこでも受信できます。ケーブルテレビで視聴するには、お住まいのケーブルテレビ局の配信状況を確認してください。また、視聴方法等については、それぞれのケーブル局に確認してください。

②再視聴

所定の時間帯に視聴できなかった場合や、繰り返し学習したい場合は、都合の良い日に視聴することが出来ます。学習センターは土曜日、日曜日も利用できます。（月曜日、祝日休み）

所属する学習センターでは、テープの貸出を受けることが出来ます。

※なお、学習センターの利用に際しては放送大学の学生証を必ず持参してください。

③京都学習センターの所在地

「京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）」内3階
京都市下京区西洞院通塩小路下ル東塩小路町630-5（JR京都駅前）

4. 出願から成績評価までの流れ

出願後の手続きについては、後日、放送大学から自宅に書類が送付されますので、そちらでご確認ください。

〈参考〉

①放送大学科目の登録手続き

出願・科目登録申請	6月下旬～7月上旬(予定)	文学部教務課（大宮）窓口
授業料の払込み	9月上旬	後日、自宅に送付されてくる用紙で振込んでください。
教材・学生証の配付	学費納入確認後随時	放送大学から自宅に送付されます。
履修登録（本学）	日程については、掲示板等で確認してください。	文学部教務課（大宮）窓口

②受講および単位認定試験等について

授業開始（15回）	10月1日～	本学（深草学舎）5号館3階セルフラーニング室 および学習センター
通信指導問題の送付	11月上旬まで	放送大学から自宅に送付されます。
通信指導解答の提出	12月上旬まで	放送大学へ直接提出。8回まで視聴を終了してください。
通信指導添削の返送	1月中旬	放送大学→学生
単位認定試験通知	1月中旬	放送大学→学生
放送授業終了	1月20日	
単位認定試験	1月下旬（予定）	京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）
成績通知	3月上旬	放送大学→学生 放送大学→本学

※単位認定試験ならびに通信指導を不合格になった場合は、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）で1回限り、再試験ならびに通信レポートの再提出ができます。

放送大学への手続きは不要ですが、本学の履修登録で「放送大学科目」を登録してください。

履修登録をせず再試験に合格しても、本学の単位として認定されませんので注意してください。

VI. 自由選択コース

文化財コースを除く2コースは2010年度以前入学生のみ履修が可能です。

- 1) この3コースは、副専攻の性格をもち、文学部のどの学科・専攻の学生も自由にコースを選択し修了することができます。もちろん、選択しないことも、複数選択することもできます。
- 2) 各コースとも定められた科目の中から32単位以上を修得することによってコースを修得することができます。修了者には修了証を交付します。
- 3) 3コースとも開設科目はすべて卒業要件単位となるため、自由選択コースの選択によって卒業要件を満たすことが困難になるようなことはありません。
- 4) 登録制ではないため、自由にコースを選択し、開設科目の中から科目を選択することができます。
- 5) 各コースの内容・開設科目・履修方法は次のとおりです。

〈比較思想・宗教コース〉

龍谷大学の建学の精神が活かされたコースです。国際化の進む現代において、思想、宗教、文化を比較探求することで、人類の文化を全体として理解します。また、昨今必要性が再認識されている宗教教育にも目を向けます。

〔履修方法：下記の三つの表の科目から32単位以上を選択履修してください。〕

専攻科目			
科目名	単位数	年次指定	開講学舎
比較思想論 (A, B)	2・4単位	2年次以上	大 宮
哲学史(古代・中世) (A, B)	2・4単位	2年次以上	大 宮
哲学史 (近世) (A, B)	2・4単位	2年次以上	大 宮
倫理学史 (A, B)	2・4単位	2年次以上	大 宮
中国哲学史 (A, B)	2・4単位	3年次以上	大 宮
インド哲学概論 (A, B)	2・4単位	2年次以上 【2012年度以前入学生】 3年次以上 【2013年度以降入学生】	大 宮
仏教と異思想 (A, B)	2・4単位	3年次以上	大 宮
現代アジアの仏教と社会(A, B)	2・4単位	3年次以上	大 宮
キリスト教史 (A, B)	2・4単位	3年次以上	大 宮
キリスト教神学 (A, B)	2・4単位	3年次以上	大 宮
宗教史 (A, B)	2・4単位	2年次以上	大 宮
宗教心理学 (A, B)	2・4単位	2年次以上	深 草
宗教教育学	4単位	3年次以上	大 宮
国際文化交流研修	2～8単位	1年次以上	両学舎

「国際文化交流研修」については、履修登録に際して提出された計画書にもとづき、「比較思想・宗教コース」科目として認められていなければなりません。

学部共通 (国際関係) コース開設科目 【2014年度以降休講】				
科目名	単位数	年次指定	開講学舎	履修方法
学部共通特別講義Ⅰ	4単位	3年次以上	深 草	} 4単位のみ
学部共通特別講義Ⅱ	4単位	3年次以上	深 草	
学部共通特別講義Ⅲ	2単位	3年次以上 (5セメ)	深 草	
学部共通特別講義Ⅳ	2単位	3年次以上 (6セメ)	深 草	
学部共通特別講義Ⅴ	2単位	2年次以上 (4セメ)	深 草	
学部共通特別講義Ⅵ	2単位	2年次以上 (3セメ)	深 草	

1. 深草4学部の学部共通コースである「国際関係コース」の上記6科目から4単位のみを履修登録し、自由選択コース「比較思想・宗教コース」の科目として修得することができます。
2. 先修要件として、第3セメスター終了までに必修外国語 (英語・初修外国語) 計4単位以上を修得済みでなければなりません。ただし、外国人留学生については、この限りではありません。
3. 修得された科目は、卒業要件上は選択専攻科目として扱われます。
4. 4単位を超えて履修登録をすることは一切できません。したがって、4単位を修得した者は、それ以上に履修登録することができません。
5. 「学部共通特別講義Ⅲ」「学部共通特別講義Ⅳ」「学部共通特別講義Ⅴ」については「比較思想・宗教コース」に指定された科目の修得でなければなりません (現在履修できません)。

教養教育科目 (共同開講科目)

1. 教養科目 (プログラム科目) の「歴史と文化プログラム (世界の歴史と文化プログラム)」及び「〇〇語セミナー (外国語セミナー) から修得した科目の内、8単位が「比較思想・宗教コース」の科目として認められます。
2. 教養科目 (プログラム科目) の「歴史と文化プログラム (世界の歴史と文化プログラム)」から修得した8単位の科目は、「文化財コース」科目の修得を兼ねます。

〈文化財コース〉

歴史的遺産である文化財への高い関心に応えるコースです。大宮図書館に所蔵される歴史的に価値の高い文献や典籍を、京都各地の文化遺産とともに、調査・研究と対象とし実習科目によって調査・研究の技能を修得します。

〔履修方法：下記の二つの表の科目から32単位以上を選択履修してください。〕

専攻科目			
科 目 名	単位数	年次指定	開講学舎
文化財実習	2単位	2年次以上	大 宮
考古学実習	2単位	2年次以上	大 宮
文化財学概論	4単位	3年次以上	大 宮
文化財科学	4単位	2年次以上	大 宮
博物館学概論 【2011年度以前入学生のみ履修可能】	2単位	2年次以上	深 草
博物館学各論 【2011年度以前入学生のみ履修可能】	4単位	2年次以上	大 宮
視聴覚教育メディア論	4単位	3年次以上	大 宮
博物館概論 【2012年度以降入学生のみ履修可能】	2単位	1年次以上	深 草
博物館経営論 【2012年度以降入学生のみ履修可能】	2単位	2年次以上	大 宮
博物館資料論 【2012年度以降入学生のみ履修可能】	2単位	1年次以上	深 草
博物館情報・メディア論 【2012年度以降入学生のみ履修可能】	2単位	2年次以上	瀬 田
博物館資料保存論 【2012年度以降入学生のみ履修可能】	2単位	2年次以上	大 宮
博物館展示論 【2012年度以降入学生のみ履修可能】	2単位	2年次以上	大 宮
歴史地理学	4単位	2年次以上	大 宮
史科学（日本）	4単位	3年次以上	大 宮
史科学（アジア）	4単位	3年次以上	大 宮
史科学（仏教）	4単位	3年次以上	大 宮
美術史（日本）	4単位	2年次以上	大 宮
美術史（アジア）	4単位	2年次以上	大 宮
美術史（仏教）	4単位	2年次以上	大 宮
民俗学（日本）	4単位	3年次以上	大 宮
民俗学（アジア）	4単位	3年次以上	大 宮
民俗学（仏教）	4単位	3年次以上	大 宮
考古学（日本）	4単位	1年次以上	深 草
考古学（アジア）	4単位	1年次以上	深 草
考古学（仏教）	4単位	1年次以上	深 草
古文書学入門	4単位	2年次以上	深 草
古文書学	4単位	3年次以上	大 宮
国際文化交流研修	2～8単位	1年次以上	両学舎

1. 「文化財実習」「考古学実習」については、受講者数に制限があるため、履修登録にあたって選考が行われます。

2. 「国際文化交流研修」については、履修登録に際して提出された計画書にもとづき、「文化財コース」科目として認められなければなりません。

教養教育科目（共同開講科目）

- 【2014年度以前入学生】教養科目（プログラム科目）の「歴史と文化プログラム（世界の歴史と文化プログラム）」から修得した科目の内、8単位が「文化財コース」の科目として認められます。
【2015年度入学生】教養科目の「人文科学系科目」から修得した科目の内、8単位が「文化財コース」の科目として認められます。
- 教養科目（プログラム科目）の「歴史と文化プログラム（世界の歴史と文化プログラム）」から修得した8単位の科目は、「比較思想・宗教コースコース」科目の修得を兼ねます。

〈実用英語コース〉

実際に使える英語を学ぶためのコースです。英米の文化・風土・習慣を学ぶことで英語能力を身につけられるように、海外での自主研修ができる科目も開設します。英語を話す技術と、英語圏の文化的背景を学ぶためには、学生の積極的な姿勢が必要となります。

〔履修方法：下記の三つの表の科目から32単位以上を選択履修してください。〕

専攻科目			
科目名	単位数	年次指定	開講学舎
Current English I	2単位	2年次以上	深草
イングリッシュ・レクチャー	2単位	2年次以上	両学舎
英会話	2単位	2年次以上	大宮
Current English II	2単位	2年次以上	大宮
中級英作文	2単位	3年次以上	大宮
国際文化交流研修	2～8単位	1年次以上	両学舎
海外研修	4単位	3年次以上	両学舎

1. 「国際文化交流研修」については、履修登録に際して提出された計画書にもとづき、「実用英語コース」科目として認められていなければなりません。

学部共通 (英語コミュニケーション) コース開設科目 【2014年度以降休講】				
科目名	単位数	年次指定	開講学舎	履修方法
Forum	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	} 4単位まで
学部共通特別講義Ⅲ	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	
学部共通特別講義Ⅳ	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	
学部共通特別講義Ⅴ	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	
Intercultural Discussion	2単位	2年次以上 (5セメ)	深草	2単位

1. 深草4学部の学部共通コースである「英語コミュニケーションコース」の上記5科目から、6単位のみを履修登録し、自由選択コース「実用英語コース」の科目として修得することができます。

2. 先修要件として、第3セメスター終了までに必修外国語 (英語) 計4単位以上を修得済みでなければなりません。

3. 修得された科目は、卒業要件上は選択専攻科目として扱われます。

4. 「Forum」「学部共通特別講義Ⅲ」「学部共通特別講義Ⅳ」「学部共通特別講義Ⅴ」は、4単位を超えて履修登録をすることはできません。したがって、4単位を修得した者は、それ以上に履修登録することができません。

5. 「学部共通特別講義Ⅲ」「学部共通特別講義Ⅳ」「学部共通特別講義Ⅴ」については「実用英語コース」に指定された科目の修得でなければなりません (現在履修できません)。

選択外国語科目				
科目名	単位数	年次指定	開講学舎	履修方法
英語ⅡR1	2単位	2年次以上 (3セメ)	深草	} 3年次生以上も 予備登録必要
英語ⅡR2	2単位	2年次以上 (4セメ)	深草	
英語ⅡS1	2単位	2年次以上 (3セメ)	深草	
英語ⅡS2	2単位	2年次以上 (4セメ)	深草	
英語ⅢR1	2単位	3年次以上 (5セメ)	深草	
英語ⅢR2	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	
英語ⅢS1	2単位	3年次以上 (5セメ)	深草	
英語ⅢS2	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	
英語ⅢG1	2単位	3年次以上 (5セメ)	深草	
英語ⅢG2	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	
英語ⅢW1	2単位	3年次以上 (5セメ)	深草	
英語ⅢW2	2単位	3年次以上 (6セメ)	深草	
英語資格試験セミナー	2単位	1年次以上	深草	
海外英語研修講座	2単位	2年次以上	深草	

※選択外国語科目の「英語」にかかわる科目は、修得した科目のうちの6単位が、「実用英語コース」の科目として認められます。

〈文学部〉

第3部 カリキュラム(教育課程)〈諸課程科目等の履修方法〉

1. 教職課程	148
2. 学校図書館司書教諭課程	148
3. 図書館司書課程	148
4. 社会教育主事課程	152
5. 博物館学芸員課程	153
6. 心理士関係認定資格取得基礎課程（認定心理士受験資格）	158
7. 本願寺派学階課程	161
8. 本願寺派教師資格課程	164
9. 社会福祉主事課程	166
★特別研修講座・各種講座・試験	167

文学部では、17種類の資格課程が設置されています。4年間での卒業という前提と1週間39講時という時間割の制限のもとでの資格取得であるので、複数の資格の取得を必ずしも保証することはできません。したがって、皆さんは、卒業までの履修計画と卒業後の将来計画に応じて、取得すべき資格を選択する必要があります。特に学問分野の異なる複数の資格の取得を目指す場合は、4年間もしくはそれ以上にわたる綿密な履修計画を立てなければなりません。

また教育実習や博物館実習のように、一定期間を実習に専念しなければならない科目もあるため、職業や家庭の事情等で履修が困難であると予想される場合には、それらを解決し、履修を可能とするための調整が本人の努力に求められます。学生の個々の事情に対するすべての調整を大学側に求めることはできません。学生個々の事情により履修が不可能であると最終的に判断された場合には、当然のことながら資格取得を断念しなければなりません。

1. 教職課程

教職課程に関することは、履修要項別冊『教職課程ガイドブック』にすべてまとめられています。教育職員免許状取得希望者は、その冊子によって履修内容を確認してください。

2. 学校図書館司書教諭課程

学校図書館司書教諭課程に関することは、履修要項別冊『教職課程ガイドブック』にすべてまとめられています。取得希望者は、その冊子によって履修内容を確認してください。なお、図書館司書資格とは別の資格です。

3. 図書館司書課程

図書館司書とは、図書館等で資料の選択、収集、整理（分類、目録）、情報サービスなどを行う専門的職員です。公共図書館、大学図書館、専門図書館、学校図書館などで働いています。

生涯学習社会といわれる現代において図書館司書が果たす役割は大きく、利用者に対して質の高いサービスを提供でき、多様なニーズに対応できる人材が求められています。また図書資料だけにとどまらず国際化・情報化の時代にふさわしく情報メディアの収集・管理、情報検索などについての自在な活用能力も求められています。

1) 図書館司書資格の取得

本学において、図書館司書の資格を取得するには、以下の2つの条件を備えなければなりません。

- ① 大学を卒業していること
- ② 図書館に関する所定の科目を修得していること
（「図書館法」第5条第1項第1号）

2) 履修上の注意

「図書館法」および「図書館法施行規則」で定める図書館司書に関する科目と単位、および本学でのそれに該当する科目と単位は、3)「図書館司書に関する科目」カリキュラム表のと

おりです。図書館法施行規則の改正に伴い、2012（平成24）年度から図書館司書課程のカリキュラムが変わりました。

2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生を含む）と2011年度以前入学の学部在籍学生で修得すべき科目および単位数が異なりますので注意してください。

3) 「図書館司書に関する科目」カリキュラム表

【2011年度以前入学の学部生】

必修科目22単位および選択必修科目から2科目4単位以上、計26単位以上の修得が必要です。

	法令上の科目		本学開設科目		開講学舎	担当セメ	配当年次	備考
	科目名	単位数	科目名	単位数				
甲群 (必修科目)	生涯学習概論	1	(司)生涯学習概論	2	深草	1	1年次以上	注1
	図書館概論	2	(司)図書館情報学概論	2	深草	1	1年次以上	
	図書館経営論	1	(司)図書館経営論	2	深草	4	2年次以上	
	図書館サービス論	2	(司)図書館サービス論	2	深草	2	1年次以上	
	情報サービス概説	2	(司)情報サービス論	2	深草	3	2年次以上	
	レファレンスサービス演習	1	(司)情報サービス論実習	1	深草	4	2年次以上	注2※
	情報検索演習	1	(司)情報検索実習	1	深草	3	2年次以上	※
	図書館資料論	2	(司)図書館資料論	2	深草	2	1年次以上	
	専門資料論	1	(司)専門資料論	2	深草	3	2年次以上	
	資料組織概説	2	(司)資料組織論	2	深草	3	2年次以上	
	資料組織演習	2	(司)資料組織実習A	1	深草	4	2年次以上	注2※
			(司)資料組織実習B	1	深草	4	2年次以上	注2※
児童サービス論	1	(司)児童サービス論	2	深草	3	2年次以上		
乙群 (選択必修科目)	図書及び図書館史	1	(司)図書及び図書館史	2	深草	3	2年次以上	
	資料特論	1	(司)資料特論	2	深草	4	2年次以上	
	コミュニケーション論	1	(司)コミュニケーション論	2	深草	3	2年次以上	
	情報機器論	1	(司)情報機器論	2	深草	3	2年次以上	注3
	図書館特論	1	(司)図書館特論	2	深草	5	3年次以上	注4※

※の科目は、Web予備・事前登録が必要です。「図書館特論」は、Web予備・事前登録に加え、申込用紙の提出が必要です。Web予備・事前登録の受付期間および「図書館特論」申込用紙の提出期間は教養教育科目（共同開講科目）と同じです。「図書館特論」申込用紙はポータルサイトからダウンロードできます。

注1…文学部専攻科目として開講されている「生涯学習概論」（4単位）・「(博)生涯学習概論」（2単位）を取得しても司書課程の「(司)生涯学習概論」の単位には認定されません。「生涯学習概論」（4単位）を・「(博)生涯学習概論」（2単位）既に修得（または修得予定）している場合でも、司書課程の資格取得を希望する者は、「(司)生涯学習概論」（2単位）を必ず履修してください。

注2…先修制について

以下の科目には、先修科目が設定されていますので注意してください。

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
(司)情報サービス論実習	(司)情報サービス論（2単位）
(司)資料組織実習A	(司)資料組織論（2単位）
(司)資料組織実習B	(司)資料組織論（2単位）

注3…「(司) 情報機器論」の履修について

この科目は選択科目ではありますが、情報メディアの収集・管理、情報検索などについての自在な活用能力も求められているという観点から、可能な限り全員履修することが望ましい。

注4…「(司) 図書館特論」の履修について

この科目の履修については、別途4)の項を参照してください。

★図書館司書資格を取得希望で単位を一部未修得で卒業した場合

旧カリキュラムで図書館司書に必要な科目を修得できず卒業した場合、卒業後は科目等履修生として履修を続けることが可能ですが、新カリキュラムで取り直す必要があります。その際、2012年度以降に修得した旧課程科目は新課程科目に読み替えることができませんので注意してください。(2011年度以前に修得した単位の2012年度以降入学生のカリキュラムへの読み替えは152頁のとおりです。)

★配当セメは変更になる場合があります。当該年度の時間割表で確認して下さい。

【2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生を含む）】

【科目等履修生（大学院生の学部科目履修も含む）】

必修科目22単位および選択必修科目から2科目3単位以上、計25単位以上の修得が必要です。

	法令上の科目		本学開設科目		開講 学舎	配当 セメ	配当年次	備考
	科目名	単位数	科目名	単位数				
甲群 (必修科目)	生涯学習概論	2	(司)生涯学習概論	2	深草	1	1年次以上	注1
	図書館概論	2	(司)図書館情報学概論	2	深草	1	1年次以上	
	図書館情報技術論	2	(司)図書館情報技術論	2	深草	4	2年次以上	
	図書館制度・経営論	2	(司)図書館制度・経営論	2	深草	4	2年次以上	
	図書館サービス概論	2	(司)図書館サービス概論	2	深草	2	1年次以上	
	情報サービス論	2	(司)情報サービス論	2	深草	3	2年次以上	
	児童サービス論	2	(司)児童サービス論	2	深草	3	2年次以上	
	情報サービス演習	2	(司)情報サービス実習A	1	深草	3	2年次以上	
			(司)情報サービス実習B	1	深草	4	2年次以上	注2※
	図書館情報資源概論	2	(司)図書館情報資源概論	2	深草	2	1年次以上	
	情報資源組織論	2	(司)情報資源組織論	2	深草	3	2年次以上	
情報資源組織演習	2	(司)情報資源組織実習A	1	深草	4	2年次以上	注2※	
		(司)情報資源組織実習B	1	深草	4	2年次以上	注2※	
乙群 (選択必修科目)	図書・図書館史	1	(司)図書・図書館史	2	深草	2	1年次以上	
	図書館情報資源特論	1	(司)図書館情報資源特論	2	深草	3	2年次以上	
	図書館実習	1	(司)図書館実習	1	深草	5	3年次以上	注3※
	図書館基礎特論	1	(司)図書館基礎特論	2	深草	2	1年次以上	
	図書館サービス特論	1	(司)図書館サービス特論	2	深草	3	2年次以上	
	図書館施設論	1	(司)図書館施設論	2	深草	3	2年次以上	
	図書館総合演習	1	(司)図書館総合演習	2	深草	2	3年次以上	

※の科目は、Web予備・事前登録が必要です。「図書館実習」は、Web予備・事前登録に加え、申込用紙の提出が必要です。Web予備・事前登録の受付期間および「図書館実習」申込用紙の提出期間は教養教育科目（共同開講科目）と同じです。「図書館実習」申込用紙はポータルサイトからダウンロードできます。

注1…文学部専攻科目として開講されている「生涯学習概論」（4単位）を取得しても司書課程の「(司)生涯学習概論」の単位には認定されません。「生涯学習概論」（4単位）を既に修得（または修得予定）している場合でも、司書課程の資格取得を希望する者は、「(司)生涯学習概論」（2単位）を必ず履修してください。

注2…先修制について

以下の科目には、先修科目が設定されていますので注意してください。

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
(司)情報サービス実習B	(司)情報サービス論（2単位）
(司)情報資源組織実習A	(司)情報資源組織論（2単位）
(司)情報資源組織実習B	(司)情報資源組織論（2単位）

注3…「(司)（図書館実習）」の履修について

この科目の履修については、別途4)の項を参照してください。

★配当セメは変更になる場合があります。当該年度の時間割表で確認して下さい。

4)「(司)図書館特論」または「(司)図書館実習」の履修について

ア.履修登録資格

- ① 前年次までに前項3)の甲群（必修科目）をすべて修得済みの者。
- ② 履修登録に際しての選考に合格した者（科目の性格上、多人数の受講が不可能であるため事前選考します）。

イ.実習内容

実際に図書館の現場で業務の実習をすることで、業務の実際についての理解を深めます。準備段階では、図書館を実際に訪問してパブリックサービスを利用者として網羅的に理解し、スムーズに実習できるようにします。また、その過程で利用者として図書館に関わることと、スタッフとして図書館に関わることの違いを認識します。

実習後には、詳細な報告書を作成し、図書館業務の理解を深めます。

ウ.実習費等

実習受け入れ先によっては、実習費や保険加入費が必要な場合があります。

5) 旧カリキュラムで修得した単位の「2012年度以降入学生用科目」への読み替え表

ただし、読み替えが可能な科目は2011年度以前に旧カリキュラムで修得済みの単位に限る。

対象者：科目等履修生（大学院生の学部科目履修も含む）

旧カリキュラム				読み替え	新カリキュラム			
法定上の科目	文学部開講の科目	単位数	必修選択区分		法定上の科目	文学部開講の科目	単位数	必修選択区分
生涯学習概論	(司)生涯学習概論	2	必修	→	生涯学習概論	(司)生涯学習概論	2	必修
図書館概論	(司)図書館情報学概論	2	必修	→	図書館概論	(司)図書館情報学概論	2	必修
情報機器論	(司)情報機器論 ※1	2	選択	→	図書館情報技術論	(司)図書館情報技術論	2	必修
図書館経営論	(司)図書館経営論	2	必修	→	図書館制度・経営論	(司)図書館制度・経営論	2	必修
図書館サービス論	(司)図書館サービス論	2	必修	→	図書館サービス概論	(司)図書館サービス概論	2	必修
情報サービス概説	(司)情報サービス論	2	必修	→	情報サービス論	(司)情報サービス論	2	必修
児童サービス論	(司)児童サービス論	2	必修	→	児童サービス論	(司)児童サービス論	2	必修
情報検索演習	(司)情報検索実習	1	必修	→	情報サービス演習	(司)情報サービス実習A	1	必修
レファレンスサービス演習	(司)情報サービス論実習	1	必修	→	情報サービス演習	(司)情報サービス実習B	1	必修
図書館資料論	(司)図書館資料論	2	必修	→	図書館情報資源概論	(司)図書館情報資源概論	2	必修
資料組織概説	(司)資料組織論	2	必修	→	情報資源組織論	(司)情報資源組織論	2	必修
資料組織演習	(司)資料組織実習A	1	必修	→	情報資源組織演習 ※2	(司)情報資源組織実習A	1	必修
	(司)資料組織実習B	1	必修	→		(司)情報資源組織実習B	1	必修
図書及び図書館史	(司)図書及び図書館史	2	選択	→	図書・図書館史	(司)図書・図書館史	2	選択
専門資料論	(司)専門資料論 ※3	2	必修	→	図書館情報資源特論	(司)図書館情報資源特論※3	2	選択
資料特論	(司)資料特論 ※3	2	選択	→				
図書館特論	(司)図書館特論	2	選択	→	図書館実習	(司)図書館実習	1	選択
コミュニケーション論	(司)コミュニケーション論	2	選択	→	図書館サービス特論	(司)図書館サービス特論	2	選択

※1 旧カリキュラムで選択必修科目の「情報機器論（2単位）」を未修得の者は新カリキュラム「図書館情報技術論（2単位）」を修得してください。

※2 「情報資源組織実習A（1単位）」「情報資源組織実習B（1単位）」の両科目を取得することで法定上の科目「情報資源組織演習（2単位）」に相当します。

※3 「図書館情報資源特論（2単位）」への読み替えは、「専門資料論（2単位）」「資料特論（2単位）」のいずれか1科目です。

4. 社会教育主事課程

1. 社会教育主事とは

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担います。

職務の例としては

1. 教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画・立案・実施
 2. 管内の社会教育施設が主催する事業に対する指導・助言
 3. 社会教育関係団体の活動に対する助言・指導
 4. 管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施
- など、その業務は多岐にわたっています。

2. 文学部での資格取得

以下の3つの要件すべてを充たすことが必要です。

- ①大学に2年以上在学して62単位以上修得。
 ②文学部において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得。
 ③次のイ～ハに掲げる期間を通算した期間が1年以上になるもの。

- イ 社会教育主事補の職にあった期間
 ロ 官公署又は社会教育関係団体における社会教育に関係のある職で文部科学大臣の指定するものにあった期間
 ハ 官公署又は社会教育関係団体が実施する社会教育に関係のある事業における業務であって、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（イ又はロに掲げる期間に該当する期間を除く。）

3. 社会教育主事課程開講科目（文部科学省令で定める科目）

文部科学省令で定める社会教育に関する科目と単位数および文学部でそれに該当する科目と単位数は次表のとおりです。

法定上の科目	単位数	文学部開講科目	単位数	履修方法
生涯学習概論	4	生涯学習概論	4	必修
社会教育計画	4	社会教育計画	4	必修
社会教育演習	4	社会教育演習	2	2科目4単位必修
社会教育実習		社会教育実習	2	
社会教育課題研究		社会教育課題研究	2	
社会教育特講Ⅰ	12	社会教育特講Ⅰ	4	必修
社会教育特講Ⅱ		社会教育特講Ⅱ	4	必修
社会教育特講Ⅲ		社会教育特講Ⅲ	4	必修

★「社会教育特講Ⅱ」「社会教育特講Ⅲ」については、次の文学部開講科目の履修によって、所定の単位が修得できたものとみなします。

法定上の科目	開講科目	単位	履修方法
社会教育特講Ⅱ (4単位)	視聴覚教育メディア論	4	4単位履修すること
	【2011年度以前入学生のみ履修可能】 博物館学各論（資料論・経営論・情報論）	4	
	【2012年度以降入学生のみ履修可能】 博物館資料論	2	
	博物館経営論	2	
	博物館情報・メディア論	2	
社会教育特講Ⅲ (4単位)	社会事業概論	4	4単位履修すること
	教育原論A	2	
	教育原論B	2	
	教育学概論	4	
	【2012年度以降入学生のみ履修可能】 博物館教育論	2	

5. 博物館学芸員課程

1) 博物館といわれるのは、博物館・美術館・資料館・郷土館・宝物館・民族館・記念館などのほか、天文館・電気館・科学館・水族館・動物園・植物園などを含むもので、これら

- は学校教育に対する社会教育施設として、図書館や公民館とともに重要な教育施設です。
- 2) 昭和26年12月に制定された「博物館法」によって、これらの博物館は、その目的を達成するために、「学芸員」やその他の職員を置くことが定められました。
 - 3) 学芸員は、博物館資料の収集・保管・展示および調査研究、その他これと関連する事業についての専門的事項を司る者で、博物館が社会教育施設として有効な活動ができるかどうかは、まったく学芸員の能力と手腕にかかっています。
 - 4) 本学においても、博物館学芸員課程を設置し、人文科学系博物館の学芸員を養成し、別表の科目を履修することによって、有能な学芸員を社会に送ろうとするものです。
 - 5) 在学中に本課程を完修できなかった場合、卒業後に本学部での科目等履修生となり、未修得の科目を履修することも可能ですが、「博物館実習」の履修登録が認められないことがあるため、できるだけ在学中に完修することが望ましいです。
 - 6) 「博物館実習」は年間に20日程度学外実習があり、宿泊を伴う地方への巡検がありますので、職業や家庭の事情等で学外実習や地方への巡検ができないと判断される場合は、履修登録が認められません。
 - 7) 博物館学芸員に関する所定の科目と単位、および本学部でそれに該当する科目と単位は、次表のとおりです。2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生を含む）と2011年度以前入学の学部在学生在で修得すべき単位数が異なります。

【2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生を含む）】

必修9科目（19単位）の修得が必要。

【2011年度以前入学の学部生】

卒業までに必修6科目（21単位）ならびに選択科目群中、（A）～（I）の9系列中から2系列以上にわたり8単位以上選択履修しなければなりません。なお、選択科目については、文学部開講科目の都合上、（A）～（D）の4系列からの選択履修となります。

★博物館学芸員資格を取得希望で単位を一部未修得で卒業した場合

上記5)のとおり、科目等履修生として履修を続けることが可能ですが、その場合、2012年度以降入学生のカリキュラムが適用されます。在学中に修得した単位のうち、2012年度以降入学生のカリキュラムへの読み替えが可能なもの以外に、追加で修得する単位が必ず発生します。そのためできるだけ在学中に完修することが望ましいです。

【科目等履修生（大学院生の学部科目履修も含む）】

すべての科目等履修生は2012年度以降入学生のカリキュラムでの履修になります。過年度に博物館学芸員課程において修得した単位がある場合、2012年度以降入学生のカリキュラムへの読み替えが可能なものがあります。詳細は157頁を参照してください。

8) 「博物館実習」の履修について

ア. 履修登録資格

- ①前年度までに下記の科目の単位を修得した者。

【2011年度以前入学の学部生】

「博物館学概論」、「博物館学各論」 2科目6単位。

【2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生、再入学者を含む）】

【科目等履修生（大学院生の学部聴講も含む）】

「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館展示論」「博物館教育論」の4科目8単位。
 （2012年4月編転入生については、博物館展示論が2013年度からの開講となるため、博物館展示論を除く3科目6単位とする。）

- ②履修登録に際しての選考に合格した者（科目の性格上、多人数の受講が不可能であるため選考します。

※選考は、履修希望に関する書類・成績（博物館学芸員課程関連科目既修得成績および卒業要件科目既修得成績）および博物館学に関する筆記試験等によって行います。

- ③科目の性格上、出席を重視するので必ず出席できる者。

イ. 実習内容

- ①見学実習を中心に、講義実習および実技を年間を通して行います。

※通常は、土曜日の3、4講時に行いますが、実習先の都合によっては、他の曜講時に行うことがあります。

- ②夏期休暇等を利用して宿泊実習を行います（予定）。

※夏期休暇中に東京・横浜方面（2泊3日）

- ③12月上旬に実習の総まとめとしての展示会「12月展」を行います。

ウ. 実習費

- ①履修登録を許可された者は、実習費として10,000円を納入しなければなりません。

- ②見学実習等に必要な交通費・宿泊費等の実費（約10万円）を自己負担しなければなりません。

「博物館実習」の履修登録希望者は、3月下旬（書類配布）に募集しますので申し込んでください。

9) 「博物館に関する科目」カリキュラム表

【2011年度以前入学の学部生】

	法定上の科目	文学部開講の科目	単位数	配当年次	開講学舎	備考
必修科目	生涯学習概論	生涯学習概論	4	2年次以上	大 宮	
	博物館概論	博物館学概論	2	2年次以上	深 草	博物館実習先修科目
	博物館経営論	博物館学各論	4	2年次以上	大 宮	博物館実習先修科目
	博物館資料論					
	博物館情報論					
	視聴覚教育メディア論	視聴覚教育メディア論	4	3年次以上	大 宮	
	教育学概論	教育学概論	4	2年次以上	両学舎	
博物館実習	博物館実習	3	4年次	大 宮	履修登録に際して選考が行われます。	

選 択 科 目	文化史（A）	西洋史（西洋文化史） 日本文化史Ⅰ 日本文化史Ⅱ 中国文化史Ⅰ 中国文化史Ⅱ 仏教文化史Ⅰ 仏教文化史Ⅱ	4 2 2 2 2 2 2	2年次以上 2年次以上 2年次以上 2年次以上 2年次以上 2年次以上 2年次以上	大 宮 深 草 深 草 深 草 深 草 深 草 深 草	文学部開講科目の（A）～（D）の4系列の中から、2系列以上にわたり8単位以上を選択履修しなければなりません。
	美術史（B）	美術史（日本） 美術史（アジア） 美術史（仏教）	4 4 4	2年次以上 2年次以上 2年次以上	大 宮 大 宮 大 宮	
	考古学（C）	考古学（日本） 考古学（アジア） 考古学（仏教）	4 4 4	1年次以上 1年次以上 1年次以上	両学舎 深 草 深 草	
	民俗学（D）	民俗学（日本） 民俗学（アジア） 民俗学（仏教）	4 4 4	3年次以上 3年次以上 3年次以上	大 宮 大 宮 大 宮	
	自然科学史（E）					
	物理学（F）					
	化学（G）					
	生物学（H）					
	地学（I）					

【2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生を含む）】

【科目等履修生（大学院生の学部科目履修も含む）】

	法定上の科目	文学部開講の科目	単位数	配当年次	開講学舎	備考
必 修 科 目	生涯学習概論	生涯学習概論	2	1年次以上	深 草	博物館実習先修科目
	博物館概論	博物館概論	2	1年次以上	深 草	博物館実習先修科目
	博物館経営論	博物館経営論	2	2年次以上	大 宮	
	博物館資料論	博物館資料論	2	1年次以上	深 草	
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	2年次以上	深草/瀬田	
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	2年次以上	大 宮	
	博物館展示論	博物館展示論	2	2年次以上	大 宮	博物館実習先修科目
	博物館教育論	博物館教育論	2	1年次以上	深 草	博物館実習先修科目
	博物館実習	博物館実習	3	4年次	大 宮	履修登録に際して選考が行われます。

★下記科目の単位修得は資格取得要件ではないが、履修することが望ましい。

授業科目名	単位数	配当年次	開講学舎
西洋史（西洋文化史）	4	2年次以上	大 宮
日本文化史Ⅰ	2	2年次以上	深 草
日本文化史Ⅱ	2	2年次以上	深 草
中国文化史Ⅰ	2	2年次以上	深 草
中国文化史Ⅱ	2	2年次以上	深 草
仏教文化史Ⅰ	2	2年次以上	深 草
仏教文化史Ⅱ	2	2年次以上	深 草

美術史（日本）	4	2年次以上	大宮
美術史（アジア）	4	2年次以上	大宮
美術史（仏教）	4	2年次以上	大宮
考古学（日本）	4	1年次以上	深草
考古学（アジア）	4	1年次以上	深草
考古学（仏教）	4	1年次以上	深草
民俗学（日本）	4	3年次以上	大宮
民俗学（アジア）	4	3年次以上	大宮
民俗学（仏教）	4	3年次以上	大宮

10) 旧カリキュラムで修得した単位の2012年度以降入学生用科目への読み替え表
読み替え対象となるのは2011年度までに修得した単位に限ります。

旧カリキュラム				読み替え	新カリキュラム			
	法定上の科目	文学部開講の科目	単位数			法定上の科目	文学部開講の科目	単位数
必修科目	生涯学習概論	生涯学習概論	4	⇒	生涯学習概論	生涯学習概論	2	
	博物館概論	博物館学概論	2	⇒	博物館概論	博物館概論	2	
	博物館経営論	博物館学各論	4	⇒ ※1	博物館経営論	博物館経営論	2	
	博物館資料論				博物館資料論	2		
	博物館情報論				博物館情報・メディア論	2		
	視聴覚教育メディア論	視聴覚教育メディア論	4		博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	
					博物館展示論	博物館展示論	2	
	教育学概論	教育学概論	4	不可	博物館教育論	博物館教育論	2	
	博物館実習	博物館実習	3	⇒	博物館実習	博物館実習	3	
	選択科目 ※2	文化史（A）	西洋史（西洋文化史）	4	※1 「博物館学各論」と「視聴覚教育メディア論」の両方を修得した場合のみ「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報・メディア論」の3科目全てに読み替えが可能 ※2 新カリキュラムでは選択科目の履修を資格取得要件とはしない ★2012年度以降に旧カリキュラムから新カリキュラムへの読み替えが必要な者 ○本学において旧カリキュラムで一部履修している科目等履修生 ○再入学者 ○3年次編転入者（本学出身者に限る） ○大学院進学者（本学出身者に限る）			
日本文化史Ⅰ			2					
日本文化史Ⅱ			2					
中国文化史Ⅰ			2					
中国文化史Ⅱ			2					
仏教文化史Ⅰ			2					
仏教文化史Ⅱ			2					
美術史（B）		美術史（日本）	4					
		美術史（アジア）	4					
		美術史（仏教）	4					
考古学（C）		考古学（日本）	4					
		考古学（アジア）	4					
		考古学（仏教）	4					
民俗学（D）		民俗学（日本）	4					
	民俗学（アジア）	4						
	民俗学（仏教）	4						

6. 心理士関係認定資格取得基礎課程（認定心理士受験資格）

※哲学科教育学専攻教育心理学コース生及び臨床心理学科生のみが取得可能
※学校心理士受験資格、臨床心理士受験資格は文学研究科履修要項に記載

文学部および大学院文学研究科では、認定心理士、学校心理士、臨床心理士に必要な科目を開講し、1997年度より認定資格取得基礎課程を開設しました。いずれの資格も現在のところ国家資格ではなく、各学会・協会が認定している民間資格ではありますが、各機関が社会的責任を果たしていく上で必要と考え、内部規定をもって定めているものです。

認定心理士…心理学を実践する者にとって必要な基礎的な資格。

学校心理士…いじめや不登校、発達障がい等の児童・生徒の問題を抱える教育現場に必要な学校カウンセラーの資格。

臨床心理士…医療・教育・福祉など幅広い領域で働く臨床心理の専門家としての資格。

学校心理士は本学大学院文学研究科教育学専攻教育心理学領域修士課程、臨床心理士は、本学大学院文学研究科臨床心理学専攻修士課程を修了することが要件となります。

これらの資格は、認定機関の規定により資格取得希望者が個人の資格（自己責任）で申し込むことになっています。本学の履修要項では、これらの資格に必要な科目と大学が開設する科目とが対応するように配慮されていますが、資格は各機関が独自の基準で認定します。つまり、基準に合致するか否かの最終判定はすべて当該機関の権限において行われますので、大学で履修した科目と単位が自動的に認定されるということではありません。また、認定基準も随時変更されます。したがって、申請する場合には、大学の履修科目の内容や単位数の有効性などの確認も含めて、事前に必ず各自で当該機関に問い合わせの上、手続きを進めてください。

「本基礎課程」については、履修指導期間中（3月末の予定）に説明会を開催する予定ですので、希望者は必ず本「授業科目履修要項」を持参し出席してください。

認定心理士受験資格（資格認定機関：社団法人日本心理学会）

基礎条件：

- 1) 心理学専攻、教育心理学専攻または心理学関連専攻の学科において規定の単位を修得卒業した者（本学文学部では哲学科教育学専攻の教育臨床心理学コース（2011年度以前入学生）・教育心理学コース（2012年度以降入学生、臨床心理学科が心理学関連専攻の学科に該当します）。
- 2) 実験及び実習に係わる科目を除き、卒業後の科目等履修でも修得可です。
- 3) 資格認定申請時に基礎科目のBとCに関しては「シラバス」のコピーの添付が必要となります。B・C以外についても「シラバス」の提出を求められることがあるため、履修科目の「シラバス」および「履修要項」は、卒業後も保管しておかなければなりません。2007年度以降の「シラバス」は大学ホームページからダウンロードできます。

学会規定	文学部履修規定						
	開設科目名	単位数	年次指定	開講学舎	履修方法		
1) 基礎科目 A (4 単位), B (4 単位), C (3 単位) 以上合計12単位以上 A. 心理学概論 B. 心理学研究法 C. 心理学実習・実験 2) 選択科目 D～H の 5 領域のうち 3 領域以上で各領域 3 単位以上合計16単位以上 D. 知覚心理学・学習心理学 E. 教育心理学・発達心理学	〈専攻科目〉 ※心理学概論 ※心理学概論 A 注) ※心理学概論 B 注) 〈教養教育科目〉 心理学 心の科学 A 心の科学 B	4 2 2 4 2 2	1 年次以上 1 年次以上 1 年次以上 1 年次以上 1 年次以上 1 年次以上	深草 深草 深草 深草 深草 深草	4 単位以上 選択必修		
	〈専攻科目〉 ※心理学研究法 教育心理学研究法 ※心理調査・統計法 A ※心理調査・統計法 B	4 4 2 2	3 年次以上 3 年次以上 3 年次以上 3 年次以上	大宮 大宮 大宮 大宮		4 単位以上 選択必修	
	〈専攻科目〉 ★※心理学実験実習 ★※心理学 (実験実習) ※心理学 (実験実習) I ※心理学 (実験実習) II ※心理学実験 A (2015年度から教育学専攻のみ履修可) ※心理学実験 B (教育学専攻のみ履修可) ★臨床心理学実習 臨床心理学 (実習) 臨床心理査定 (実習) 対人援助学 (実習)	2 1 1 1 1 1 2 2 1 1	 3 年次以上 3 年次以上 3 年次以上 3 年次以上 3 年次以上	 大宮 大宮 大宮 大宮 大宮			4 単位 必修
	〈専攻科目〉 ★※学習心理学 ※学習心理学 ★※認知心理学 ※認知心理学 A ※認知心理学 B	4 2 4 2 2	 3 年次以上 3 年次以上 3 年次以上	 大宮 大宮 大宮			
	〈専攻科目〉 ※教育心理学 ★※発達心理学 I ★※発達心理学 II ★障害児教育方法学 障害児・者心理学 発達心理学概論 〈教養教育科目〉 発達と教育 A 発達と教育 B	4 2 2 2 2 2 2 2	2 年次以上 2 年次以上 2 年次以上 1 年次以上 2 年次以上 2 年次以上	両学舎 深草 深草 深草 深草			
						D～Hの内3領域以上から各4単位以上、計16単位以上 選択必修	

F. 比較心理学・生理心理学	〈専攻科目〉				
	★※生理心理学	4			
	※生理心理学A 注)	2	1年次以上	深草	
G. 人格心理学・臨床心理学	※生理心理学B 注)	2	1年次以上	深草	
	〈専攻科目〉				
	★※臨床心理学	4			
	★※人格心理学	4			
	※パーソナリティ心理学A	2	3年次以上	大宮	
	※パーソナリティ心理学B	2	3年次以上	大宮	
H. 社会心理学・産業心理学	臨床心理学概論A	2	1年次以上	深草	
	臨床心理学概論B	2	1年次以上	深草	
	〈専攻科目〉				
	★※社会心理学	4			
	※社会心理学A	2	3年次以上	大宮	
	※社会心理学B	2	3年次以上	大宮	
3) その他の科目 8単位以上 卒業論文は4単位まで認定 されます	コミュニティ心理学	2	1年次以上	深草	
	〈専攻科目〉				
	★宗教心理学	4			
	宗教心理学A	2	2年次以上	深草	その他の科目 及びA～Hから 8単位以上 合計36単位以 上
	宗教心理学B	2	2年次以上	深草	
	★卒業論文 (教育心理学演習Ⅱを含む)	8			
	★卒業論文 (臨床心理学演習Ⅱを含む)	8			
	卒業論文	4	4年次	大宮	
	〈教養教育科目〉				
	応用心理学A	2	2年次以上	深草	
応用心理学B	2	2年次以上	深草		

- 1) 上記の表はモデルケースです。また、上記の科目はシラバスの内容が年度によって変わることもあり、シラバスの内容によっては認定されないこともあります。したがって、申請にあたっては本人が直接学会から『資格申請の手引き』を取り寄せ、内容を確認の上申請しなければなりません。
- 2) A～Hで※印の科目は「基本主題」を、無印の科目は「副次主題」を意味します。学会規定の4（C領域は3）単位のうち、最低2単位は「基本主題」から修得しなければなりません。残りの1単位分は「副次主題」でもよいのですが、これらの科目は開講単位の2分の1しか認められませんので、申請に必要な学会規定の単位数の算定に注意してください。判定はすべて学会が行います（開講科目や単位数がそのまま認定されるとは限らない）ので、各領域の主題ごとにできるだけ余裕のある単位数を取得して申請することが望ましいです。
- 3) 卒業論文については心理学に関連したテーマと内容が要求されます。
- 4) A～Hで学会規定の総計36単位以上修得している場合は、「その他の科目」を充たす必要はありません。
- 5) ★印の科目は現在開講されていません。
- 6) 心理学概論、生理心理学はそれぞれA、Bの4単位を修得してはじめて基本主題の単位となります。
- 7) 履修方法欄の修得単位数は副次主題科目の単位を2分の1にした状態での合計単位数となります。
- 8) 「心理学（実験実習）Ⅰ」と「心理学（実験実習）Ⅱ」は同一学期に同時登録をしなければなりません。なお、どちらか一方の科目のみの登録はできません。
ただし、以下の場合は「心理学（実験実習）Ⅱ」のみの受講を認めます。
・2014年度に「心理学実験A」または「心理学（実験実習）」の単位を修得した者で「心理学（実験実習）Ⅱ」を未受講または不合格となった者。

7. 本願寺派学階課程

1) 学階の種類

勧学、司教、輔教、助教、得業

2) 昇階の定年（学階規程第9条第1項関係）

得業から助教への昇階 3年

助教から輔教への昇階 4年

輔教から司教への昇階 7年

3) 学階試験

予試 真宗学または仏教学に関する論文と口述試問

本試 真宗学及び仏教学に関する問題について行い、その試験方法及び範囲は次に掲げるとおりとする。

	筆記試験	口述試問
輔教の本試	真宗学または仏教学	同左
助教の本試	真宗学は宗祖部 仏教学は天台教義及び華嚴教義	同左
得業の本試	真宗学は宗祖部 仏教学は俱舎教義及び唯識教義	同左

殿試 学階取得の基礎となる殿試が、毎年春秋2回勧学寮で実施される（殿試規程第2条第2項）。殿試とは、初めて学階を取得するときに受けなければならない試験であり（学階規程第5条）、宗意安心に関する試問をいう（殿試規程第2条第1項）。

4) 学階試験（予試本試）の免除

学階規程第15条にもとづき、龍谷大学卒業生でP. 163・164掲載の所定科目の単位修得者は、学長の推薦により次のとおり学階試験の予試及び本試を免除する。（ただし、既に助教または得業の学階を有し、現学階取得後の進路によって学階規程第15条に該当する輔教または助教の予試及び本試の免除資格を満たしたものは、同規程第9条第1項の昇階定年にかかわらず、当該学階の授与を願い出ることができるものとする。

輔教 ○龍谷大学大学院文学研究科修士課程修了生で、真宗学または仏教学を専攻した者。
○龍谷大学大学院実践真宗学研究科修士課程修了生で、実践真宗学研究科履修要項掲載の所定科目の単位を修得し、かつ修士論文を提出した者

助教 龍谷大学文学部真宗学科または仏教学科の卒業生（1991年度以前入学生は仏教学科真宗学専攻または仏教学専攻の卒業生）で、P. 163・164掲載の所定科目の単位を修得した者。

得業 龍谷大学短期大学部仏教科卒業生。

5) 学階試験（予試本試）の免除に係わる特例（ここでいう「有資格者」「資格者」とは、助教または輔教の予試および本試の免除資格を有するものをいう）

特例① 龍谷大学文学部真宗学科または仏教学科の卒業生（1991年度以前入学生は仏教学科真宗学専攻または仏教学専攻の卒業生）で、龍谷大学大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻または仏教学専攻）を修了した場合、助教または無学階者であっても、龍谷大学文学部真宗学科または仏教学科の卒業生（1991年度以前入学生は

仏教学科真宗学専攻または仏教学専攻の卒業生）をもって助教有資格者とみなし、学部を卒業して4年後に輔教授与願出の資格あるものとする。ただし、助教を願い出る場合は、P. 163・164掲載の助教所定科目を修得しておかなければなりません。

特例② 他大学の卒業生、龍谷大学文学部以外の学部の卒業生、龍谷大学文学部真宗学科または仏教学科の卒業生（1991年度以前入学生は仏教学科真宗学専攻または仏教学専攻の卒業生）以外の学科の卒業生で、龍谷大学大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻または仏教学専攻）を修了した場合、無学階者であっても、その修士課程入学をもって助教有資格者とみなし、その修士課程に入学して4年後に輔教授与願出の資格を得られるものとする。

ただし、助教または得業を願い出る場合は、予試本試免除論文を提出し、学階審査委員会の審査を経なければならない（学階規程第14条口の項）。助教または得業の願出については、出身大学・学部・学科により、次のとおり手続き方法が区分される。

区分イ：対象者

○龍谷大学文学部以外の学部の卒業生

○他大学の文学部または仏教学部等の卒業生

龍谷大学大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻または仏教学専攻）
在学中より助教または得業の願出ができる。

区分ロ：対象者

龍谷大学文学部真宗学科または仏教学科の卒業生（1991年度以前入学生は仏教学科真宗学専攻または仏教学専攻の卒業生）以外の学科の卒業生

龍谷大学大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻または仏教学専攻）
在学中より助教または得業の願出ができる。P. 163・164掲載の所定科目を修得し、その成績が優秀な者については、特例③が適用されるため、予試本試免除論文の提出を必要としない。

区分ハ：対象者

区分イの適用のない他大学の卒業生

龍谷大学大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻または仏教学専攻）
修了後に助教または得業の願出ができる。

特例③ 龍谷大学文学部の卒業生で、真宗学科または仏教学科の卒業生（1991年度以前入学生は仏教学科真宗学専攻または仏教学専攻の卒業生）以外の学科を卒業した者の内、P. 163・164掲載の所定科目を修得し、その成績が優秀な者には、学階試験委員会の審査を経て、助教または得業の予試本試が免除される（学階規程第15条第2項）。

6) 適用上の注意

この規則は、1988年度からの施行であり、1986年度以降文学部入学生及び1988年度以降大学院文学研究科修士課程入学生に適用されるものである。1985年度以前文学部入学生及び1987年度以前大学院文学研究科修士課程入学生については、当該入学年度の履修要項「本願寺派学階課程」が適用される。

付 則

この規則は、1988年4月1日から施行し、1986年度文学部入学生及び1988年度以降大学院文学研究科修士課程入学生より適用する。(1988年1月27日教授会決定)

1992年度の真宗学科及び仏教学科開設に伴い一部改正 (1992年3月4日教授会承認)

この規則は、浄土真宗本願寺派の学階規程に係わる内規の一部改正に伴い、2002年4月1日から施行する。(2003年1月15日教授会承認)

この規則は、浄土真宗本願寺派の学階規程に係わる内規の一部改正に伴い、2007年4月1日から施行する。(2007年2月23日教授会承認)

学階にかかわる上記履修要項上の規定は本願寺宗務所で管理されてきた各種の規程の解釈を整理し、成文化したものです。したがって、学階課程を既に履修した者の利益を考慮し、実務上はその適用を遡及させています。ただし、下記に表示されている学階課程としての所定科目については、原則として、在学時の履修要項が適用されます。

また、助教及び得業については、文学部卒業後の科目等履修も可能です。

〈2006～2013年度入学生〉

助 教 所 定 科 目		得 業 所 定 科 目	
科 目	規定単位数	科 目	規定単位数
★真宗学概論A	4	★真宗学概論A	4
★仏教学概論A	4	★仏教学概論A	4
★浄土教概論 ★浄土教理史 ★真宗聖典学概論 ★仏教聖典学概論 ★インド仏教教学史 ★中国仏教教学史 ★日本仏教教学史 ◎チベットの仏教と文化 ★真宗伝道学 ★真宗教学史 ★比較思想論	12 これらの科目から4単 位修得のこ と	★浄土教理史 ★仏教聖典学概論 ★真宗伝道学 ★真宗教学史	4
★真宗史 ☆仏教文化史 ★インド仏教史 ★西域仏教史 ★中国仏教史 ★日本仏教史	4	★真宗史 ☆仏教文化史 ★インド仏教史 ★西域仏教史 ★中国仏教史 ★日本仏教史	4
真宗学科開講特殊講義 真宗学科開講講読 仏教学科開講特殊講義 仏教学科開講講読	16	真宗学科開講特殊講義 真宗学科開講講読 仏教学科開講特殊講義 仏教学科開講講読	8

★印の科目は4単位科目であったが、現在は半期科目として開講されている。それぞれ分割後の科目(A及びB、A1及びA2)の4単位を修得することで、★印の科目の単位とする。例) 仏教聖典学概論Aのみの修得では仏教聖典学概論を修得したことにはならない。

☆印の科目は仏教文化史I及び仏教文化史IIの両方の単位を修得することで、仏教文化史4単位となる。

◎印の科目は2013年度で廃止。

〈2014年度以降入学生〉

助教所定科目		得業所定科目	
科目	規定単位数	科目	規定単位数
真宗学概論A 1及びA 2	4	真宗学概論A 1及びA 2	4
仏教学概論A 1及びA 2	4	仏教学概論A 1及びA 2	4
浄土教概論A、B 浄土教理史A、B 真宗聖典学概論A、B	12 (ア～エの中から4単位を含んで12単位)	浄土教理史A、B 仏教聖典学概論A及びB 真宗伝道学A、B 真宗教学史A、B	4
仏教聖典学概論A及びB		ア	ア～カの中から4単位
インド仏教教学史A及びB		イ	
中国仏教教学史A及びB		ウ	
日本仏教教学史A及びB		エ	
真宗伝道学A、B 真宗教学史A、B 比較思想論A、B			
真宗史A及びB	ア	真宗史A及びB	
仏教文化史I及びII	イ	仏教文化史I及びII	イ
インド仏教史A及びB	ウ	インド仏教史A及びB	ウ
西域仏教史A及びB	エ	西域仏教史A及びB	エ
中国仏教史A及びB	オ	中国仏教史A及びB	オ
日本仏教史A及びB	カ	日本仏教史A及びB	カ
真宗学科開講特殊講義 真宗学科開講講読 仏教学科開講特殊講義 仏教学科開講講読	16	真宗学科開講特殊講義 真宗学科開講講読 仏教学科開講特殊講義 仏教学科開講講読	8

8. 本願寺派教師資格課程

本願寺派教師の資格を得るのは、次の表にしたがって、本学開講科目を履修しなければなりません。また、科目等履修生がこの資格を取得することも可能です。

〈2006～2013年度入学生〉

本山教師科目	授業科目名	履修要件
真宗教義	(1) ★真宗学概論A (2) 真宗学概論A 1及びA 2 (3) ★真宗学概論B (4) 真宗学概論B 1及びB 2	左記(1)～(4)のうちいずれか4単位
仏教教義	(1) ★仏教学概論A (2) 仏教学概論A 1及びA 2 (3) ★仏教学概論B (4) 仏教学概論B 1及びB 2	左記(1)～(4)のうちいずれか4単位
真宗史	(1) 真宗教団史 (2) ★真宗史 (3) 真宗史A及びB	左記(1)～(3)のうちいずれか4単位

仏教史	(1) 仏教文化史 I 及び II (2) ★インド仏教史 (3) インド仏教史 A 及び B (4) ★西域仏教史 (5) 西域仏教史 A 及び B (6) ★中国仏教史 (7) 中国仏教史 A 及び B (8) ★日本仏教史 (9) 日本仏教史 A 及び B	左記 (1) ~ (9) のうちいずれか 4 単位
宗教概説	(1) 宗教学入門及び世界の宗教 A (2) 宗教学入門及び世界の宗教 B (3) ★宗教学概論 (4) 宗教学概論 A 及び B	左記 (1) ~ (4) のうちいずれか 4 単位
勤式作法	勤式	4 単位
宗門法規	宗門法規	2 単位
布教法	教化法	4 単位

★印の科目は2014年度以降不開講。

〈2014年度以降入学生〉

本山教師科目	授業科目名	履修要件
真宗教義	(1) 真宗学概論 A 1 及び A 2 (2) 真宗学概論 B 1 及び B 2	左記 (1) (2) のうちいずれか 4 単位
仏教教義	(1) 仏教学概論 A 1 及び A 2 (2) 仏教学概論 B 1 及び B 2	左記 (1) (2) のうちいずれか 4 単位
真宗史	(1) 真宗教団史 (2) 真宗史 A 及び B	左記 (1) (2) のうちいずれか 4 単位
仏教史	(1) 仏教文化史 I 及び II (2) インド仏教史 A 及び B (3) 西域仏教史 A 及び B (4) 中国仏教史 A 及び B (5) 日本仏教史 A 及び B	左記 (1) ~ (5) のうちいずれか 4 単位
宗教概説	(1) 宗教学入門(2 単位)及び世界の宗教 A (2) 宗教学入門(2 単位)及び世界の宗教 B (3) 宗教学入門 (4 単位) (4) 宗教学概論 A 及び B	【2014年度入学生】 左記 (1) (2) (4) のうちいずれか 4 単位 【2015年度入学生】 左記 (3) (4) のうちいずれか 4 単位
勤式作法	勤式	4 単位
宗門法規	宗門法規	2 単位
布教法	教化法	4 単位

9. 社会福祉主事課程

社会福祉主事とは、都道府県および市町村の設置する福祉に関する事務所において、生活保護法・児童福祉法・老人福祉法・身体障害者福祉法等に定める援護・育成または更正の措置に関する事務を行うことを職務とするものです。その資格は、学校教育法にもとづく大学において、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修得し卒業することで取得できます。ただし、あくまでもこれは「任用資格」であり、地方自治体に採用となり、福祉に関する事務所に配置されて、はじめて「資格」としての意味をなすものです。

また、この資格は、必要科目を修得して卒業することが条件であるため、卒業後に不足の科目を科目等履修によって補うことはできません。必ず卒業までに取得要件科目をすべて修得しておかなければなりません。

希望者は指定の科目のうちから3科目以上を修得して卒業してください。

なお、2009年度より下記のとおり取扱います。また、2000年度以降入学生にも遡及適用します。

厚生労働大臣の指定する科目	本学開講科目
社会福祉概説	社会事業概論
社会福祉事業史	社会事業史
精神障害者保健福祉論	★精神保健学
法学	法学概論
経済学	経済原論
心理学	心理学（教養教育科目） あるいは （2011年度まで） 心理学概論 （2012年度以降〈心理学概論既修得者は履修不可〉） 心理学概論A及び心理学概論B * 4単位の修得をもって1科目とみなすため、例えば、心理学及び心理学概論の2科目修得しても1科目修得という扱いになる。 * 心理学概論Aまたは心理学概論Bの1科目のみの修得だけでは、厚生労働大臣の指定する科目「心理学」1科目を修得したことにはなりません。
社会学	社会学概論
教育学	教育学概論
倫理学	倫理学概論、倫理学入門 * 2科目修得しても倫理学分野においては1科目修得という扱いになる。
医学一般	★医学概論

★印の科目は現在開講されていない。

★特別研修講座・各種講座・試験

課程	目的・内容	担当部署
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々を養成することを目的としています。	(全学) 矯正・保護総合センター事務部窓口 (深草) 法学部教務課窓口 (大宮) 文学部教務課窓口 (瀬田) 社会学部教務課窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験など）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課窓口
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されています。	〈目的・内容〉 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 就職筆記試験対策講座／エントリーシート対策講座／ 〈試験対策〉 公務員講座 〈資格系〉 TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／FP技能士講座（3級・2級AFP）／宅地建物取引士講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2013、Word2013）／社会福祉士国家試験講座／介護職員初任者研修講座／CAD利用技術者講座（2級）／色彩検定講座／秘書検定講座／	キャリアセンター (深草・瀬田・大宮) 窓口
RECコミュニティカレッジ外国語コース	〈生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の外国語コース〉 REC生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の「外国語コース」では、入門から上級までレベルに応じた英語講座を多数開講しているほか、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語も開講しており、語学力を向上させ、正規の授業を補完できる内容となっています。 本学学生は割引価格で受講できます。詳しくはREC(京都・滋賀)の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。 ※「RECコミュニティカレッジ」では、「外国語コース」のほか、「仏教・こころ」「文化・歴史」など多様な講座を開講しています。	REC事務部 (京都・滋賀)

※TOEIC®, TOEFL®はエデュケーション・テスト・サービス (ETS) の登録商標です。この(印刷物/製品/ウェブサイト)はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

〈文 学 部〉

第4部 学生生活の手引き

I. 窓口事務	170
1. 届書・願書および各種証明書	170
2. 各種証明書の交付について	173
3. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて	174
4. 教員との面談・オフィスアワー	174
II. 授業休止の取り扱い基準	175
1. 全学休講とする場合	175
2. 授業の開始基準	175
3. その他の注意事項	176
III. 学籍の取り扱い	177
1. 学籍とは	177
2. 学籍簿	177
3. 学生証	178
4. 学籍の喪失	179
5. 休学と復学	179
6. 修業年限	180
7. 再入学	180
8. 転入学	181
9. 9月卒業について	181
IV. 留学	182
1. 交換留学	182
2. <small>ピアアイ</small> BIE Program留学	182
3. 私費留学	183
4. 短期留学	184
5. 個人留学(休学して留学する)	186
6. 交換留学・私費留学における 単位認定	187
V. 心身ともに健康な学生生活を送るために～保健管理センターの利用について～	189
1. 保健管理センターについて	189
2. 定期健康診断について	189
3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について	189
4. 保健管理センターの利用について	190
5. 診療所について	190
6. 学生相談（こころの相談室）について	190
7. 健康増進のための学習会やイベントについて	191
VI. 大学院文学研究科・実践真宗学研究科について	192
〈付録〉	
アカデミック・リテラシー・ルーブリック	195
卒業論文ルーブリック	197

I. 窓口事務

1. 届書・願書および各種証明書

文学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用してください。（文学部教務課窓口で受け取ることができます。）

(1) 届書（※印のものは、保証人の連署が必要。）

事 項	添付書類	適 用
※保証人変更届	特になし	授業欠席届について 所定の届出用紙に授業科目担当者の確認印を受けた後、文学部教務課窓口へ提出してください。
現住所変更届	特になし	
改姓名届	住民票記載事項証明書	
授業欠席届	理由書または診断書	

(2) 願書（※印のものは、保証人の連署が必要。）

事 項	添付書類	受付期間
※休学願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復学願	理由書または、疾病の場合は回復診断書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退学願	理由書または診断書、学生証	第1学期末退学：当該年度の9月30日まで 第2学期末退学：当該年度の3月31日まで
追試験受験願	理由書、追試験料納付書、追試験受験を必要とする旨を証明するもの（診断書等）	当該科目の試験日を含め4日以内 （土・日・祝日は含まない。なお、土曜日が試験日の場合は、土曜日を日数に含める。）

休学、復学、退学については「IV. 4. 学籍の喪失」および「IV. 5. 休学と復学」の項も参照してください。

(3) 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、文学部教務課窓口へ提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な日数等	証明書の種類	手数料 (2007.4.1変更)	
即日交付	在学証明書	1 通100円	左記証明書は、証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業見込証明書		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書	1 通200円	
	卒業見込・学業成績証明書		
	学割証	無 料	
2日後交付 (土日祝日含まず)	卒業証明書	1 通100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、文学部教務課窓口へ提出してください。
	学業成績証明書		
	単位修得証明書		
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
	博物館学芸員資格取得証明書		
	博物館学芸員資格取得見込証明書		
	博物館学芸員資格単位修得証明書		
	博物館学芸員資格単位修得見込証明書		
	社会教育主事任用資格単位修得証明書		
	社会教育主事任用資格単位修得見込証明書		
	社会福祉主事基礎資格証明書		
	社会福祉主事基礎資格取得見込証明書		
	図書館司書課程単位修得証明書		
	図書館司書課程単位修得見込証明書		
	学校図書館司書教諭課程単位修得証明書		
	学校図書館司書教諭課程単位修得見込証明書		
	学位取得証明書	1 通200円	
学階 予試・本試免除推薦書			
本願寺派学階課程 所定科目修得証明書	1 通200円		
その他各種証明書・推薦書等			
1週間後交付 (土日含まず)	卒業・学業成績証明書	1 通200円	
	学力に関する証明書	1 通200円	
	英文証明書	1 通300円	
	調査書	1 通100円	

(注1) 交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

(注2) 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

(注3) 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは文学部掲示板でお知らせします。

(注4) 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

(注5) 17時以降の受付は、翌営業日付の受付になります。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL <http://www.ryukoku.ac.jp> (本学ホームページ) の (対象者別ガイド) 「卒業生の方」 - 「証明書の発行」の「各種証明書発行について」からアクセスできます。

① 郵送で申請する場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

<p>◆証明書に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 ・証明書の提出先 <p>◆申請者に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名(在学時から姓から変更がある場合は、旧姓もご記入ください) ・生年月日 ・出身学部、学科名(文学部は専攻名) ・学籍番号 ・卒業年度 ・連絡先(現住所)(郵便番号を含む) ・電話番号 ・証明書送付先(連絡先と同じ場合は記入不要です。) ※原則として証明書の送付は本人宛に限ります。 	<p>◆同封が必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 (返信に必要な切手を貼付してください。) ・手数料 (手数料は同額の切手でも納金できます。) ・身分証明書のコピー (運転免許証、健康保険証、パスポート等のいずれか)
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② 直接、来学する場合

直接、来学して窓口で申請する場合は、身分証明書(運転免許証・健康保険証・パスポート等のいずれか)を持参の上、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入し、文学部教務課窓口へ申請してください。文学部は原則として2日後(土・日・祝日・夏期・冬期休業日を除く)の交付となります。※窓口取扱時間(P. 13参照)をご確認ください。

(4) 学校学生生徒旅客運賃割引証(以下、「学割証」)(手数料無料、即日交付)

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に1人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、文学部教務課窓口で相談してください。

◆ 学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア. 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ. 学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、既交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ. 学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃

の2割引、有効期間は発行日から3カ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口へ提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合 ……文学部教務課窓口

クラブやサークルの場合 ……学生部

2. 各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。（学生証の取り扱いについては、P. 178参照してください）また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、文学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金	8:45～21:45
		土	8:45～17:15
	紫英館1階文学部教務課窓口	月～金	8:45～17:15 (但し、火曜日は10:30～)
	紫光館1階ロビー	月～土	8:45～17:15
大宮	西翼（新館）1階ロビー	月～金	8:45～20:15
		土	8:45～17:15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9:00～17:30
	9号館農学部教務課前	月～金	9:00～17:30
	6号館社会学部教務課	月～金	9:00～17:30 (但し、火曜日は10:30～)
大阪・梅田 キャンパス	フロア	月～金	10:00～18:30 就職活動繁忙期は、 10:00～19:00です。

(注意事項)

- ・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。

※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。

- ・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
- ・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間等については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
- ・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続きが必要となりますので、各自が所属する文学部教務課窓口で申請してください。

- ・ 学生証の再発行手続きが生じた場合、文学部教務課窓口申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、文学部教務課窓口提出してください。
- ・ 証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。
- ・ 夜間時間帯および土曜日において、証明書自動発行機に故障が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

3. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに文学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について講義担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

4. 教員との面談・オフィスアワー

教員と面談したい場合は深草学舎は6号館（紫英館）面談ホール受付、大宮学舎は西麓講師控室を訪れてください。オフィスアワーの一覧はポータルサイトでお知らせします。

一覧に名前のない先生については、授業の前後に講師控室や授業後の教室にて質問をしてください。

II. 授業休止の取り扱い基準 (交通機関の不通、警報発令等の場合の授業についての取り扱い)

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令された場合は、この基準に従ってください。

1. 全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

(a) 下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。

対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

- ① JR (米原～西明石)
- ② 京都市営バス・京都市営地下鉄 (全区間)
- ③ 京阪電車 (出町柳～淀屋橋)
- ④ 阪急電車 (河原町～梅田、梅田～三宮)
- ⑤ 近鉄電車 (京都～橿原神宮前)

※ ただし、瀬田学舎はJR (京都～米原) または帝産湖南交通 (JR瀬田駅～龍谷大学) のいずれか1つの運行が中止された場合も休講とします。

(b) 以下のいずれかの地域に暴風警報、特別警報 (大雨、暴風、高潮、波浪、大雪、暴風雪)、特別警報に位置づける警報 (地震・津波・噴火) が発令された場合、その時点でただちに全学休講とします。

- (地域)
- ① 京都府南部 (京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部)
 - ② 大阪府 (北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内)
 - ③ 滋賀県南部 (近江南部、東近江、甲賀)

2. 授業の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報解除の場合は、次のとおり授業等を実施します。

運行開始の時刻および 警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前6時まで	1 講時から平常どおり実施
午前10時まで	3 講時から平常どおり実施
午後2時まで	6 講時から平常どおり実施
午後2時以降	終日休講

3. その他の注意事項

- (1) 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
- (2) 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

■暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が出された場合に全学休講となる区域について

本学の「授業休止の取扱基準」第1項(b)で規定している区域は、気象庁の発表区域に従えば、以下のとおりとなります。

気象庁は、警報・注意報を二次細分区域で発表しますが、これを受けてメディア等では、簡潔かつ効果的に情報を伝えるために、状況に応じて「一次細分区域」、「市町村等をまとめた地域」、「二次細分区域」のいずれかによって該当する区域をお知らせします。下表のいずれかに暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令されているか確認するようにしてください。

【一次細分区域】	【市町村等をまとめた地域】	【二次細分区域】
京都府南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
	京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部	宇治市、八幡市、城陽市、京田辺市、久御山町 宇治田原町、井手町
	山城南部	木津川市、和束町、精華町、笠置町、南山城村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市 箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市 大東市、柏原市、門真市、東大阪市 四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市 羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町 河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市 和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町 熊取町、田尻町、岬町
滋賀県南部	東近江	近江八幡市、東近江市、竜王町、日野町
	近江南部	野洲市、守山市、草津市、栗東市、大津市南部
	甲賀	甲賀市、湖南市

【注】二次細分区域は、市町村を原則としますが、一部の市町村では、それらが分割されて設定されるケースがあります。本学「授業休止の取扱基準」で規定する区域では、大津市がこれに該当し、北部と南部に分割され、大津市南部のみが基準の該当区域となります。
(大津市北部に暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令されても全学休講とはなりません)

Ⅲ. 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありませんから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

X	15	0	001
L：文学部	入学年度(西暦)の下2桁	学生区分(主たる学生区分を記す)	学部内における個人番号
E：経済学部		学部生：0～7	
B：経営学部		編転入生：8	
J：法学部		再入学生：9	
T：理工学部		修士課程：M	
C：社会学部		博士後期課程：D	
W：国際文化学部		短大専攻科生：A	
H：政策学部		専門職学位課程生：F	
U：国際学部		研究生：R	
N：農学部		特別専攻生：S	
S：短期大学部		科目等特別履修生：U	
F：法科大学院		科目等履修生：V	
M：実践真宗学研究科			
R：留学生別科			
(以上14字のいずれか)			

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。ただし、頭のアلفベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、学籍簿(入学手続き時

に各自が提出した書類)が編成されます。学籍簿に記載される事項(本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等)は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の文学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ア 学業成績表を受領するとき。
 - イ 試験を受けるとき。
 - ウ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - オ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - カ 図書館を利用するとき。
 - キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。(新生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証に指定された場所に各自貼ってください。)

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新たなシールを貼ってください。

また、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに文学部教務課窓口へその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに文学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを文学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに文学部教務課窓口へ返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。

依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出ることはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

イ 当該学期分の学費を納入していること。（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。）

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。

イ 在学し得る年数（180頁参照）以内に卒業できないとき。

ウ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヵ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により願い出ること。

- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに文学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。

- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ウ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

6. 修業年限

修業年限が次のとおり定められており、これを超えて在学することはできません。修業年限内に卒業できない場合は除籍になります。また、休学期間は修業年限に算入しません。

1年次入学生：8年間

3年次編入学生・転入学生：6年間

再入学生：再入学年次に該当する年限（例えば4年次再入学なら5年間）

7. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります。（学則第14条）ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

8. 転入学

本学の他学部（学科）、他大学への転入学をすることになった場合は、その旨を文学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次（理工学部のみ）に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則18条の3）

9. 9月卒業について

第1学期（前期）末（9月末日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が9月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます。（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）詳細については文学部教務課窓口で相談してください。

IV. 留 学

龍谷大学では、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、グローバル教育推進センター（深草学舎和顔館）で配布している「留学ガイド」やグローバル教育推進センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

1. 交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学在籍料は必要）、留学先大学の学費免除が受けられます。

募集案内、応募方法、学生交換協定校などは、グローバル教育推進センターで配布している「留学ガイド」やグローバル教育推進センターホームページを参照ください。

2. ^{ビーアイイー}BIE Program留学

BIE Program (Berkeley Intercultural English Program) は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center（アメリカ・バークレー）を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習、Community Service Learning（ボランティア活動）、講義を組み合わせたプログラムで5-week（5週間）とSemester（半年間）の2つのプログラムが年間2本ずつ（合計4本）あります。

留学期間は在学期間に算入され、5-weekプログラムは学部最大6単位、Semesterプログラムは学部最大18単位まで認定可能です。

	留学期間	募集時期
5-week summer program	8月上旬～9月中旬	4月頃
5-week spring program	2月中旬～3月下旬	9月～10月頃
Fall semester program	9月下旬～2月中旬	4月頃
Spring semester program	3月下旬～7月下旬	9月～10月頃

★単位認定について

■5-week summer program、5-week spring program

1. 上限認定単位 : 6単位
2. 単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
Integrated Skills	2	バークレー語学	教養 (共同)
浄土真宗センターにおける開講科目	2	バークレー講義	教養 (共同)
インターンシップ I	2	バークレーインターンシップ★ バークレーボランティア★	※

※バークレーインターンシップ・バークレーボランティアの単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目（共同開講科目）いずれかの分野への認定を選択することができます。専攻科目で単位認定された場合は【選択専攻科目】、教養教育科目（共同開講科目）で単位認定された場合は【教養科目（プログラム科目）】として扱われます。

★「インターンシップ I」の認定科目名は、2011年度までは「バークレーインターンシップ」、2012年度以降は「バークレーボランティア」となります。

■Fall semester program、Spring semester program

1. 上限認定単位 : 18単位
2. 単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
①Integrated Skills	10	英語 I ※	教養 (共同)
②Integrated Skills (もしくはBusiness English)		英語 II ※	教養 (共同)
③Communication Skills		バークレー語学 ※	☆
浄土真宗センターにおける開講科目	4	バークレー講義	☆
インターンシップ II	4	バークレーインターンシップ★ バークレーボランティア★	☆

※留学期間中に配当される Semester 分の必修外国語（英語）として単位認定可能です。また、未履修である必修外国語（英語）についても認定が可能です。必修外国語（英語）認定後の余剰分の単位については「バークレー語学」として単位認定を行います。

☆バークレー語学・バークレー講義・バークレーインターンシップ・バークレーボランティアの単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目（共同開講科目）いずれかの分野への認定を選択することができます。

★「インターンシップ I」の認定科目名は、2011年度までは「バークレーインターンシップ」、2012年度以降は「バークレーボランティア」となります。

3. 私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、毎年多くの学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留

学手続き等は各自で行うことです。手続前に各学部教務課や指導教員と相談して下さい。

4. 短期留学

カリキュラムやクラブ活動等の関係で長期間、大学を離れることができない学生には、夏期休暇や冬期休暇を利用した短期留学がお勧めです。

龍谷大学では、これら長期休暇を利用した語学研修や異文化体験等のプログラムを設けています。(各プログラムの開講は年度によって異なります。) 詳細はグローバル教育推進センター、文学部教務課に問い合わせして下さい。

(1) 海外研修

【単位認定についての問い合わせ先：文学部教務課、プログラムの内容についての問い合わせ先：グローバル教育推進センター】

①科目の趣旨

この科目は、通常の開設科目とは異なり、米国及び英国等の大学がもつ英語集中プログラムに学生が自主的に参加して、そこで得た成績に対して文学部が評価を与えるものです。

4月中旬に説明会を予定しています。

②対象学生

文学部3年次以上の正規学生

③科目名等「海外研修」

選択専攻科目として卒業要件単位となり、2010年度以前入学生においては、自由選択コースの「実用英語コース」の科目となります。

④認定単位

4単位(履修制限単位には含まれません)

⑤研修先(説明会時に発表します)

⑥履修申し込み手続き

履修希望者は、説明会に出席し、具体的な手続きを進めてください。

⑦成績評価

研修先で得た成績に対して文学部が評価します。帰国後研修先で得た「修了証明書」等を文学部教務課窓口へ提出して下さい。

⑧研修期間

4週間から6週間

⑨研修費用

各大学とも授業料は1,000ドル程度

(2) 海外中国語研修講座(教養教育(共同開講)科目で2単位)

【単位認定についての問い合わせ先：教学部、プログラムの内容についての問い合わせ先：グローバル教育推進センター】

(3) 国際文化交流研修【問い合わせ先：文学部教務課】

ア. 科目の趣旨

この科目は、通常の開設科目とは異なり、学生が自主的に行う海外での国際文化交流に対して単位を認定するものです。大学がお膳立てしたパック研修ではなく、学生の個性と自主性にもとづいた国際文化交流（短期研修・語学研修・個人留学・交換留学等）を評価し、単位を認定します。研修旅行や留学の目的・期間・行先等を、学生自身で計画し、実行することができます。履修登録を希望する学生は、定められた手続きにしたがってください。

①対象学生 文学部1年次以上の正規学生

②科目名等 「国際文化交流研修」

選択専攻科目として卒業要件単位となり、自由選択コースの「比較思想・宗教コース」「文化財コース」「実用英語コース」のいずれかの科目となります。

③認定単位 2～8単位（履修制限単位に含まれません）

※次の基準で単位数は定められています。

2単位：3週間程度の研修期間で、4,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

4単位：5週間程度の研修期間で、8,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

8単位：6か月以上の正規留学期間で、12,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

※8単位以内であれば、単位を分割して複数回同科目を履修登録することができます。ただし、在学中修得できるのは8単位が上限です。

イ. 履修申込手続き

①所定の「国際文化交流研修計画書」を掲示・ポータルサイトでお知らせする期日までに文学部教務課窓口へ提出してください（期限厳守）。この計画書の内容にもとづいて、履修登録の許可が判定されます。5月中旬に許可判定結果を発表しますので、許可された者だけが正式な履修登録者となります。

②履修登録許可発表内容

(ア) 履修登録の可否（50名程度の許可を予定）

(イ) 単位数

(ウ) 指導教員

(エ) 「比較思想・宗教コース」「文化財コース」「実用英語コース」のいずれかの科目に指定

③正規留学（個人留学または交換留学）でこの科目を履修登録しようとする場合は、以上の手続きとは異なります。個別に対応するので、留学前の早い時期に文学部教務課窓口へ申し出てください。

ウ. 研修先・研修期間

- ①研修先は海外であるならば、特に限定はありません。
ただし、必ず海外で国際文化交流研修を行わなければなりません。
- ②研修期間は次の2通りに分けられます。
 - 1) 正規留学ではない短期研修の場合は、授業期間外及び定期試験期間外を研修期間としなければなりません。必然的に、夏期休業中が主な研修期間になります。しかし、通常の授業科目履修の障害とならない研修期間の設定が他にある場合は、文学部教務課窓口にご相談してください。
 - 2) 正規留学（個人留学または交換留学）として本学において認められた場合は、その留学期間が研修期間に該当します。

エ. 海外旅行傷害保険の加入

履修登録の許可された学生は、必ず海外旅行傷害保険に加入してから研修に出発してください。

オ. 単位認定・成績評価

- ①履修登録を許可された学生は帰国した後、海外での国際文化交流で得た成果を「国際文化交流研修報告書」にまとめて、掲示・ポータルサイトでお知らせする期日までに文学部教務課窓口へ提出してください（期限厳守）。報告書には所定の表紙があるので報告書提出前に文学部教務課窓口で受け取ってください。なお、「国際文化交流研修報告書」の提出がなかった場合の評点は「0点」となります。
- ②研修先で「修了証明書」等が交付されている場合は、「国際文化交流研修報告書」とともに提出してください。
- ③「国際文化交流研修報告書」には指定の様式はありません。認定単位数に応じた字数となるように、自由に報告書を作成できます。
- ④単位認定結果・成績評点については、卒業年次生に対しては卒業判定とともに郵送します。それ以外の学生は、年度始めに配布する成績表を見てください。
- ⑤履修登録許可時に発表された単位数は、提出された「国際文化交流研修報告書」の内容に応じて変更されることがあります。

5. 個人留学（休学して留学する）

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間に算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間（ないし半年間）海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

6. 交換留学・私費留学における単位認定

- (1) 認定の上限及び分野：原則として、言語（外国語）科目、選択専攻科目、フリーゾーンの範囲内
- (2) 1単位の認定にあたっての学修時間の目安
 講義科目：675分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回÷2）
 語学科目・実技科目：1,350分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回）

★留学にあたって必要な書類

（※印のあるものは単位認定にあたって必要な書類です。希望者のみ提出してください）

【出発前】注）単位認定を希望する場合は出発前に手続きを行ってください。

書 類	所定用紙	提 出 先
渡航方法連絡票・滞在先連絡票	グローバル教育推進センターHP	交換留学→グローバル教育推進センター 私費留学→文学部教務課
※単位認定の申込について	文学部教務課	文学部教務課
※国際文化交流研修の申込について		
※国際文化交流研修計画書		
卒業保留願い（卒業年次生のみ） 注1		
学業成績表送付用封筒 注2		

注1）卒業要件単位を全て満たしている卒業保留希望者は、原則として帰国後の単位認定は行いません。

注2）郵送希望住所（日本国内）を記入してください。

【帰国後】

書 類	所定用紙	提 出 先
留学生帰国報告書	グローバル教育推進センターHP	交換留学生→グローバル教育推進センター
留学帰国レポート	グローバル教育推進センターHP	私費留学→文学部教務課→グローバル教育推進センター
成績証明書	留学先大学	文学部教務課→グローバル教育推進センター
修了証明書		
※単位認定申請書	文学部教務課	文学部教務課
※講義科目報告書		
※国際文化交流研修報告書（レポート）		
※履修科目の登録確認表等（時間割・単位数等が記入されたもの）	留学先大学	
※学年暦		
※シラバス		
※受講時間割		

☆卒業年次生で帰国後卒業を希望する学生の書類提出期日は1月末日です。

(3) 卒業年次に留学する場合の注意点

留学終了後直ちに卒業するためには次の条件をすべて満たす必要があります。

- ①留学終了後に認定が確実な科目を除いて、卒業年次の残単位数が「卒業論文」および「演習Ⅱ」の8単位以下であること。
- ②卒業論文の内容が、留学先での勉学と密接に関係があり、留学先の教員による論文作成指導を受けることができること。
- ③留学中においても、文学部指導教員および文学部教務課と定期的に連絡をもてるようにすること。

一番よくある問い合わせ

(4) 後期から留学する場合の演習科目の取扱い

前期に演習科目を登録しているので、後期から1年間留学すると通年科目の登録が無効となります。しかし、指導教授が認めた場合、演習科目に限っては、帰国後、後期に演習科目の後期開講部分を履修することにより単位を認定することができます。ただし、対象となる科目は「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」の5科目に限られています。詳細については、文学部教務課に相談に来てください。

V. 心身ともに健康な学生生活を送るために ～保健管理センターの利用について～

1. 保健管理センターについて

【主な業務】

- (1) 健康管理業務
 - ①健康診断および健康診断後の保健指導
 - ②健康に関する相談
 - ③精神科医、心理カウンセラーによるメンタルヘルス相談
 - ④健康に関する調査・研究・教育
- (2) 健康増進活動業務
 - ①健康増進のための各種セミナーや学習会の開催
 - ②禁煙教育とサポート
- (3) 診療業務
 - ①診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
 - ②応急処置
 - ③外部医療機関紹介

2. 定期健康診断について

【検査項目】

- *身長、体重、胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖）、問診、視力（対象者のみ）、内科診察（必要時）

【実施時期など】

- *4月の第1～2週目に実施します。指定された日に受けてください。指定日に受けられない場合は、他学部の同学年の同性の指定日に受検してください。
- *大学での健康診断実施日程終了後は保健管理センターでの健康診断を行いませんので、必ずこの期間内に受検するよう注意してください。
- *勤務先で健康診断を受ける方は結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
- *詳細は掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は発行できません。

【健康診断証明書について】

- *「健康診断証明書」は自動発行機で発行します。用途は就職活動や本学に提出する各種実習受講、奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

*進学や大会参加、アルバイトなどで使用する健康診断書は医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので、指定用紙や要項を持参の上、余裕をもって申し込んでください。

4. 保健管理センターの利用について

①応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時、看護師が応急処置や静養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は外部医療機関を紹介します。

②健康相談

健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

③保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。

大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL：<http://www.ryukoku.ac.jp/hoken>

【開室時間】

〔深草学舎・大宮学舎〕 8：45～17：15

〔瀬田学舎〕 9：00～17：30

※休業期間等は開室時間の変更があります。

5. 診療所について

【診療科名】内科・精神科

【診療日及び時間】詳細は保健管理センターのホームページで確認してください。

【費用】診療には「健康保険証」が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※扶養者と別居している方で、ご自身の健康保険証を持ってない方は「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「SOSサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

6. 学生相談（こころの相談室）について

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人関係、学業・進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談は予約制（無料）です。相談の申込は、下記受付窓口まで電話していただくか、またはポータルサイト上でのweb予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」の

ホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。

【受付窓口】

「こころの相談室」への問い合わせは、下記までご連絡ください。

月～金曜日 9:00～17:00 (12:30～13:30を除く)

(1) 深草学舎・大宮学舎

電話 075-642-1111(代表) 内線1254

(2) 瀬田学舎

電話 077-543-5111(代表) 内線7781

*** なんでも相談室もあわせてご利用ください ***

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎は学生部内に、大宮学舎は西翼2階に「なんでも相談室」を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※学生部の「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

7. 健康増進のための学習会やイベントについて

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会や健康に関するさまざまなイベントなどを行っています。詳細については、ホームページやポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

Ⅵ. 大学院文学研究科・実践真宗学研究科について

1. 大学院について

龍谷大学は、9つの研究科を設置しています。

9専攻を擁する文学研究科（修士課程・博士後期課程）は、各分野のエキスパートである指導教員と、国内外に知られた豊富な蔵書があり、各自の専門分野の研究を深く究めることができます。

実践真宗学研究科（修士課程）は、複雑化・多様化する現代の問題に、実践的・具体的に臨む宗教者のあり方を学修し、社会的実践者にふさわしい高度な専門的素養の修得を目指します。

2. 入学試験について

※入学試験の実施時期等は、2014年度までの実績です。入学試験に関する詳細については、大宮学舎文学部教務課（大学院窓口）へお尋ねください。

（1）文学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）に加え、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を秋期試験（9月）、春期試験（2月）の年2回実施しています。

（2）実践真宗学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）、グループ討論、レポート、専門科目、面談で実施する自己推薦入試（9月～11月）、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を2月に実施しています。

3. 文学部生の大学院文学研究科開講科目の早期履修制度について

本学文学部卒業年次生のうち、本学大学院文学研究科へ進学する者で、特に優秀で勉学意欲の旺盛な者に対する教育上の特例措置として、学士課程における修学に支障のない範囲で、本学大学院文学研究科科目の履修を認める制度です。

対象科目、申請時期、単位認定等の詳細については、履修登録期間に文学部教務課掲示板等でお知らせします。

〈付 録〉

アカデミック・リテラ
シー・ルーブリック
卒業論文ルーブリック

「ルーブリック」について

ルーブリックとは評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」により構成されたものです。ルーブリックを活用することにより、学修の目標が明確にされます。また、先生と学生の皆さんの双方が現時点の達成水準を客観的に把握することができます（中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012年8月28日参照）。

卒業論文ルーブリックは文学部の4年間の学修の集大成である卒業論文の自分の達成水準を知るために使うものです。また、アカデミック・リテラシー・ルーブリックは文学部の皆さんが卒業の時までに備えてほしい基礎的な能力です。いずれも右の列に行くほど達成水準が高くなっていきます。これらのルーブリックを活用することで、学生の皆さんが卒業時までに習得していかなければならない能力を事前に知るとともに、今自分がどの位置にいるのかを知ることができます。

なお、ここで示したルーブリックはあくまでも一例です。これによる評価が皆さんの単位認定に関わる評価にそのまま結びつくとは限りません。特に、卒業論文ルーブリックについては各学科専攻の形式に合わせた形ものをスタディガイドに掲載しています。詳しいことは学科・専攻の教員の指示に従ってください。

【2014年度以前入学生用】文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック

- * 1 このアカデミックスキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の文学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。
- * 2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

	学位授与の方針	相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
建学の精神	仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。	大学の主催する宗教行事などに全く参加しておらず、建学の精神も理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにあまり参加しておらず、建学の精神があまり理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにある程度参加し、建学の精神を理解しようと努めている。	大学の主催する宗教行事などに積極的に参加し、建学の精神を体現・実行できている。
	建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。				
知識・理解	人間社会の根本を見つめるために、「言語（ことば）」の持つ力を深く理解することができる。	「言語（ことば）」の持つ力をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が必ずしも理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が深く理解できている。
	テキストの正確な読解に基づいた、人文学の幅広い教養を身につけている。	テキストの読解ができず、教養の学修も進んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストが正確に読解できず、教養の学修も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、一定程度テキストの読解ができ、幅広い教養を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストの正確な読解ができ、幅広い教養が身につけている。
	幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。	多様な領域からの見解をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解をあまり深く理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を深く理解できている。
思考・判断	人間や社会の諸問題について主体的・積極的に判断し、対応できる。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について必ずしも積極的に取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について一定程度取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。
	課題の探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。
	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。	多様な思考力・判断力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が身につけている。
興味・関心	人文学の知に基づいて、人間社会の営みに対する問題意識を持つことができる。	現代社会の諸問題にまったく問題意識を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に必ずしも明確な問題意識を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に何らかの問題意識を持っている。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に明確な問題意識を持っている。
	人間とそれをとりまく環境について、探求心を持って具体的な課題設定ができる。	人間と環境についてまったく課題を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について必ずしも明確な課題を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について一定の課題を持っている。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について明確な課題を持っている。
態度	人間社会の諸問題に対して、人文学の知に基づいて積極的に解決しようとする姿勢を持つことができる。	現代社会の諸問題に取り組む姿勢がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に取り組む姿勢が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に取り組む姿勢がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に積極的に取り組む姿勢が身につけている。
	多様な価値観を認めつつ、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。	多様な価値観に対する理解がなく、共生の理念に対する理解がない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が明確に理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解を持ち、共生の理念が体現できている。
	外国語を自立的に学習する態度を身につける。	外国語学修にまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語学修に必ずしも積極的に取り組んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語学修にある程度積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語学修に積極的に取り組んでいる。
技能・表現	日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝えるための方法を習得し、実践することができる。	正確な日本語能力がなく、自らの意見を伝えることができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、日本語能力を持ち、自らの意見などを伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見をわかりやすく伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見をわかりやすく伝えることができる。
	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用するための基礎的な知識・技能を習得する。	情報収集能力がなく、活用することもできない。	学科・専攻の教育理念に基づき、情報収集能力を持ち、なんとか活用することができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な情報収集能力を持ち、活用することができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、高い情報収集能力を持ち、有益に活用することができる。
	他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。	他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけている。
	英語を媒介とした知的情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力を実現する。	英語による知的情報の受信・発信能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語による情報の受信・発信能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語による知的情報の受信・発信能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語による知的情報の受信・発信能力が身につけている。
	任意の外国語一つ（英語を除く）について、基本レベルの聞き取り、読み書き、口頭表現ができる。	英語以外の外国語について、コミュニケーション能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語以外の外国語について、コミュニケーション能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語以外の外国語について、ある程度のコミュニケーション能力が身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語以外の外国語について、一定レベルのコミュニケーション能力が身につけている。

【2015年度入学生用】文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック

- * 1 このアカデミックスキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の文学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。
- * 2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

	学位授与の方針	相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
建学の精神	仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。	大学の主催する宗教行事などに全く参加しておらず、建学の精神も理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにあまり参加しておらず、建学の精神があまり理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにある程度参加し、建学の精神を理解しようと努めている。	大学の主催する宗教行事などに積極的に参加し、建学の精神を体現・実行できている。
	建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。				
知識・理解	人間社会の根本を見つめるために、「言語（ことば）」の持つ力を深く理解することができる。	「言語（ことば）」の持つ力をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が必ずしも理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が深く理解できている。
	テキストの正確な読解に基づいた、人文学の幅広い教養を身につけている。	テキストの読解ができず、教養の学修も進んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストが正確に読解できず、教養の学修も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、一定程度テキストの読解ができ、幅広い教養を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストの正確な読解ができ、幅広い教養が身につけている。
	幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。	多様な領域からの見解をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解をあまり深く理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を深く理解できている。
	幅広く社会全体を見渡す視野を持ち、現代社会において何が問題であるかを認識することができる。	現代社会において何が問題であるかを認識できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会において何が問題であるかをあまり認識できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会において何が問題であるかを一定程度認識できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会において何が問題であるかを認識できている。
思考・判断	人間や社会の諸問題について主体的・積極的に判断し、対応できる。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について必ずしも積極的に取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について一定程度取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。
	課題の探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。
	幅広い分野の知識・理解をもとに、論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。	多角的な思考力・判断力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多角的な思考力・判断力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多角的な思考力・判断力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多角的な思考力・判断力が身につけている。
興味・関心	人文学の知に基づいて、人間社会の営みに対する問題意識を持つことができる。	現代社会の諸問題にまったく問題意識を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に必ずしも明確な問題意識を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に何らかの問題意識を持っている。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に明確な問題意識を持っている。
	人間とそれをとりまく環境について、探求心を持って具体的な課題を設定することができる。	人間と環境についてまったく課題を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について必ずしも明確な課題を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について一定の課題を持っている。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について明確な課題を持っている。
	言語の学修を通じて、世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できる。	世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、必ずしも世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、一定程度、世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できている。
態度	人間社会の諸問題に対して、人文学の知に基づいて積極的に解決しようとする姿勢を持つことができる。	現代社会の諸問題に取り組む姿勢がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に取り組む姿勢が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に取り組む姿勢が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に積極的に取り組む姿勢が身につけている。
	多様な価値観を認め、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。	多様な価値観に対する理解がなく、共生の理念に対する理解がない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が明確に理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解を持ち、共生の理念が体現できている。
	他者との交流や異なる価値の受容を通じて、とらわれがちな見方を解放し、他者との協働により自己を客観視することができる。	他者との協働により自己を客観視することができていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、必ずしも他者との協働により自己を客観視することができていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、一定程度、他者との協働により自己を客観視することができている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との協働により自己を客観視することができている。
	自律的に学習し続ける態度を身につけている。	自律的に学習し続ける態度を身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、必ずしも自律的に学習し続ける態度が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、自律的に学習し続ける態度が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、自律的に学習し続ける態度を身につけている。
技能・表現	日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を習得し、実践することができる。	正確な日本語能力がなく、自らの意見を伝えることができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、日本語能力を持ち、自らの意見などを伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見をわかりやすく伝えることができる。
	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用するための基礎的な知識・技能を習得する。	情報収集能力がなく、活用することもできない。	学科・専攻の教育理念に基づき、情報収集能力を持ち、なんとか活用することができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な情報収集能力を持ち、活用することができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、高い情報収集能力を持ち、有益に活用することができる。
	他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。	他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけている。
	知的情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力の基礎を身につけている。	コミュニケーション能力の基礎が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、コミュニケーション能力の基礎が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、コミュニケーション能力の基礎が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、コミュニケーション能力の基礎が身につけている。

卒業論文ルーブリック

※卒業論文にかかわる学修進度の目安です。あくまで一例ですから、詳細は各学科・専攻の教員の指導に従って下さい。

		1	2	3	4	5
先行研究		国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題設定		問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
資料	選択	適切ではない資料を使用しているか、資料を使用していない。	適切な単一の資料(翻訳)を使用している。	適切な単一の資料(原語)を使用している。	適切な複数の資料(翻訳)を使用している。	適切な複数の資料(原語)を使用している。
	読解	ほぼ全体を通して、資料を正しく読解できていない。	資料が正確に読解できている部分とできていない部分が半々である。	7割方読解できている。	若干の問題はあるが、ほぼ正確に資料を読解できている。	資料を正確に読解できている。
	分析	資料が適切に分析できていない。	概ね適切に分析できているが、説明が不十分である。	概ね適切に分析し、それを説明することができている。	資料を適切に分析できているが、説明が不十分である。	資料を正確に分析し、それを十分に説明できている。
考察		資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。
表現	文章化	伝達したい内容を的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、あまり的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、7割方は的確に文章化できている。	伝達したい内容をほぼ的確に文章化できている。	伝達した内容を全体的に文章化できている。
	誤字・脱字	誤字・脱字が非常に多い。	誤字・脱字がやや目立つ。	誤字・脱字が3、4箇所ある。	若干(1、2箇所)の誤字・脱字がある。	誤字・脱字が全くない。
基本的技術	典拠・典拠箇所の明示	典拠・典拠箇所が殆ど明示されていない。	典拠は示されているが、典拠箇所が明示されていない。	典拠・典拠箇所の明示が欠けている部分がある。	典拠・典拠箇所がほぼ明示されている。	典拠・典拠箇所が全て明示されている。
	参考文献表の作成	参考文献がリスト化されていない。	参考文献表に欠落・余分があり、書式も適切ではない。	適切な書式ではあるが、参考文献表に欠落・余分がある。	参考文献表に欠落・余分はないが、書式が適切ではない。	適切な書式で、欠落・余分なく参考文献表が作成されている。
	論文の書式	指定の書式に全く従っていない。	指定の書式にあまり従っていない。	指定の書式に7割方従っている。	指定の書式にほぼ従っている。	指定の書式に全て従っている。

編集発行

龍谷大学文学部教務課

(大宮学舎)

〒600-8268 京都市下京区七条大宮東入大工町125番地の1
TEL (075) 343-3311 (代表)
FAX (075) 343-4302

(深草学舎)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL (075) 642-1111 (大代表)
FAX (075) 645-6444

<http://www.ryukoku.ac.jp/>

